



神戸大学データ資料集 2018

—データと資料が語る神戸大学の今の姿—



ハイライトDATA

概要

1. 概要・ランキング … 1

教育

2. 学生数 … 4
 3. 学部一般選抜志願状況 … 6
 4. 入学状況 -学部- … 9
 5. 入学状況 -大学院- … 11
 6. 学位授与状況 -授与率- … 13
 7. 進路・就職状況 … 15
 8. 資格試験合格状況 … 24
 9. 学生生活状況 … 26

研究

10. 研究論文 … 28
 11. 科学研究費 … 34
 12. 日本学術振興会特別研究員 … 39
 13. 研究プログラムの採択状況 … 40
 14. 研究業績に関する主な受賞者等一覧 … 43

産学官連携

15. 産学官連携状況 … 44
 16. 国内の大学等との連携協定 … 48
 17. 連携大学院等実施状況 … 49
 18. 教育関係共同利用拠点 … 51

国際

19. 留学 … 53
 20. 海外大学との交流状況 … 57
 21. 研究者等交流状況 … 60
 22. 国際化の状況 … 61

附属病院

23. 附属病院 … 63

附属学校

24. 附属学校 … 66

社会貢献

25. 公開講座等 … 67
 26. 学外機関への参画状況 … 68

教職員

27. 教員 … 69
 28. 職員 … 72

財務

29. 財務 … 73

附属図書館・その他一般開放施設

30. 附属図書館・その他一般開放施設 … 80

表紙写真：社会科学系図書館
 表紙裏写真：海事博物館

神戸大学データ資料集2018 ハイライトDATA

「神戸大学データ資料集2018-データと資料が語る神戸大学の今の姿-」は、本学の教育・研究・社会貢献等についての現状を表やグラフ等で示したものです。本ページでは、その中でも特徴的なデータを挙げております。

<教育> 学部一般選抜志願状況

2017年度入試における本学の志願者数は**10,024人**、志願倍率は**4.3倍**であり、志願倍率は大規模13大学間で**3位**であった。

※国立大学間で学部入学定員の上位13大学を「大規模13大学」と定義する。
志願倍率 1位 千葉大学 5.5倍、2位 筑波大学 4.7倍

データ資料集
P 7 へ

<研究> 高被引用論文数

2013年から2017年の**被引用数上位1%論文数**は**121篇**、その**割合は1.47%**であり、論文数・割合ともに顕著に増えている。

データ資料集
P 29 へ

<産学官連携> 共同研究・受託研究の状況

本学の共同研究・受託研究については、いずれも順調に件数を伸ばしており、2017年度の契約件数は共同研究が**683件**、受託研究が**410件**、契約金額は共同研究が**14億5200万**、受託研究が**34億2500万**となっており、特に共同研究の契約金額は2016年度の約1.5倍となった。

データ資料集
P 44 へ

<国際> 外国での教育研究経験を有する教員数の割合

本学は外国人教員等の総教員数に対する割合が高く、専任教員数**1,637名**のうち**635名**が該当し、全体の**38.8%**を占める。

※外国人教員等数：外国籍の教員に加え、外国の大学での学位取得、通算1年以上教育研究に従事した日本人教員を含む

データ資料集
P 61 へ

<附属学校> 海外交流事業

2015年度から中等教育学校においてSGH（スーパーグローバルハイスクール事業）に採択されており、2017年度の**海外派遣生徒数**が延べ**250人以上**となった。

データ資料集
P 66 へ

1. 概要・ランキング

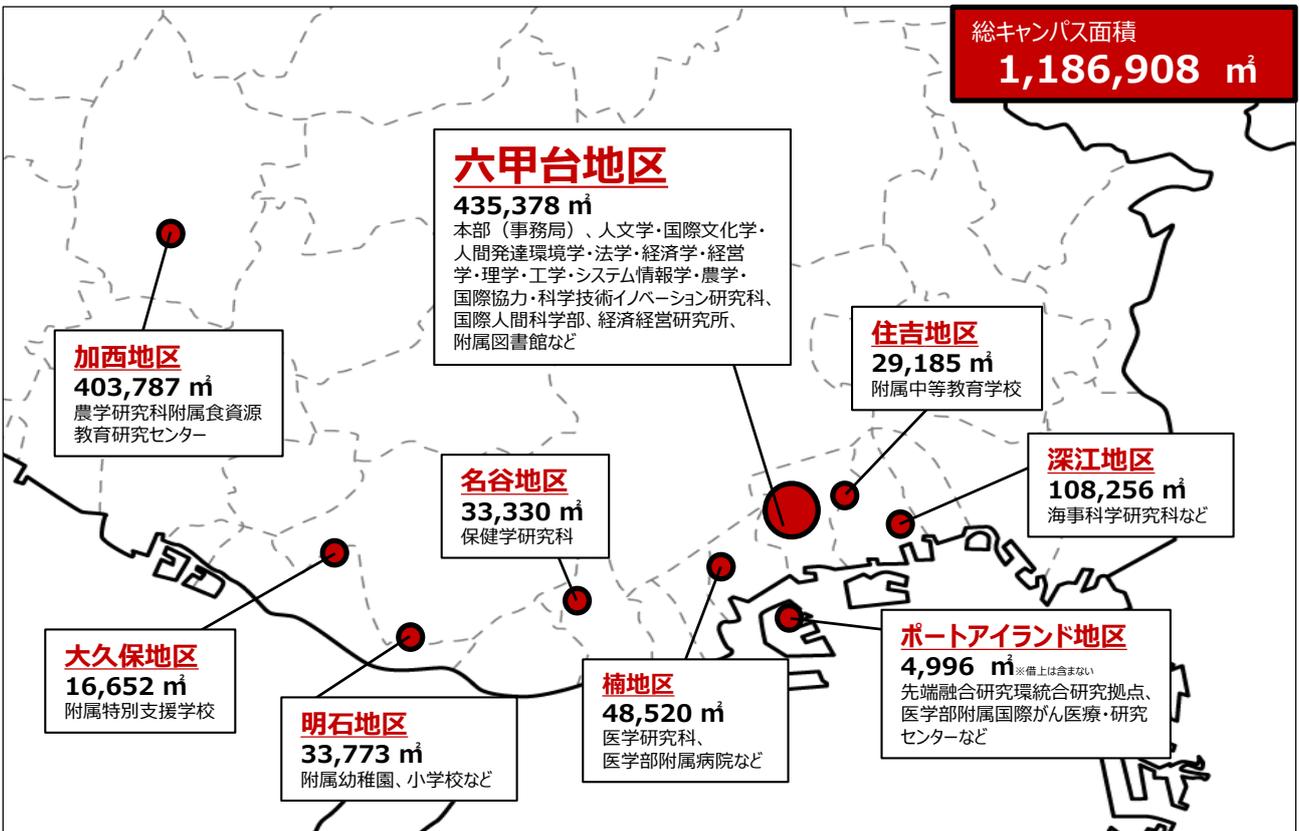
1-1 神戸大学の概要

2018年5月1日現在

区 分		入学定員 (注1)	入学者数	総定員	在籍者数 (女子内数)		
学生等数	学部	2,670	2,738	10,681	11,596	(4,219)	
	大学院	修士課程・博士課程前期課程	1,258	1,260	2,502	2,709	(911)
		博士課程・博士課程後期課程	395	321	1,245	1,642	(553)
		専門職学位課程	149	136	378	309	(65)
	合計	4,472	4,455	14,806	16,256	(5,748)	
	外国人留学生数	学部生 (内数)	111	822	370	計 1,303 (708)	
		大学院生 (内数)					
附属学校	学級数		在籍者数 (注2)				
	51		1,427 [88]				
区 分		教員数 (注4)	附属学校教諭	その他職員数	計		
教職員数 (注3)		1,590	114	1,981	3,685		
	女性教職員数	259	52	1,283	1,594		
	女性比率	16.3%	45.6%	64.8%	43.3%		
予算規模		2018年度 約715億円 (うち運営費交付金等 約210億円)					

注1：入学定員は編入学定員を含む。注2：在籍者数の[]は、帰国子女数を内数で示す。
注3：教職員数は退職者を除く現員数。注4：教員数は役員及び特別顧問を含む。

1-2 主要キャンパス



学外オフィス等 [国内] 神戸大学東京オフィス、神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ (大阪)
[海外] 神戸大学中国事務所 (北京)、神戸大学ブリュッセルオフィス

1-3 神戸大学の位置 – 近隣国立大学との比較 –

大学名	神戸大学	京都大学	大阪大学	岡山大学	広島大学
学部	<ul style="list-style-type: none"> ・文学部 ・国際人間科学部 (※) ・法学部 ・経済学部 ・経営学部 ・理学部 ・医学部 ・工学部 ・農学部 ・海事科学部 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合人間学部 ・文学部 ・教育学部 ・法学部 ・経済学部 ・理学部 ・医学部 ・薬学部 ・工学部 ・農学部 	<ul style="list-style-type: none"> ・文学部 ・人間科学部 ・外国語学部 ・法学部 ・経済学部 ・理学部 ・医学部 ・歯学部 ・薬学部 ・工学部 ・基礎工学部 	<ul style="list-style-type: none"> ・文学部 ・教育学部 ・法学部 ・経済学部 ・理学部 ・医学部 ・歯学部 ・薬学部 ・工学部 ・環境理工学部 ・農学部 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合科学部 ・文学部 ・教育学部 ・法学部 ・経済学部 ・理学部 ・医学部 ・歯学部 ・薬学部 ・工学部 ・生物生産学部 ・情報科学部
大学院	<ul style="list-style-type: none"> ・人文学研究科 ・国際文化学研究科 ・人間発達環境学研究科 ・法学研究科 (法科大学院) ・経済学研究科 ・経営学研究科 (経営専門職大学院) ・理学研究科 ・医学研究科 ・薬学研究科 ・工学研究科 ・農学研究科 ・医学研究科 ・保健学研究科 ・工学研究科 ・システム情報学研究科 ・農学研究科 ・海事科学研究科 ・国際協力研究科 ・科学技術イノベーション研究科 	<ul style="list-style-type: none"> ・文学研究科 ・教育学研究科 ・法学研究科 (法科大学院) ・経済学研究科 ・理学研究科 ・医学研究科 ・薬学研究科 ・工学研究科 ・農学研究科 ・人間・環境学研究科 ・エネルギー科学研究科 ・アジア・アフリカ地域研究研究科 ・情報学研究科 ・生命科学研究科 ・総合生存学館 (思修館) ・地球環境学堂/学舎 ・公共政策大学院 ・経営管理大学院 	<ul style="list-style-type: none"> ・文学研究科 ・人間科学研究科 ・言語文化研究科 ・法学研究科 ・経済学研究科 ・理学研究科 ・医学系研究科 ・歯学研究科 (薬学研究科) ・工学研究科 ・基礎工学研究科 ・国際公共政策研究科 ・情報科学研究科 ・生命機能研究科 ・高等司法研究科 (法科大学院) ・(大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学) 連合小児発達学研究科 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育学研究科 (教職大学院) ・社会文化科学研究科 ・自然科学研究科 ・保健学研究科 ・環境生命科学研究科 ・医歯薬学総合研究科 ・ヘルスシステム統合科学研究科 ・法務研究科 (法科大学院) 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合科学研究科 ・文学研究科 ・教育学研究科 ・社会科学研究科 ・理学研究科 ・先端物質科学研究科 ・医歯薬保健学研究科 ・工学研究科 ・生物園科学研究科 ・国際協力研究科 ・法務研究科 (法科大学院)
附属学校	<ul style="list-style-type: none"> ・附属幼稚園 ・附属小学校 ・附属中等教育学校 ・附属特別支援学校 			<ul style="list-style-type: none"> ・附属幼稚園 ・附属小学校 ・附属中学校 ・附属特別支援学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・附属幼稚園 ・附属小学校 ・附属中学校 ・附属高等学校 ・附属特別支援学校

※2017年4月より、国際文化学部と発達科学部を再編統合し、新たに「国際人間科学部」を設置した。

出典：各大学ホームページ

1-3 神戸大学の位置 – 大規模13大学間の比較 –

学部

大学名	入学定員	学部数
大阪大学	3,255	11
東京大学	3,063	10
京都大学	2,823	10
九州大学	2,555	12
神戸大学	2,530	10
北海道大学	2,485	12
東北大学	2,396	10
広島大学	2,338	12
千葉大学	2,322	10
新潟大学	2,242	10
岡山大学	2,195	11
名古屋大学	2,107	9
筑波大学	2,102	9

(2018)

大学院

大学名	入学定員	入学定員 (M)	入学定員 (D)	入学定員 (P)	大学院数
東京大学	4,925	2,843	1,697	385	15
京都大学	3,705	2,261	1,130	314	18
大阪大学	3,047	2,025	942	80	16
東北大学	2,674	1,773	781	120	15
九州大学	2,668	1,748	780	140	18
名古屋大学	2,413	1,634	729	50	13
筑波大学	2,396	1,651	679	66	8
北海道大学	2,367	1,603	664	100	21
東京工業大学	2,151	1,544	567	40	6
神戸大学	1,802	1,258	395	149	15
広島大学	1,542	1,012	490	40	11
千葉大学	1,283	955	268	60	7
岡山大学	1,125	785	271	69	8

(2018)

※国立大学間で学部入学定員の上位13大学を「大規模13大学」と定義する。

1-3 神戸大学の位置 – 世界ランキングによる比較 –

QS社・世界大学ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	23
2	京都大学	35
3	東京工業大学	58
4	大阪大学	67
5	東北大学	77
6	名古屋大学	111
7	九州大学	126
8	北海道大学	128
9	慶應義塾大学	198
10	早稲田大学	208
11	筑波大学	260
12	広島大学	321
13	神戸大学	352
	東京医科歯科大学	

(2018-2019)

QS社・アジア大学ランキング

順位	大学名	アジア順位
1	東京大学	11
2	京都大学	14
3	大阪大学	16
4	東京工業大学	18
5	東北大学	23
6	名古屋大学	26
7	北海道大学	29
8	九州大学	30
9	早稲田大学	36
10	慶應義塾大学	42
11	筑波大学	46
12	神戸大学	59
13	広島大学	70
14	一橋大学	77
15	東京医科歯科大学	102

(2018-2019)

上海交通大学・世界大学学術ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	22
2	京都大学	35
3	名古屋大学	83
4	大阪大学	101-150
	東北大学	
6	北海道大学	151-200
	東京工業大学	
8	九州大学	201-300
	筑波大学	
10	千葉大学	301-400
	慶應義塾大学	
	岡山大学	
13	神戸大学	401-500
	徳島大学	
	東京理科大学	
	早稲田大学	

(2018)

THE誌・アジア大学ランキング

順位	大学名	アジア順位
1	東京大学	8
2	京都大学	11
3	大阪大学	28
4	東北大学	30
5	東京工業大学	33
6	名古屋大学	35
7	九州大学	48
8	北海道大学	55
9	東京医科歯科大学	60
10	筑波大学	63
11	藤田保健衛生大学	83
12	首都大学東京	104
13	広島大学	109
14	慶應義塾大学	127
15	会津大学	131
16	千葉大学	134
17	早稲田大学	135
18	神戸大学	149
	金沢大学	

(2018)

THE誌・世界大学ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	42
2	京都大学	65
3	大阪大学	251-300
	東北大学	
	東京工業大学	
6	名古屋大学	301-350
7	藤田保健衛生大学	401-500
	北海道大学	
	九州大学	
	帝京大学	
	東京医科歯科大学	
	首都大学東京	
	筑波大学	
14	神戸大学 他10大学	601-800

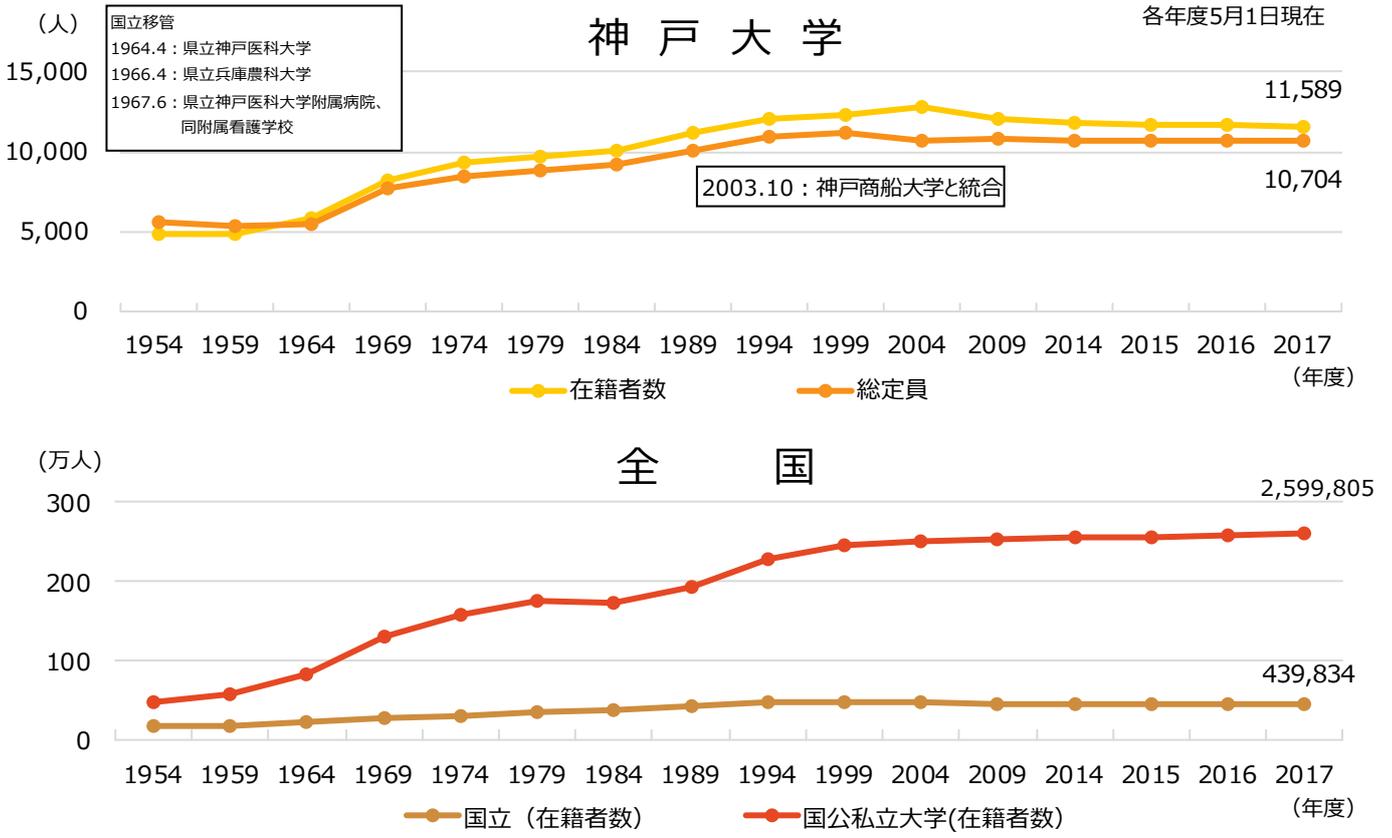
(2018-2019)

出典:各発表機関ウェブサイト

※「-」についてはその順位グループに属していることを示している。(例:「201-300」は、201位から300位のグループ)

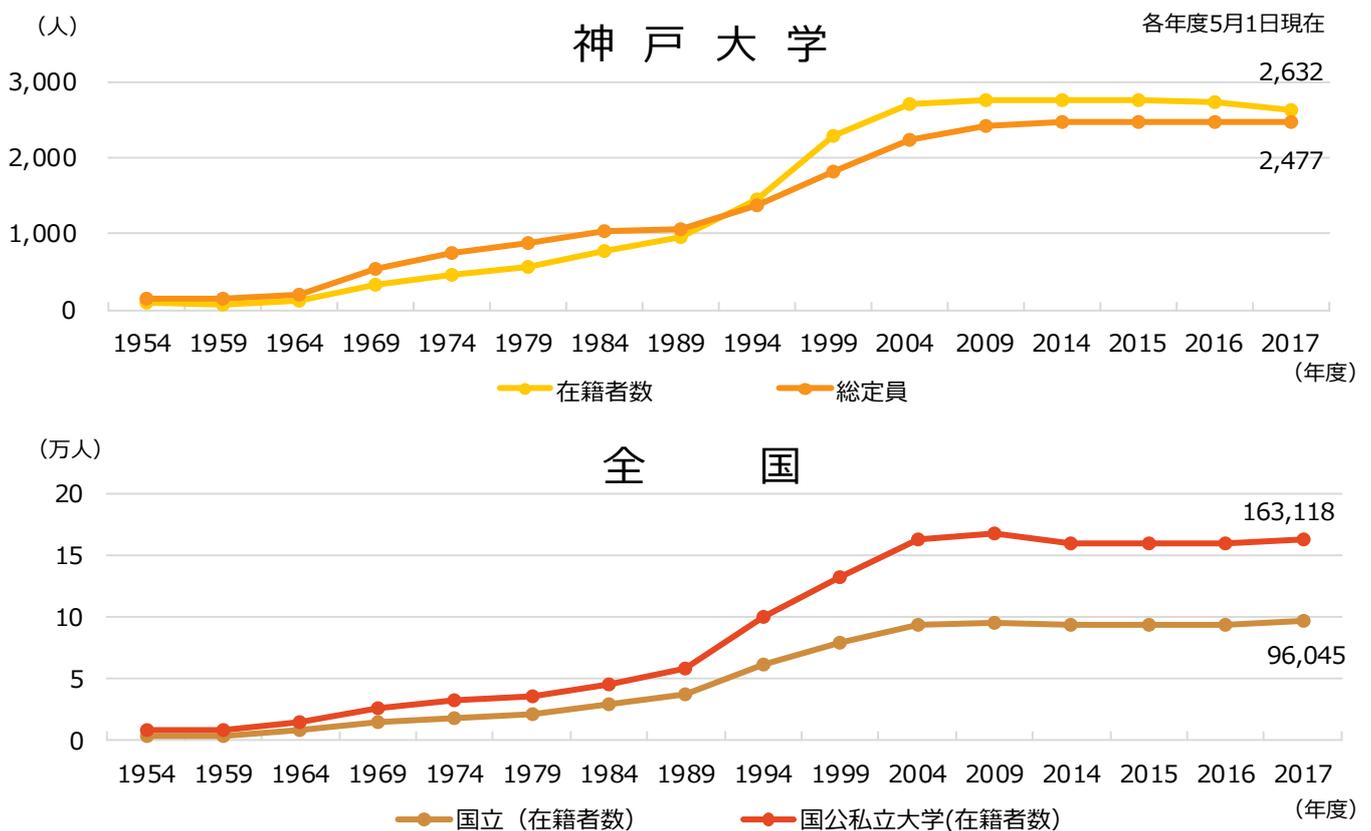
2. 学生数

2-1 学生数の推移 — 学士課程 —



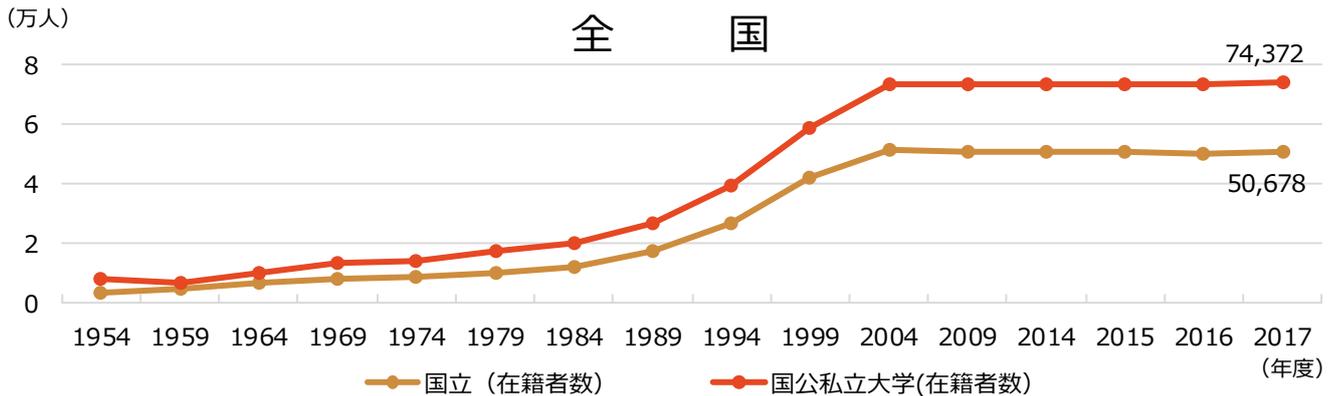
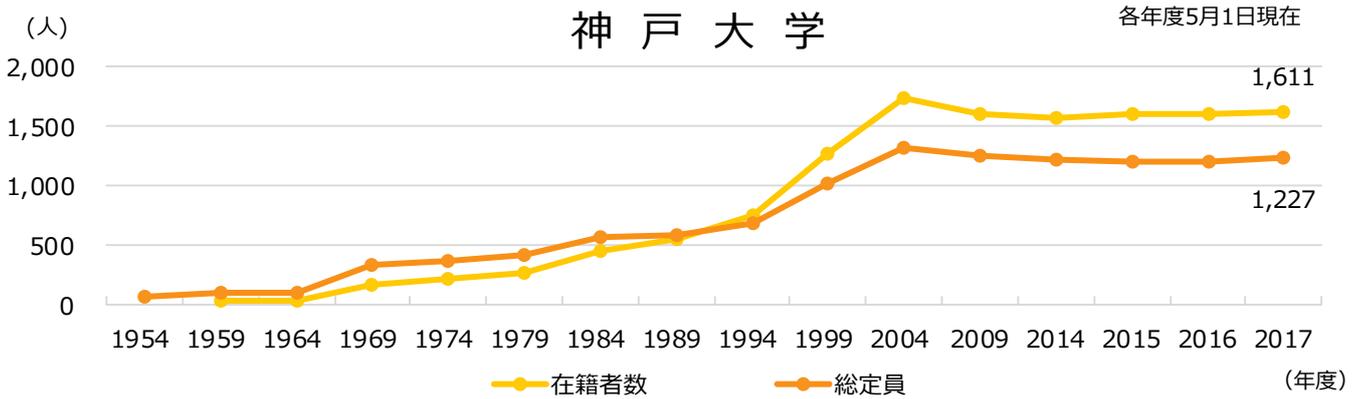
出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査

2-2 学生数の推移 — 修士課程・博士課程前期課程 —



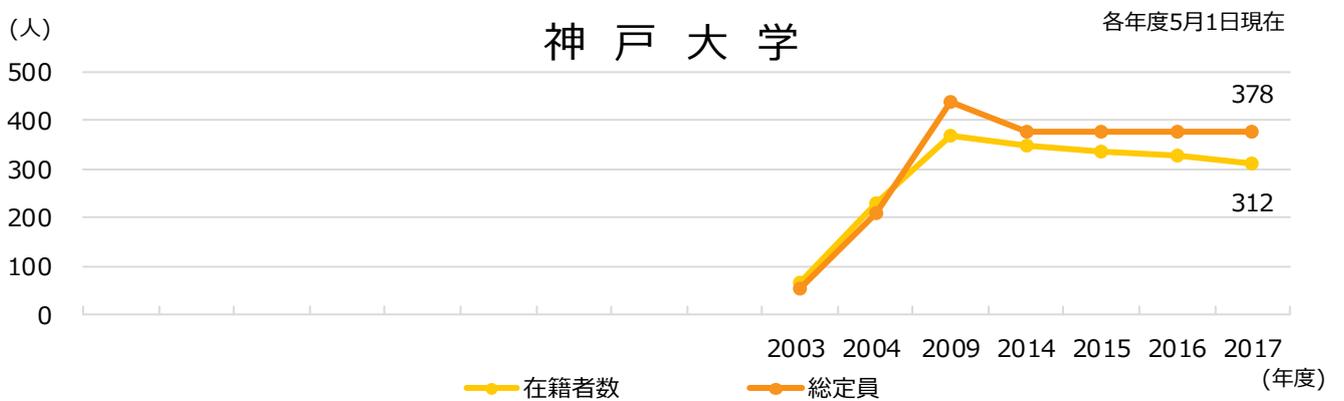
出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査

2-3 学生数の推移 — 博士課程・博士課程後期課程 —

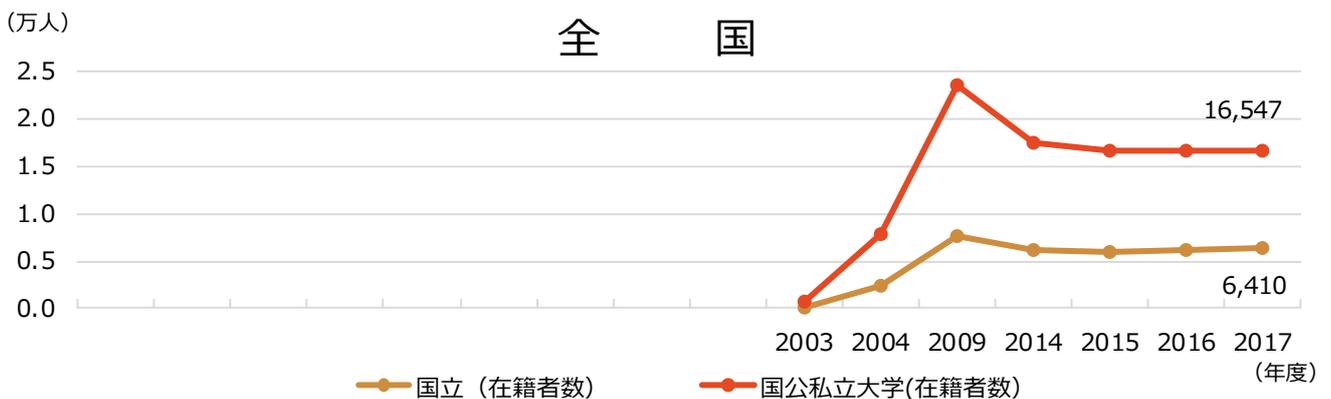


出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査

2-4 学生数の推移 — 専門職学位課程 —



※法学研究科実務法律専攻（法科大学院）は総定員（入学定員×3年）に対して、2年で修了できる法学既修者コースの入学者が約7割を占めるため、構造的に総定員を充たせない。



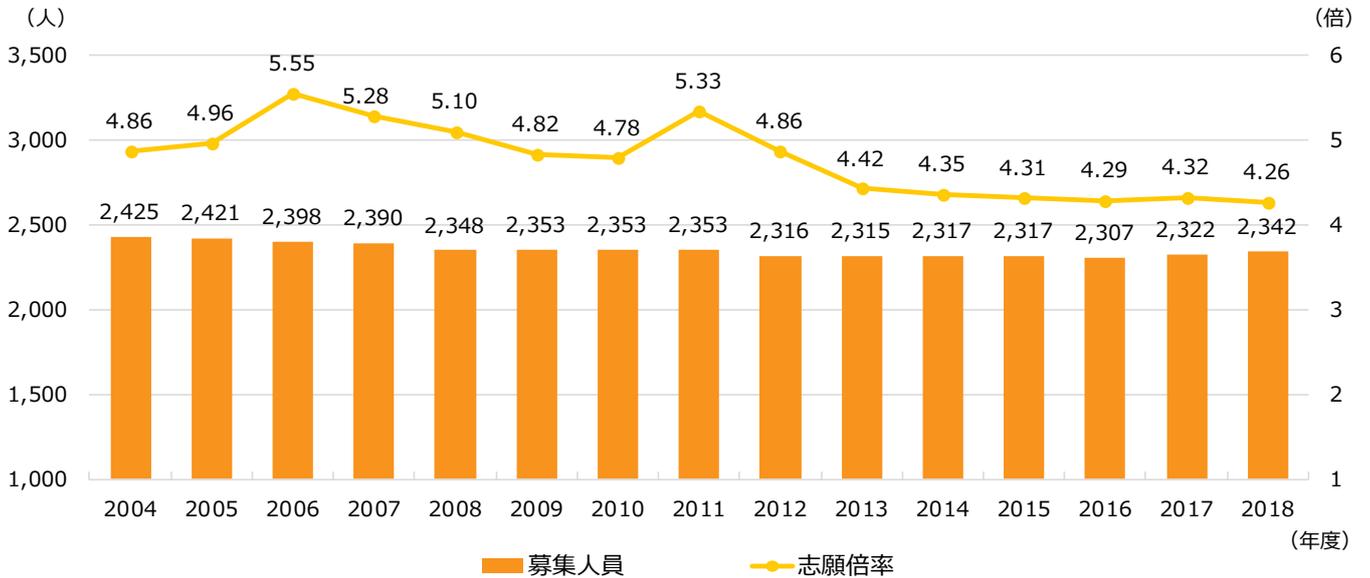
※2004年度から法科大学院制度が創設されたことに伴い、専門職大学院の在籍者数が急激に増えたが、2009年度以降は減少している。

出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査

3. 学部一般選抜志願状況

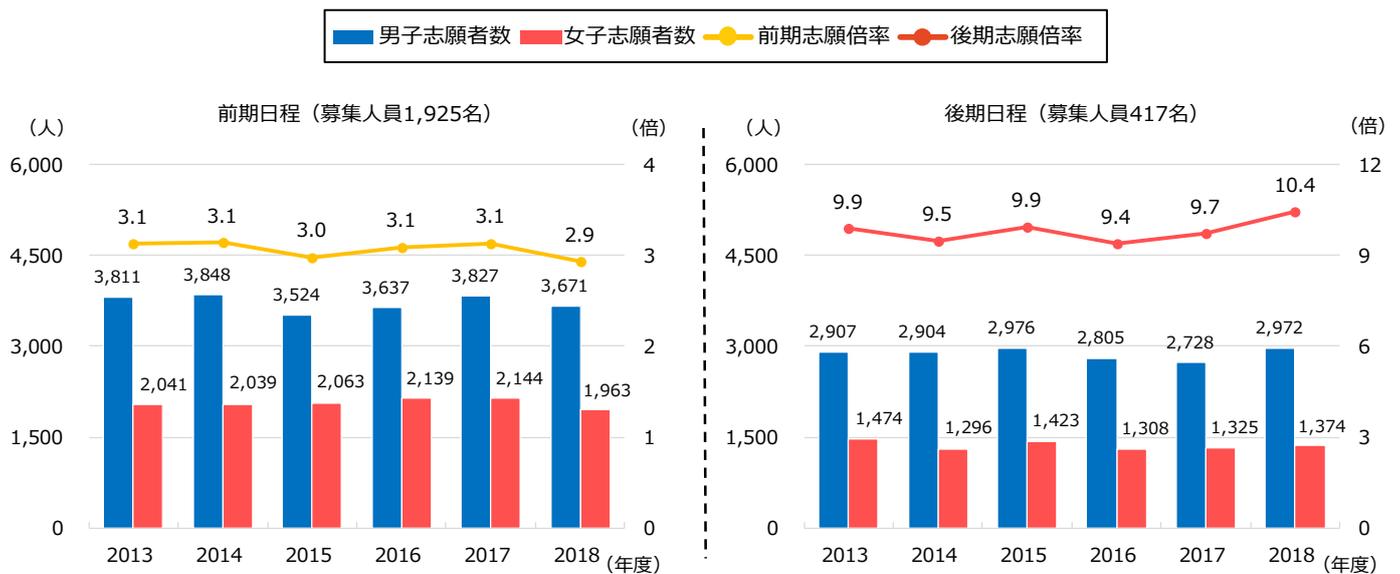
3-1 学部一般選抜志願状況（推移）

- 国立大学法人化（2004年度）以降、本学の学部一般選抜（一般入試）の志願倍率は、5倍を超える年度もあったが、近年は4.3倍前後で推移している。
- 2018年度入試においては、2,342名の募集人員に対し9,980名の受験生が志願し、志願倍率は4.26倍であり、最も低かった。



3-2 学部一般選抜志願状況（日程別・男女別推移）

- 前期日程は3倍程度、後期日程は10倍程度の志願倍率を推移しており、安定して志願者を確保している。
- 志願者の男女比については、年度によってやや差があるものの、概して2対1の割合で推移している。



(注) 各日程の募集人員は2018年度の数値を記載している。その他の各年度の募集人員は以下のとおり。

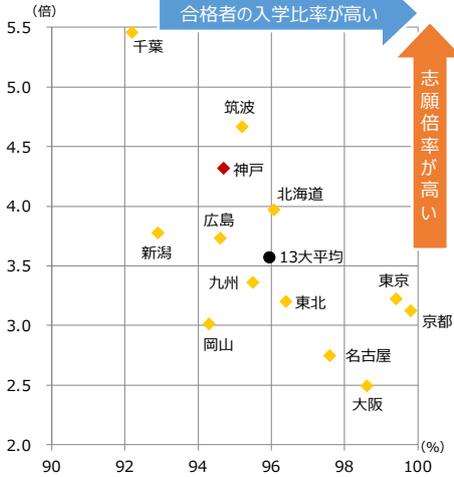
2013	前期：1,872名	後期：443名	2016	前期：1,869名	後期：438名
2014～2015	前期：1,874名	後期：443名	2017	前期：1,905名	後期：417名

3-3 全国の大学の志願状況及び入学定員

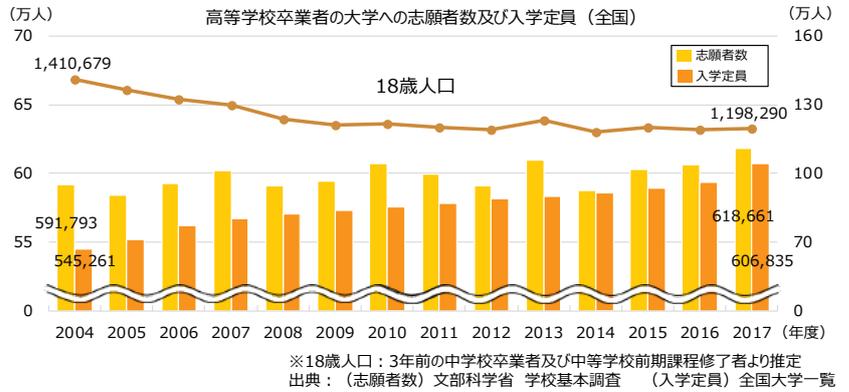
◆大規模13大学の状況（2017年度入試）

大学名	北海道	東北	筑波	千葉	東京	新潟	名古屋	京都	大阪	神戸	岡山	広島	九州	13大学平均
募集人員	2,426人	1,899人	1,486人	2,147人	2,960人	1,752人	1,739人	2,678人	2,968人	2,322人	1,727人	2,006人	2,365人	2,190人
志願者数	9,636人	6,083人	6,933人	11,718人	9,534人	6,618人	4,783人	8,362人	7,397人	10,024人	5,203人	7,483人	7,945人	7,825人
志願倍率	4.0	3.2	4.7	5.5	3.2	3.8	2.8	3.1	2.5	4.3	3.0	3.7	3.4	3.6
合格者の入学率	96.1%	96.4%	95.2%	92.2%	99.4%	92.9%	97.6%	99.8%	98.6%	94.7%	94.3%	94.6%	95.5%	95.9%

出典（募集人員・志願者数・志願倍率）：2017年度国立大学入学者選抜の志願状況，大学入試センターHP
出典（合格者の入学率）：朝日大学ランキング2019（※北海道大学はHPの入試結果より算出）



◆全国の大学志願者数および入学定員（推移）

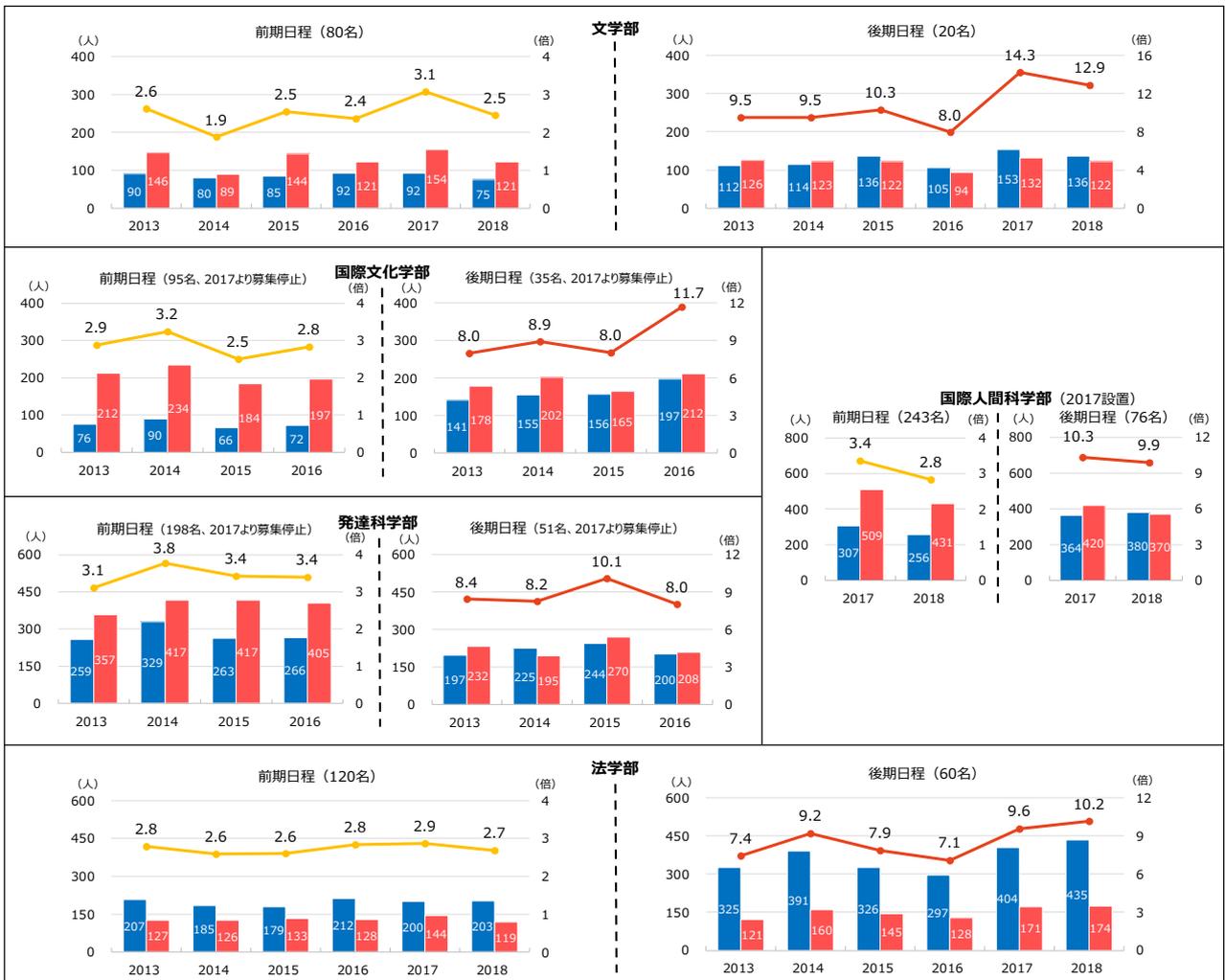


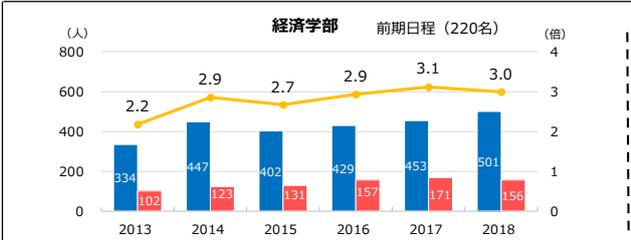
3-4 学部ごとの一般選抜志願状況（日程別・男女別推移）

- 志願倍率は各学部とも毎年上下するが、2018年度入試では、前期日程で全体的に倍率が下降している中、経営学部が4倍以上の高い水準を維持している。後期日程では、理科系学部の倍率が回復している。
- 文学部、国際人間科学部、医学部保健学科、農学部では、女子志願者の割合が高い。

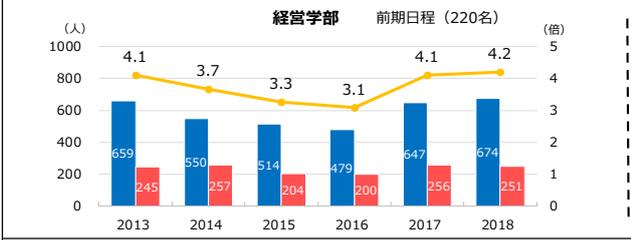
■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ● 前期志願倍率 ● 後期志願倍率

・（ ）書きは各日程の2018年度募集定員（国際文化学部、発達科学部は2016年度）

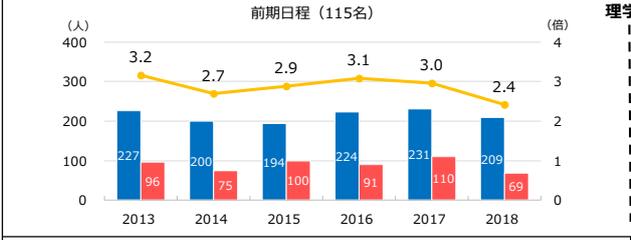




※経済学部の後期日程入試は2013年度より廃止。



※経営学部の後期日程入試は2012年度より廃止。



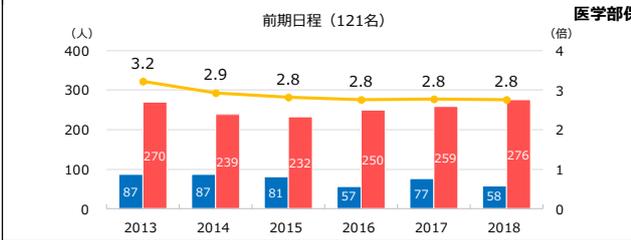
理学部



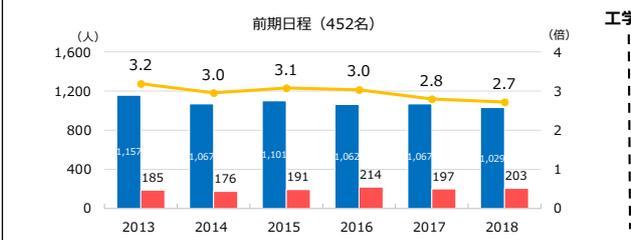
※医学部医学科は後期日程入試を実施していない。

(注) 募集定員が年度により、2018年度(国際文化学部及び発達科学部は2016年度)と異なる学部については、以下のとおり。

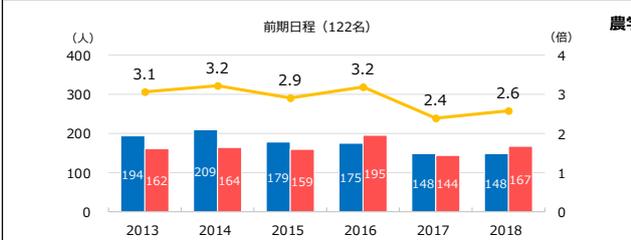
文学部	(前) 2013~2016:90名	(後) 2013~2016:25名
国際文化学部	(前) 2013~2015:100名	(後) 2013~2015:40名
発達科学部	(前) 2013:190名	
経済学部	(前) 2013~2017:200名	
理学部	(前) 2013~2016:102名	
医学部医学科	(前) 2013:75名、2014~2016:77名	
医学部保健学科	(前) 2013~2016:111名	(後) 2013~2016:40名
工学部	(前) 2013~2016:420名	(後) 2013~2016:120名
農学部	(前) 2013~2016:116名	(後) 2013~2016:29名
海事科学部	(前) 2013~2016:120名	(後) 2013~2016:40名



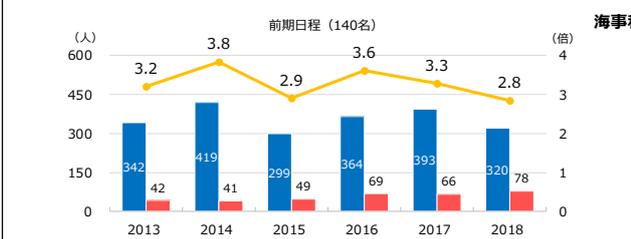
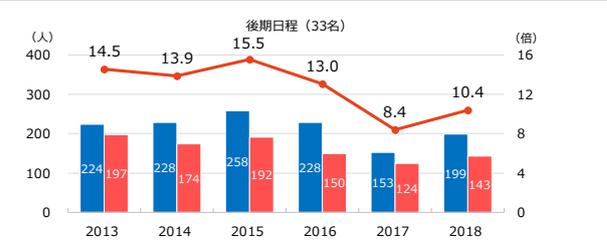
医学部保健学科



工学部



農学部



海事科学部

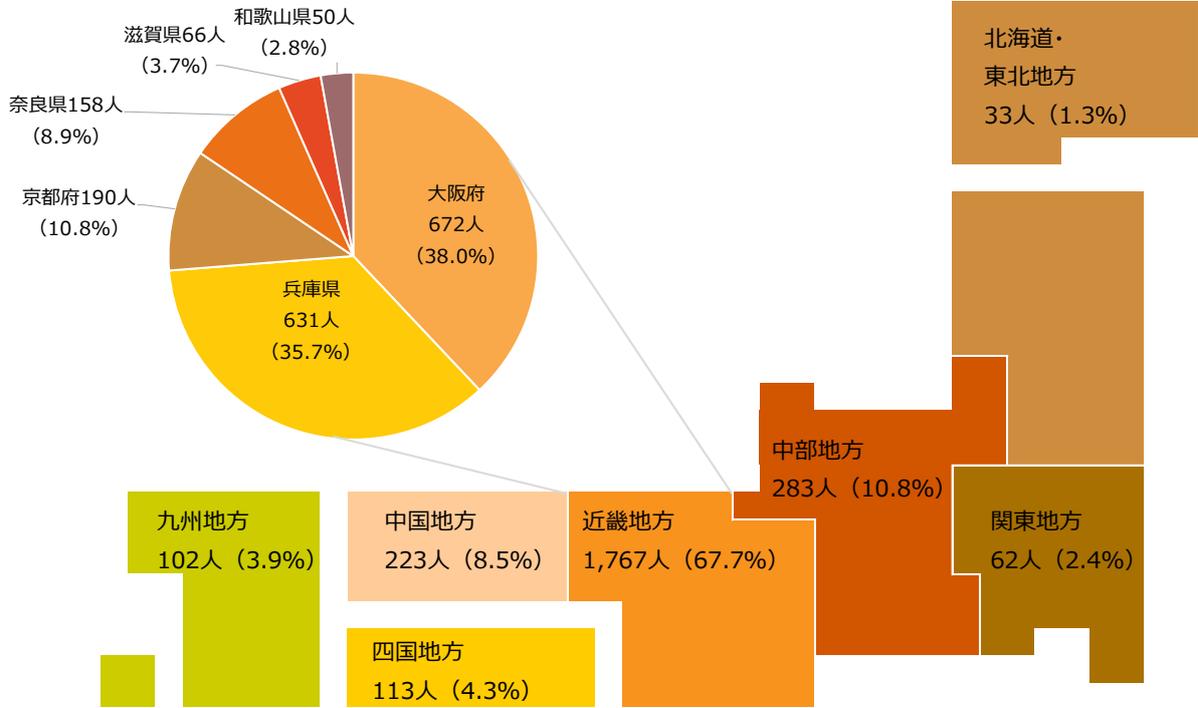


4. 入学状況 — 学部 —

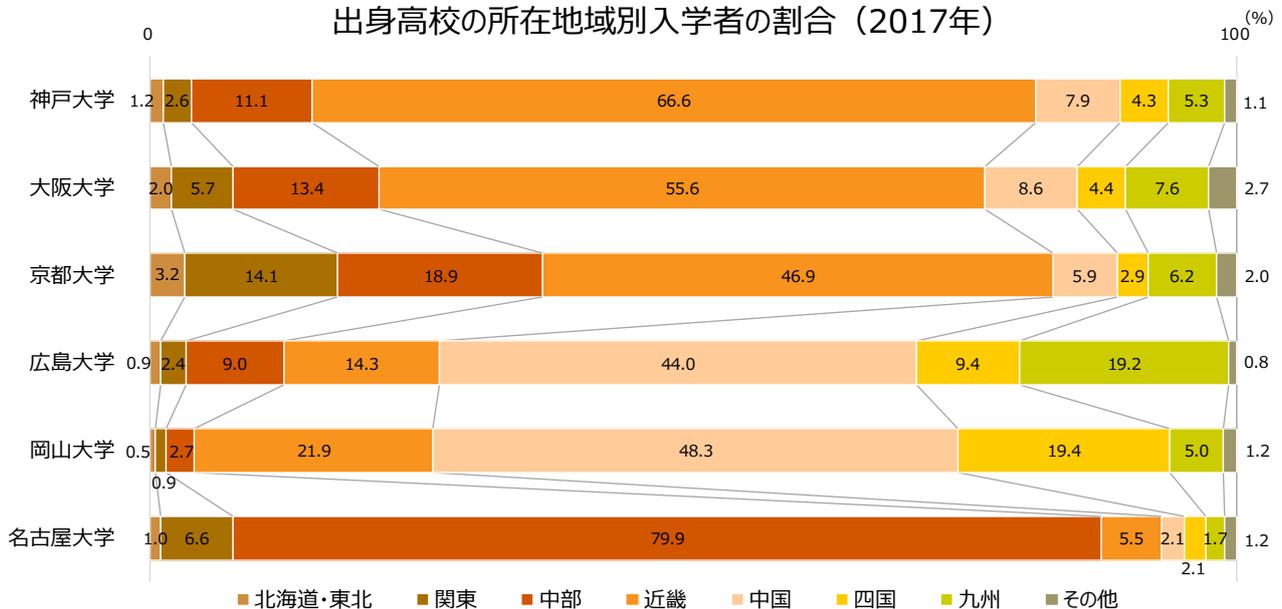
4-1 出身高校の所在地別入学者状況

○ 神戸大学では入学者のおよそ3分の2を近畿地方の高校出身者が占めており、うち7割以上が大阪府または兵庫県に所在する高校の出身者である。

◆神戸大学◆ (2018年)



出身高校の所在地域別入学者の割合 (2017年)



- 【北海道・東北地方】北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県
- 【関東地方】群馬県、茨城県、千葉県、栃木県、埼玉県、東京都、神奈川県
- 【中部地方】新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、山梨県、岐阜県、愛知県、静岡県、三重県
- 【近畿地方】滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- 【中国地方】鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- 【四国地方】徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- 【九州地方】福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
- 【その他】外国の学校等

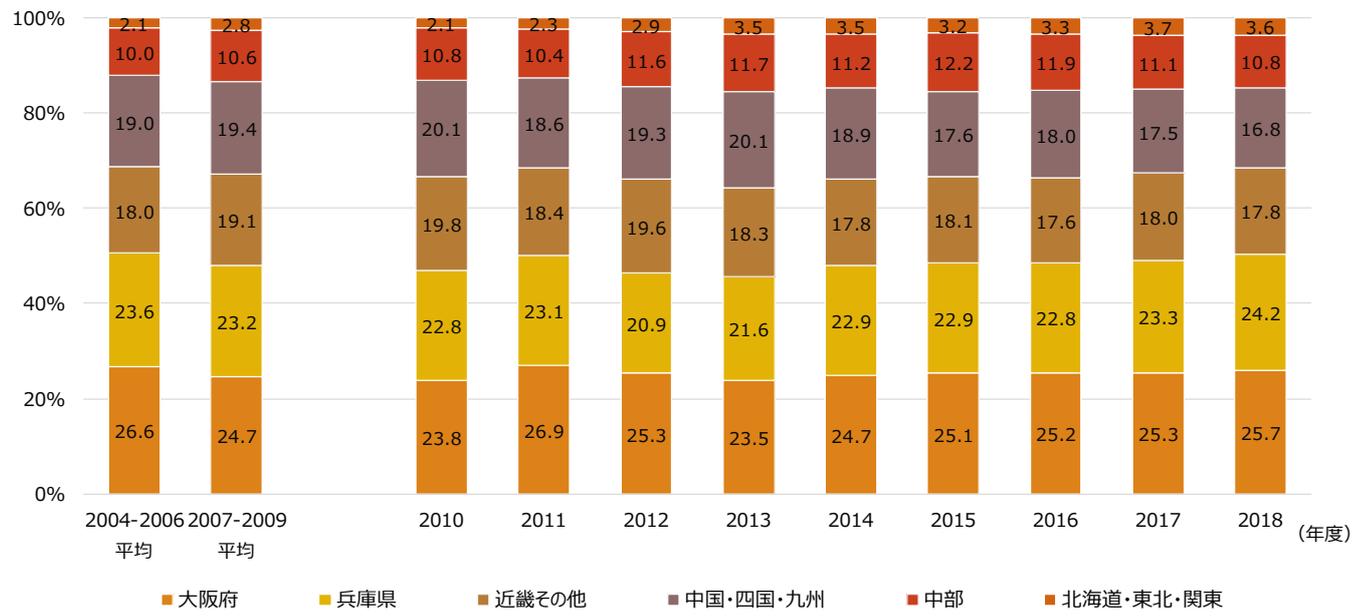
出典：大学改革支援・学位授与機構 大学基本情報「(8-G) 出身高校の所在地別入学者数」

※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

4-2 出身高校の所在地別入学者状況の経年推移

◆神戸大学◆

出身高校の所在地別入学者状況の経年推移



5. 入学状況 — 大学院 —

5-1 大学院入学状況

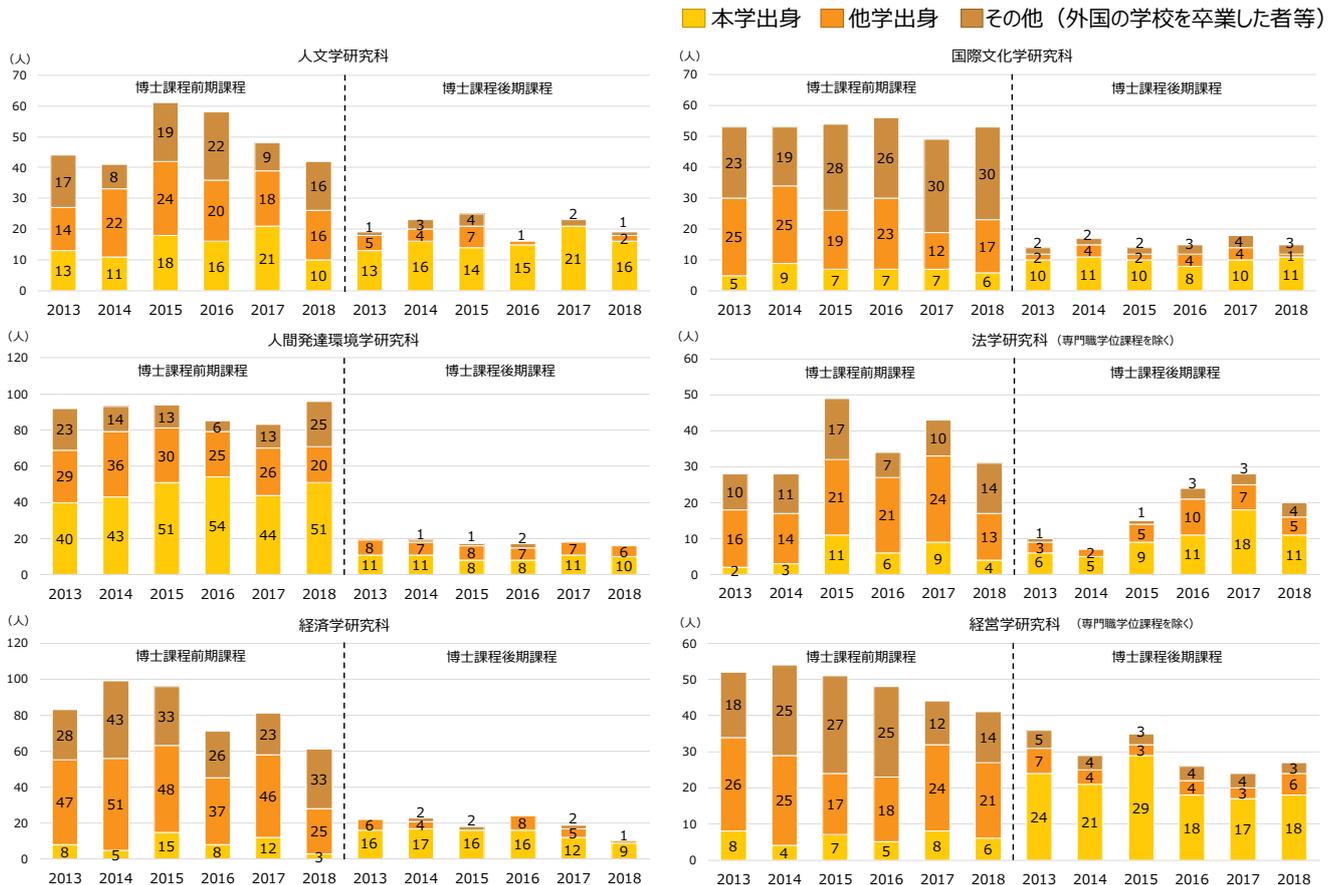
◆神戸大学◆ ※2010～2017年度は春入学者及び秋入学者、2018年度は春入学者のみを計上している。



5-2 大学院入学状況 — 研究科別・出身大学別 —

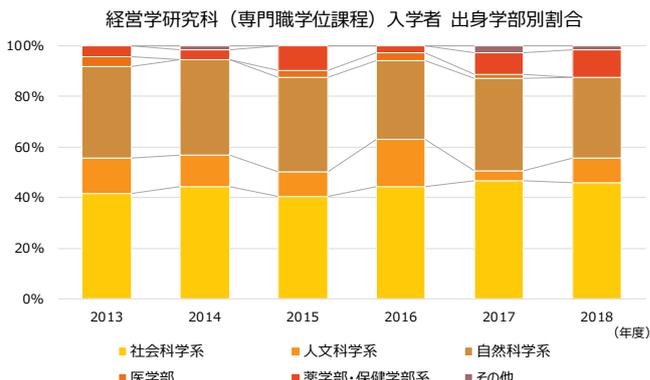
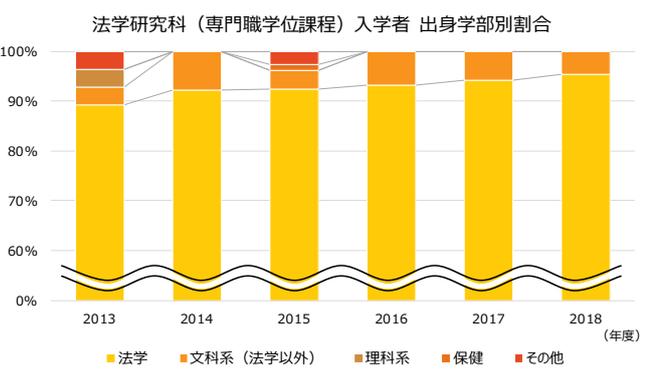
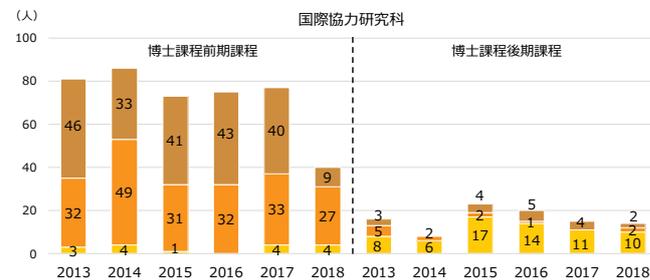
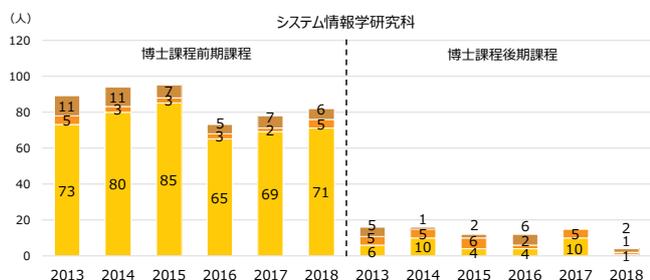
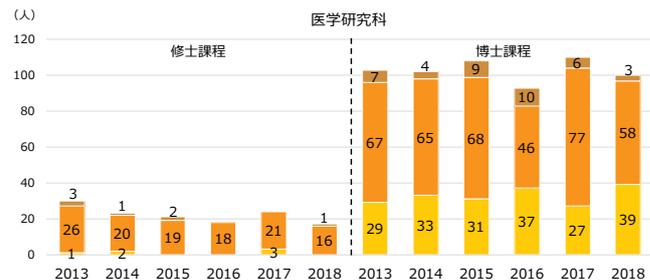
○ 自然科学系の研究科においては、博士課程前期課程に本学出身の学生がそのまま進学するケースが多いが、人文科学系、社会科学系及び医学系の研究科においては、多くの他学出身者が入学している傾向が見られる。

◆神戸大学◆ ※2013～2017年度は春入学者及び秋入学者、2018年度は春入学者のみを計上している。



※2013～2017年度は春入学者及び秋入学者、2018年度は春入学者のみを計上している。

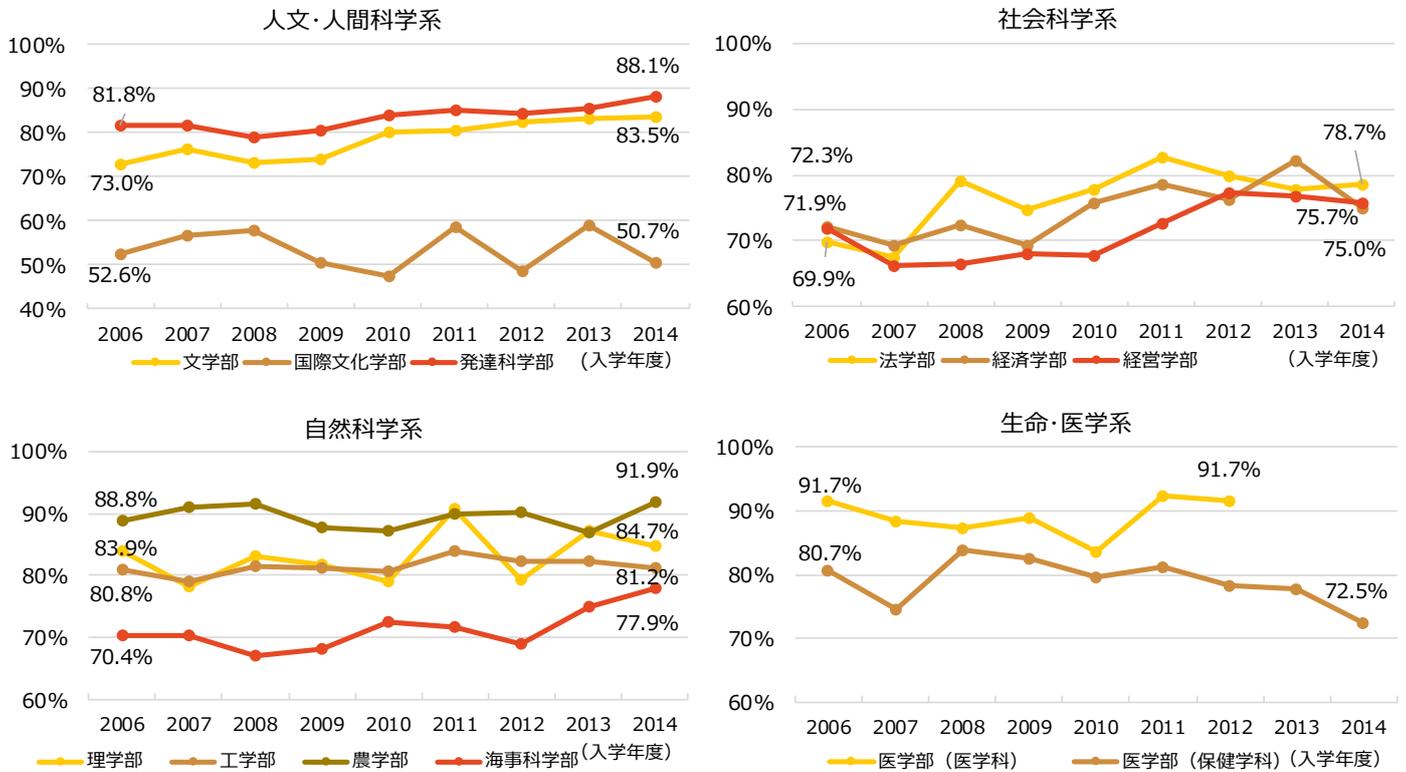
■ 本学出身 ■ 他学出身 ■ その他（外国の学校を卒業した者等）



6. 学位授与状況 — 授与率 —

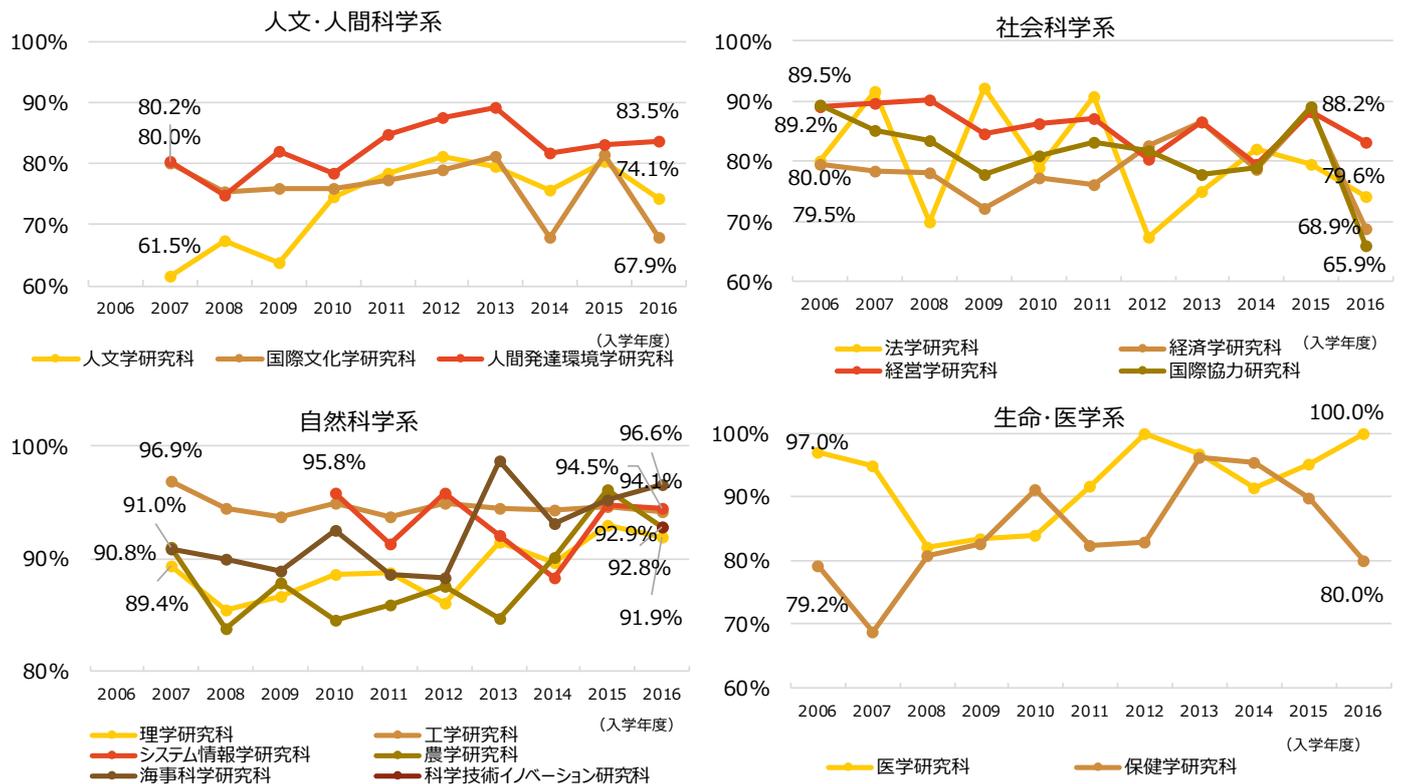
○ 修士課程・博士課程前期課程においては、自然科学系の研究科の標準修業年限内学位授与率が高い傾向にあり、2016年度入学者の標準修業年限内学位取得者の割合は、自然科学系の6研究科全てにおいて9割を超えている。

◆ 学士課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）



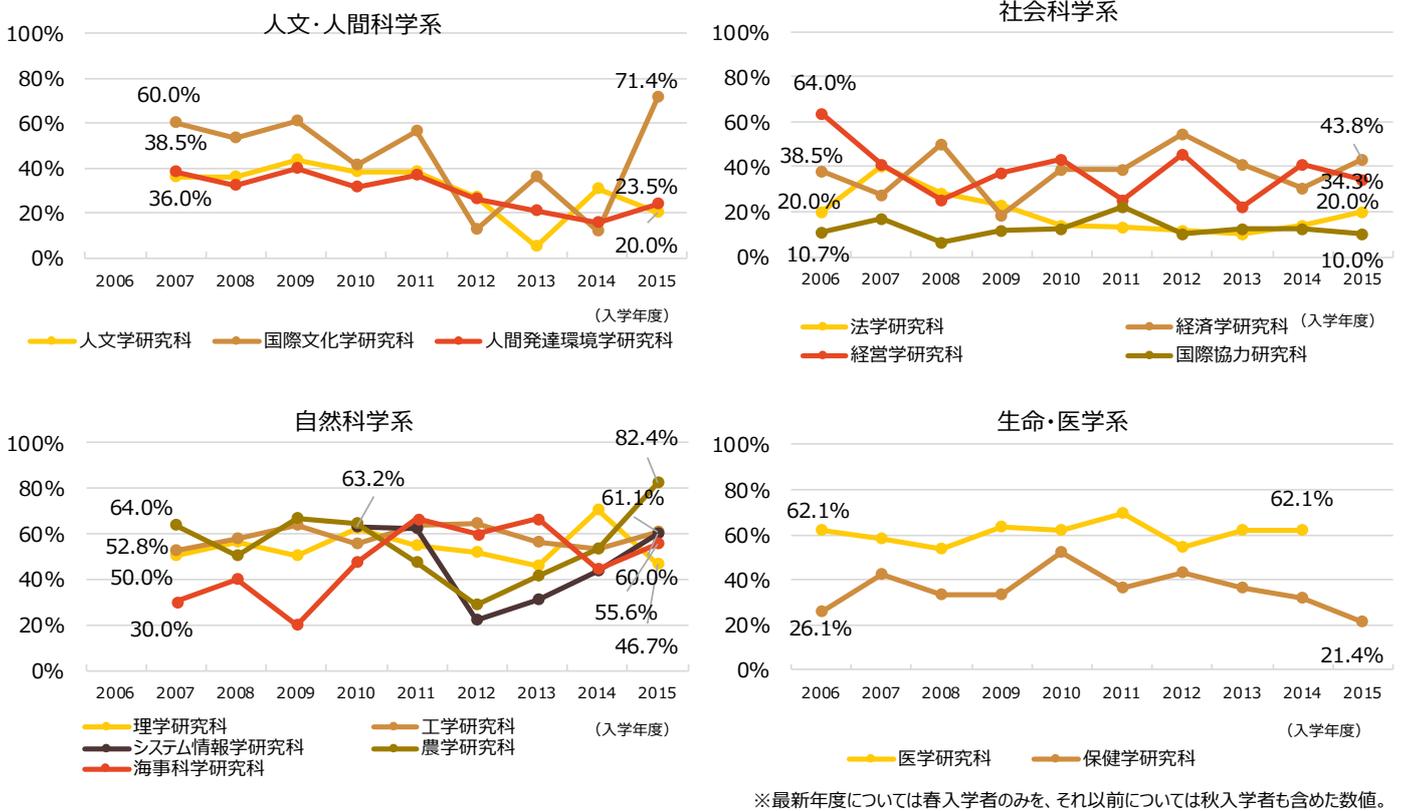
※医学科は6年制のため2013,2014年度入学の学位取得者はいない。

◆ 修士課程・博士課程前期課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）

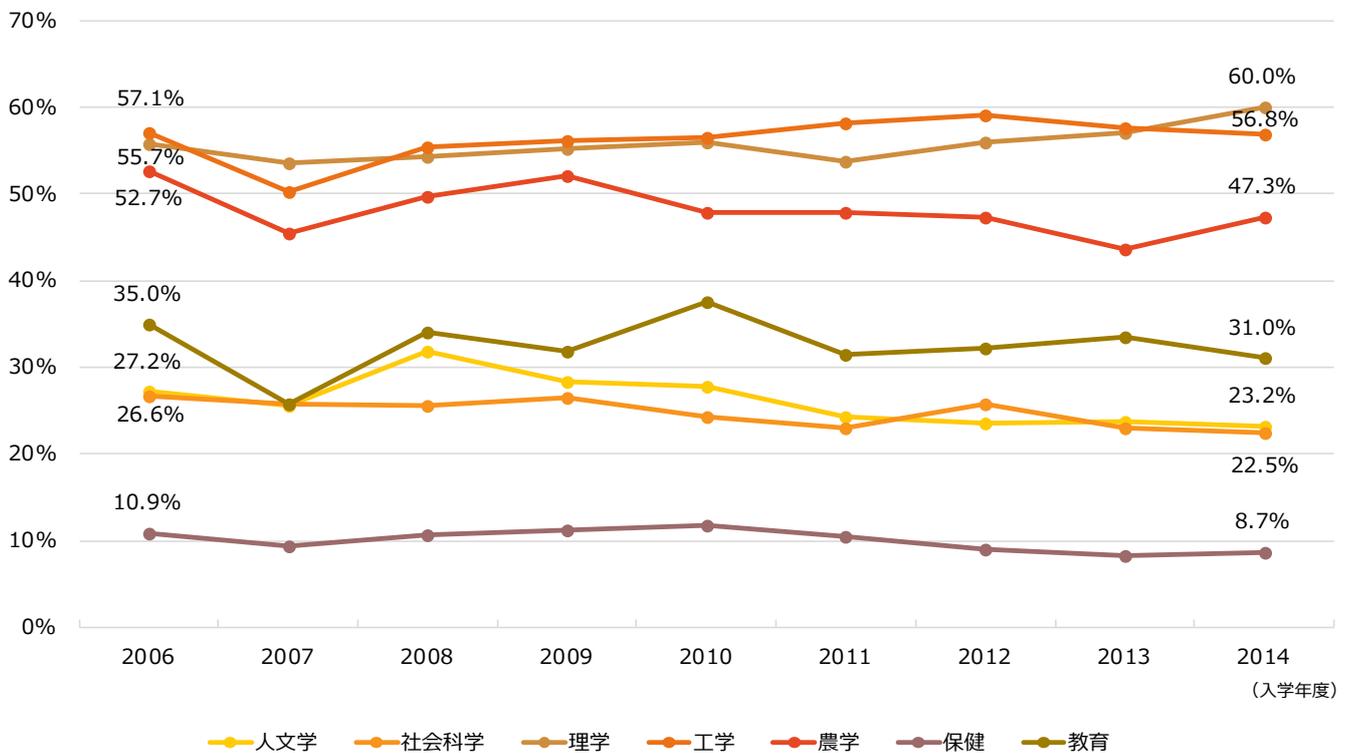


※最新年度については春入学者のみを、それ以前については秋入学者も含めた数値。

◆博士課程・博士課程後期課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）



◆全国（入学年度別標準修業年限内修業率 博士課程専攻分野別）



出典：文部科学省 学校基本調査
博士課程の「専攻分野別最低修業年数卒業者数/博士課程の専攻分野別入学者数」の推移を入学年度別に示した。

7. 進路・就職状況

7-1 学士課程卒業生の進路・就職状況

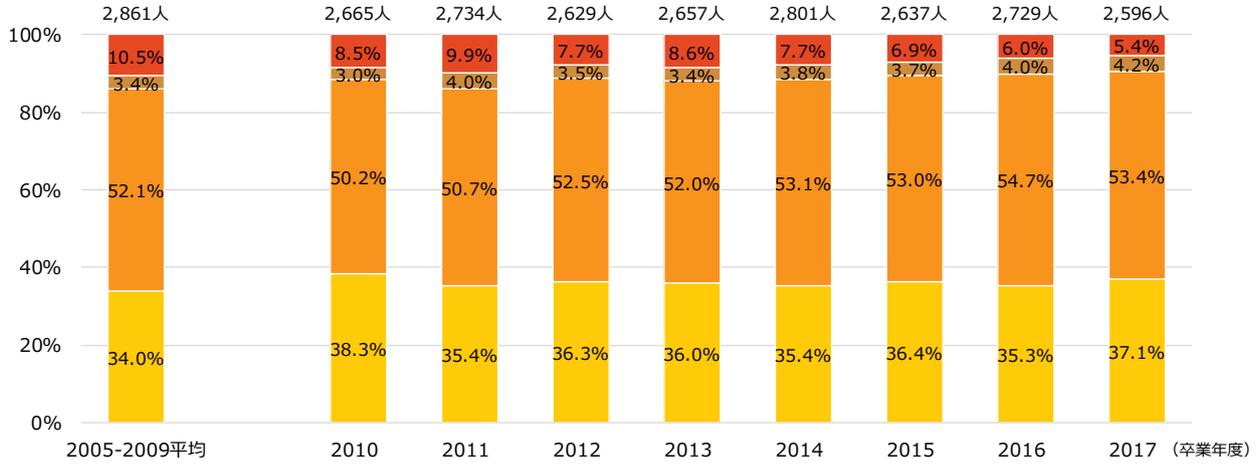
■ 進学者
 ■ 就職者
 ■ 臨床研修医
 ■ その他

※「進学者」には「専修学校・外国の学校等に入学した者」を含む。

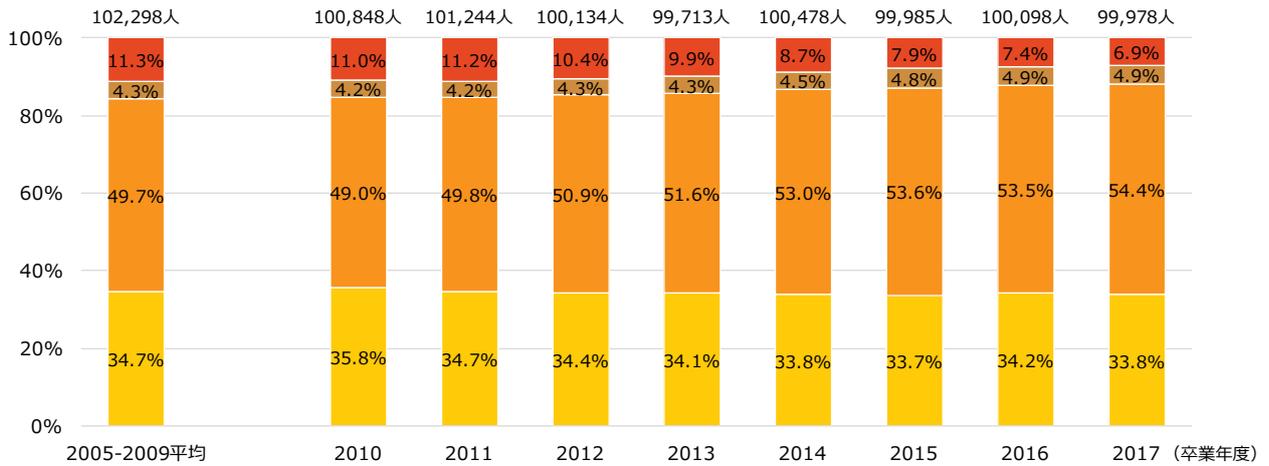
※「進学者のうち就職している者」は「進学者」としてカウントし、「就職者」には含まない。

※「その他」には「一時的な仕事に就いた者」、「就職準備中の者」「進学準備中の者」を含む。

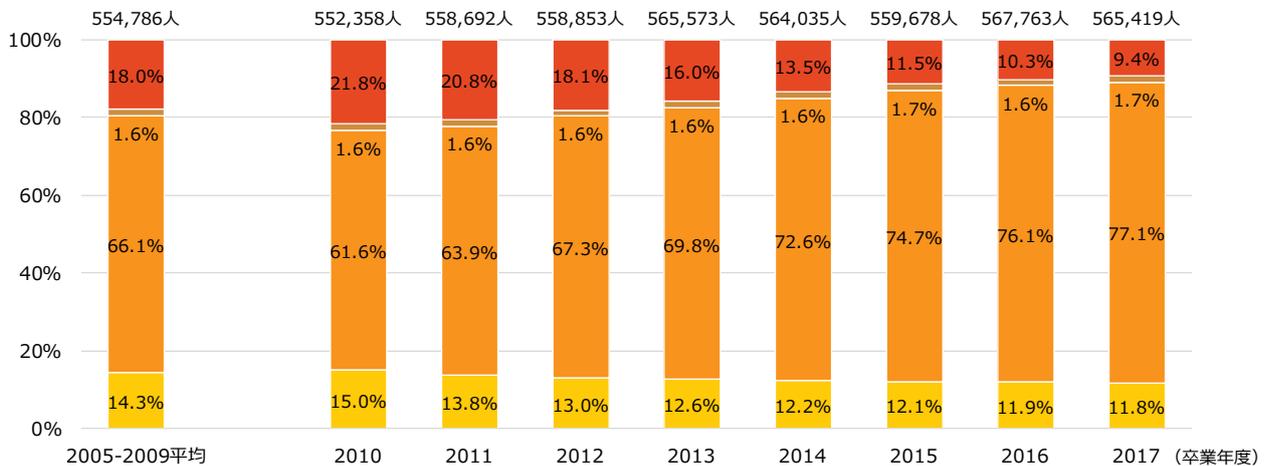
神戸大学



国立大



全国



出典：文部科学省 学校基本調査（国立大および全国の2017年度の値は2018年8月時点の速報値）

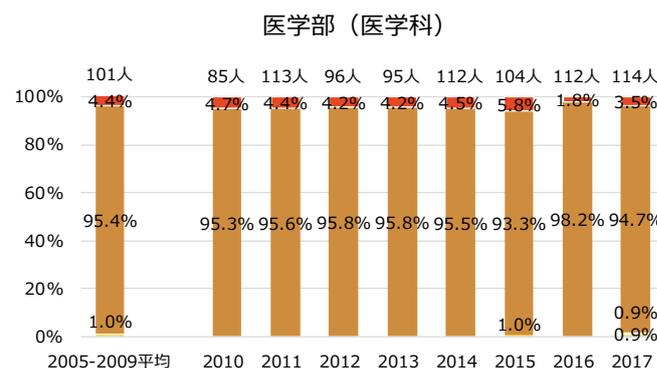
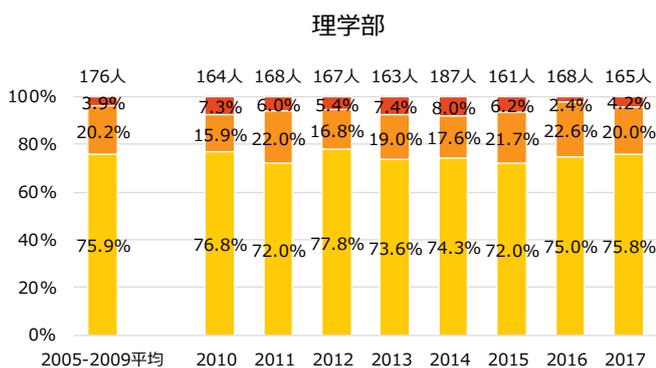
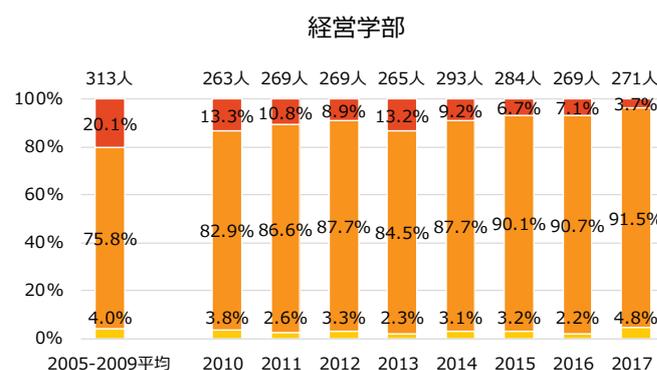
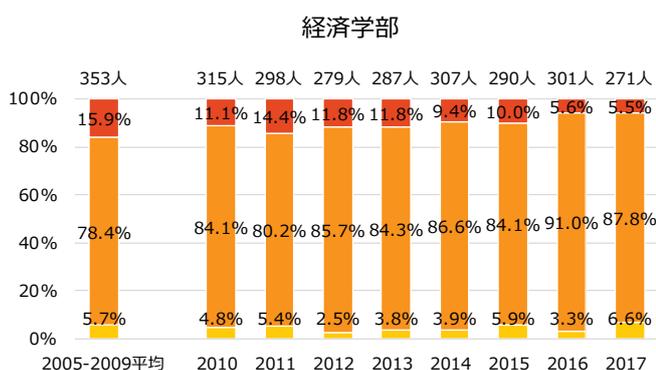
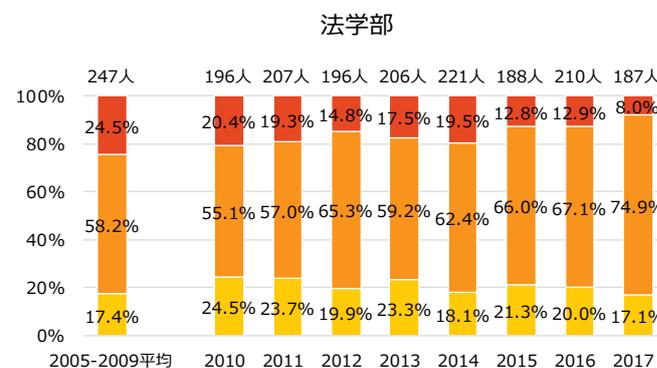
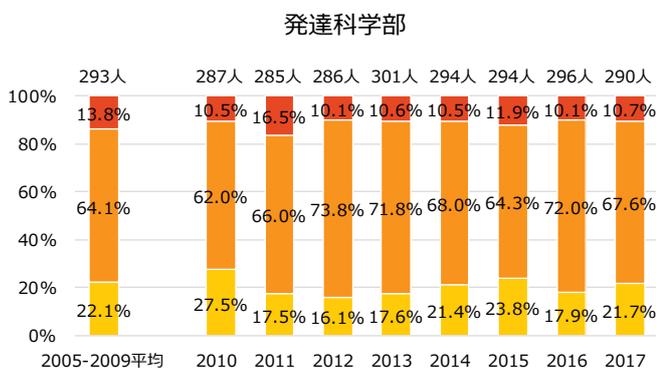
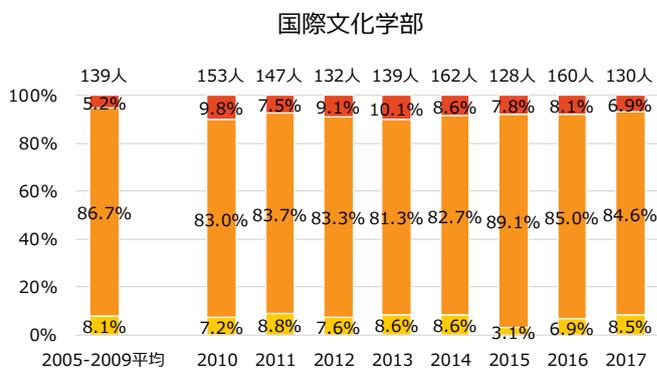
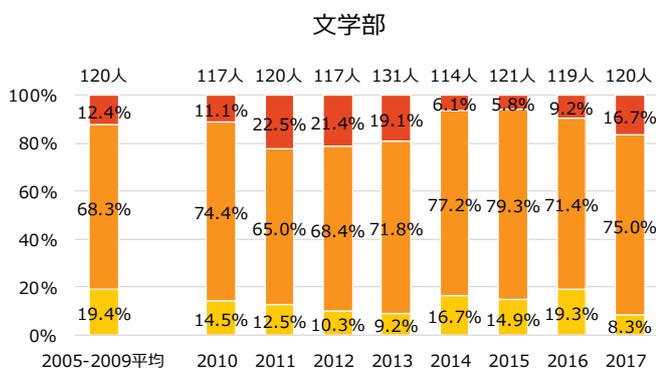
※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

7-2 学士課程卒業生の学部別進路・就職状況

- 文科系学部においては就職する学生の割合が高く、理科系学部においては医学部を除き、進学する学生が多い。
- 2005-2009年度平均と比較すると、文学部、法学部、経済学部、経営学部では就職者の割合が上昇し、医学部保健学科、工学部、農学部、海事科学部では進学率が上昇している。

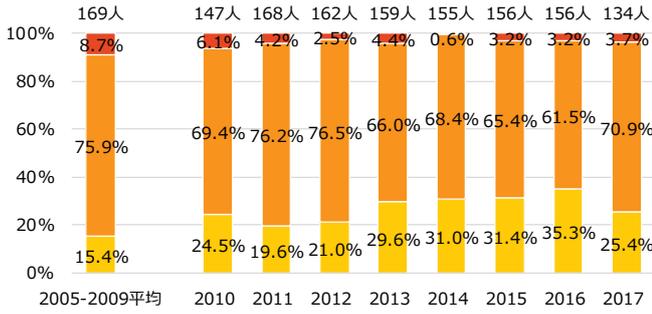
◆神戸大学◆（学士課程 卒業年度）

■進学者 ■就職者 ■臨床研修医 ■その他

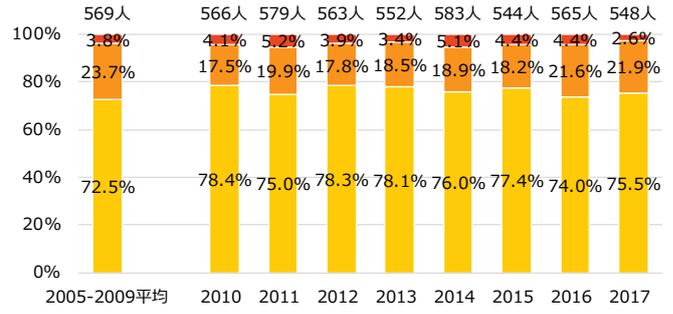


※2005-2009平均、2015の「1.0%」は進学者、2017の「0.9%」は進学者と就職者。

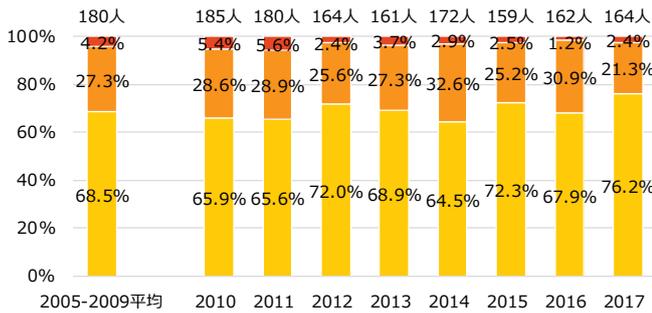
医学部（保健学科）



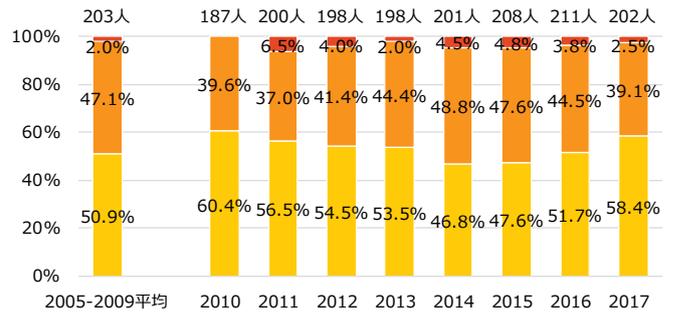
工学部



農学部



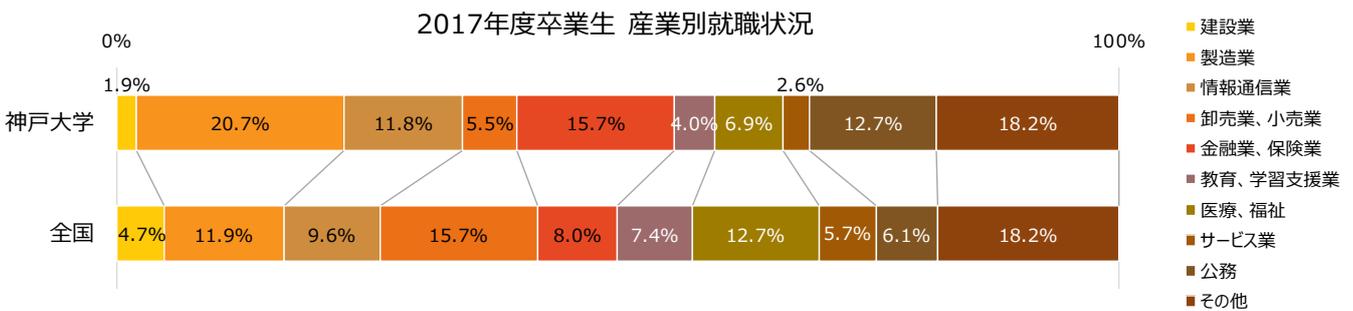
海事科学部



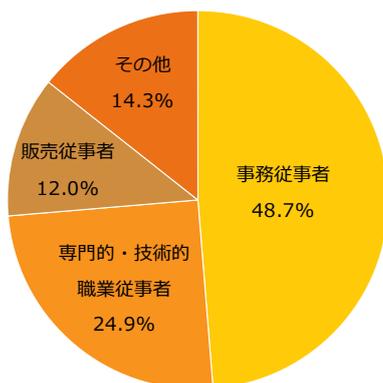
※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

7-3 学士課程卒業生の産業別・職業別就職状況

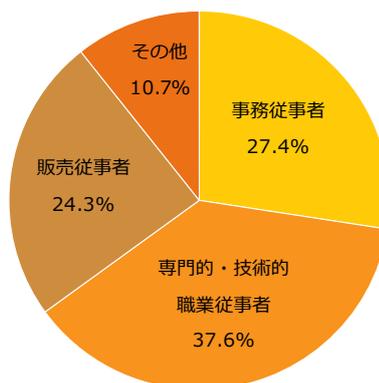
○ 全国と比較して、産業別では「製造業」、「金融業、保険業」、「公務」に、職業別では「事務従事者」にそれぞれ就職している割合が高い。



職業別（神戸大学）



職業別（全国）



出典：文部科学省 学校基本調査 (2018年8月時点速報値)

※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

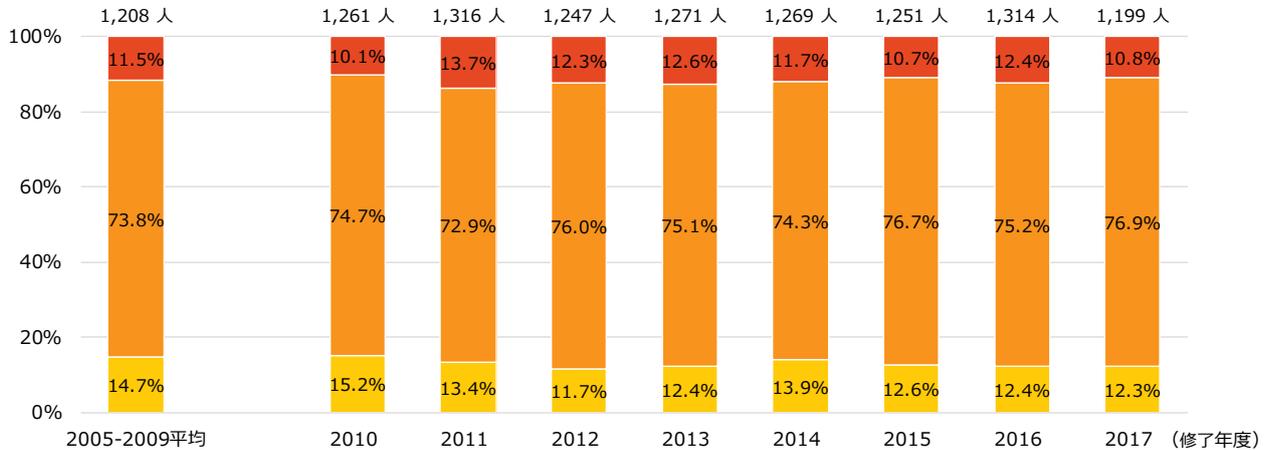
■ 進学者 ■ 就職者 ■ その他

※「進学者」には「専修学校・外国の学校等に入学した者」を含む。

※「進学者のうち就職している者」は「進学者」としてカウントし、「就職者」には含まない。

※「その他」には「一時的な仕事に就いた者」、「就職準備中の者」、「進学準備中の者」を含む。

神戸大学

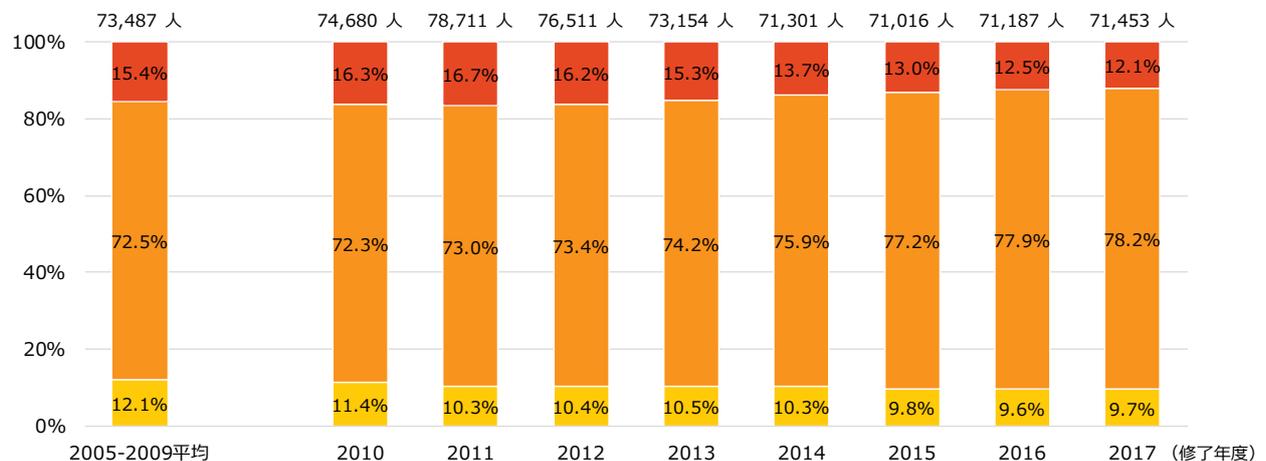


※文学研究科、総合人間科学研究科、自然科学研究科（いずれも2007年度入試より募集停止）、医学系研究科（2008年度より募集停止）の修了生についても含む。

国立大



全国



出典：文部科学省 学校基本調査（国立大および全国の2017年度の値は2018年8月時点の速報値）

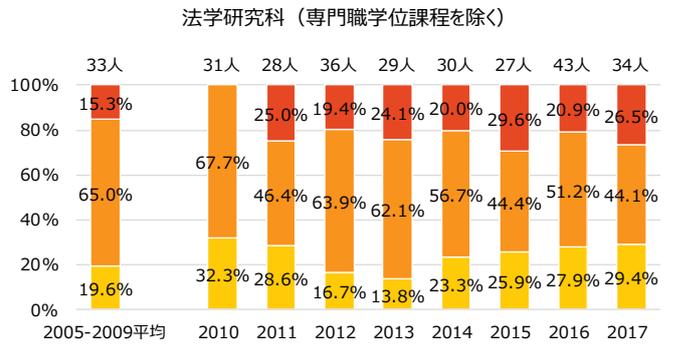
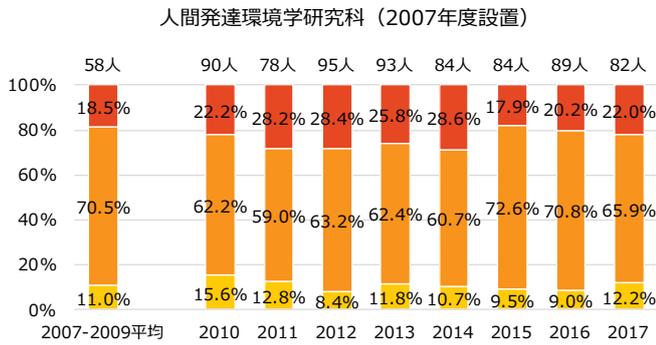
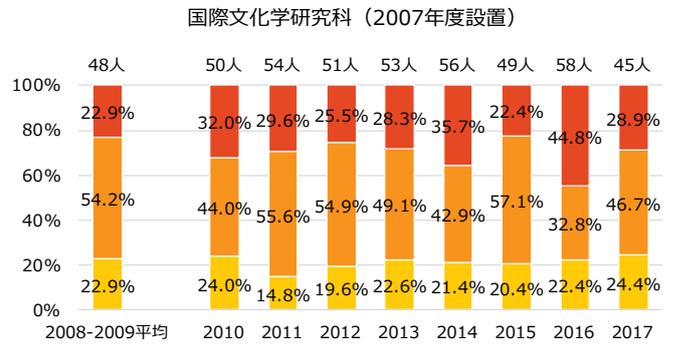
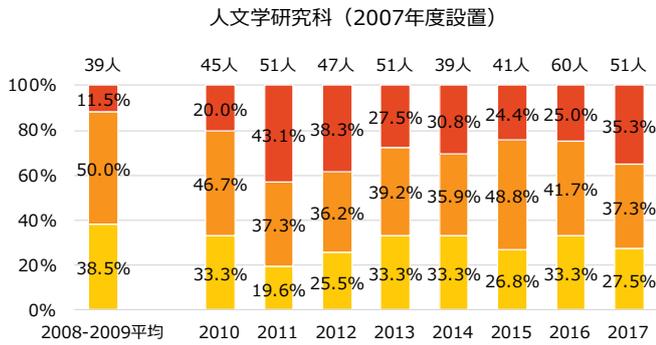
※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

7-5 修士課程・博士課程前期課程修了生の研究科別進路・就職状況

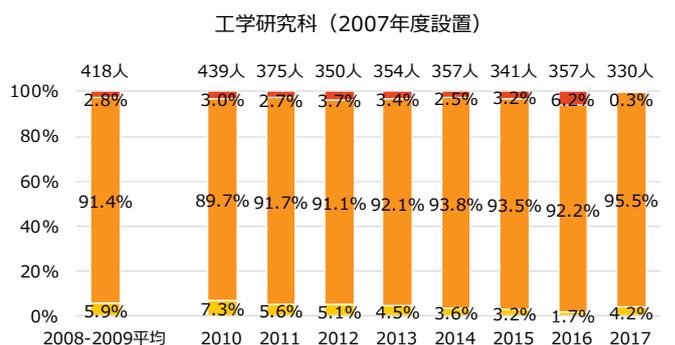
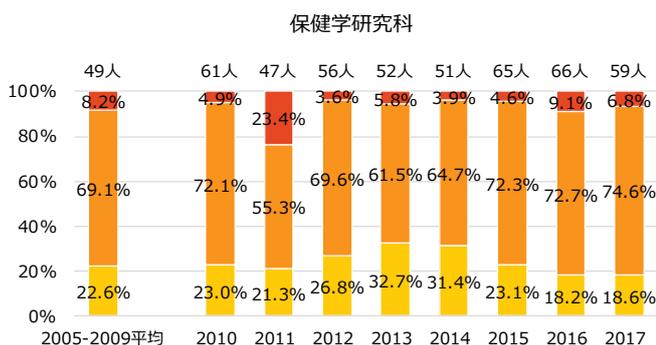
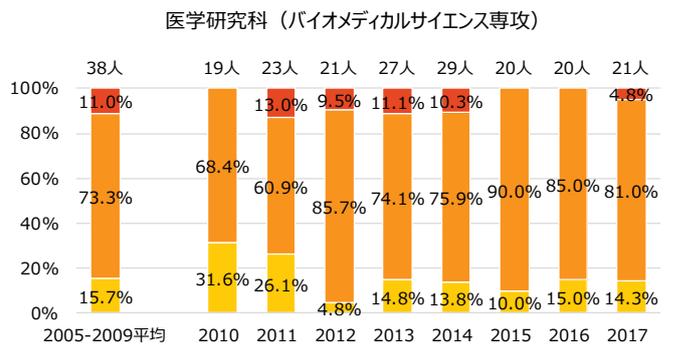
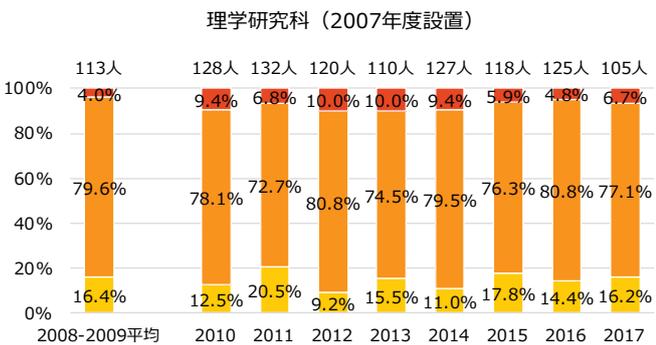
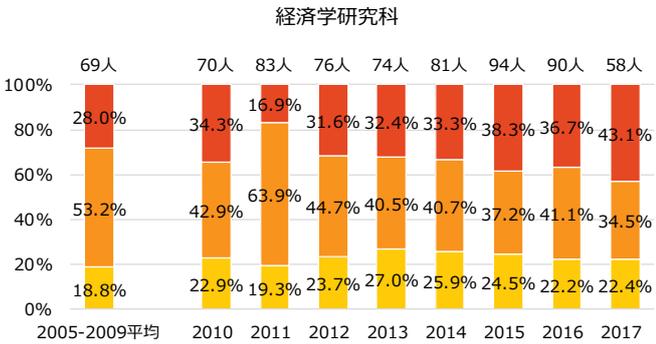
○ 文科系研究科において進学率が比較的高く、学士課程卒業生とは異なる傾向がみられる。

◆神戸大学◆ (修士課程・博士課程前期課程 修了年度)

■ 進学者 ■ 就職者 ■ その他

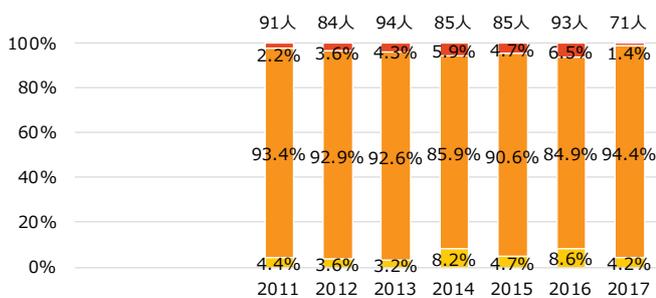


※2007年度修了生には、転入学した者を含む。

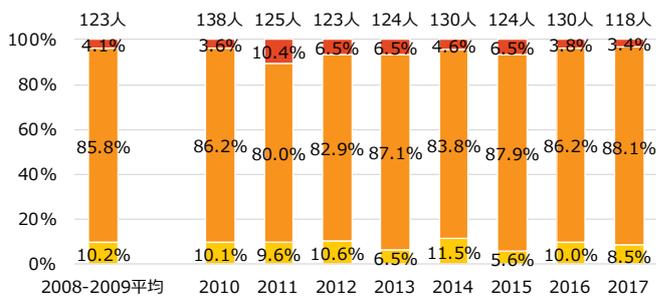


※保健学研究科の修了生には、医学系研究科保健学専攻 (2008年度入試より募集停止) の修了生を含む。

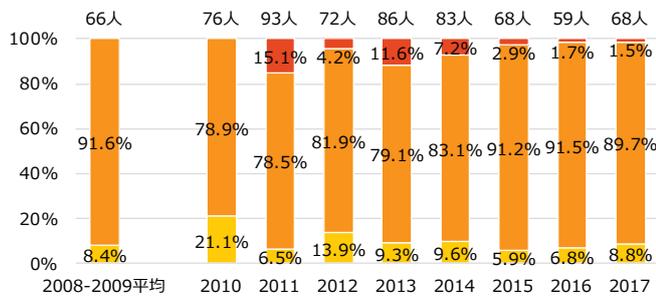
システム情報学研究科（2010年度設置）



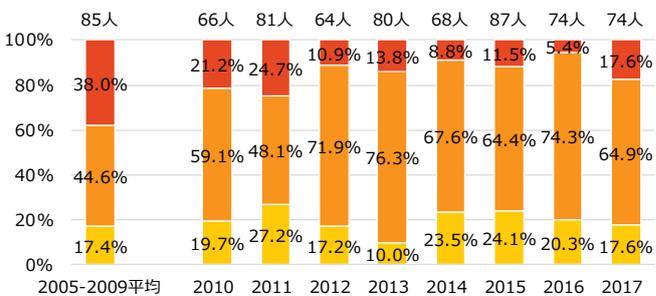
農学研究科（2007年度設置）



海事科学研究科（2007年度設置）



国際協力研究科



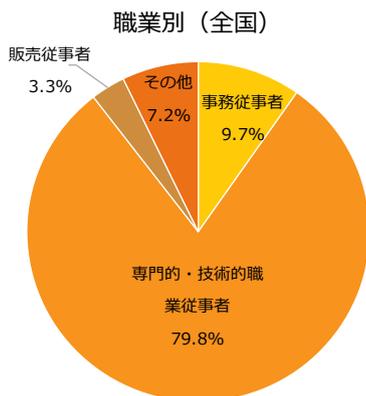
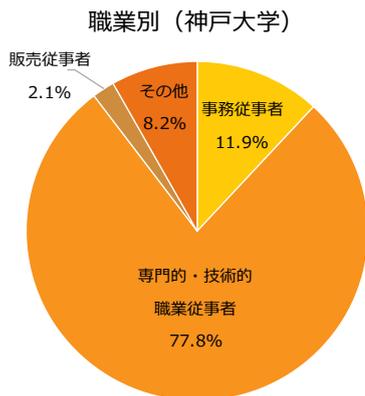
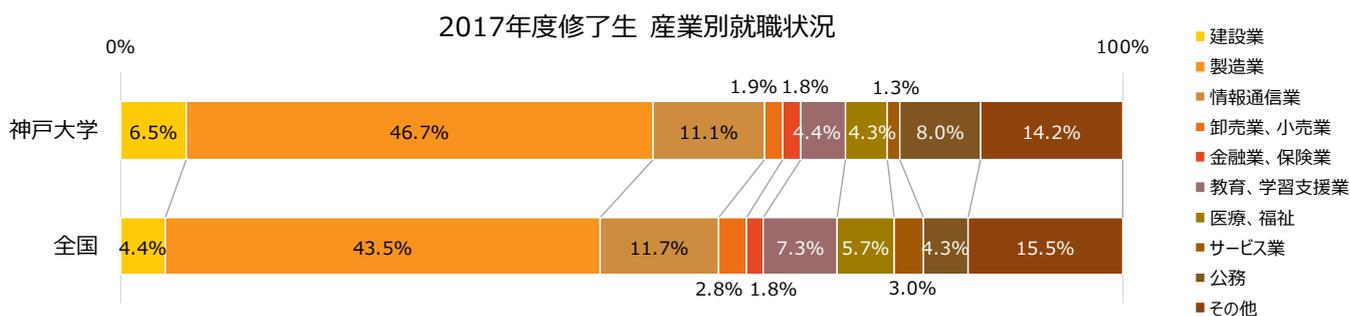
科学技術イノベーション研究科（2016年度設置）



※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

7-6 修士課程・博士課程前期課程修了生の産業別・職業別就職状況

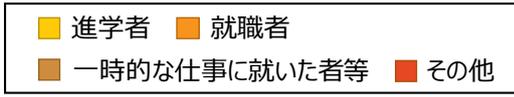
○ 産業別、職業別ともに概ね全国における傾向と同様の傾向が見られる。



出典：文部科学省 学校基本調査（2018年8月時点速報値）

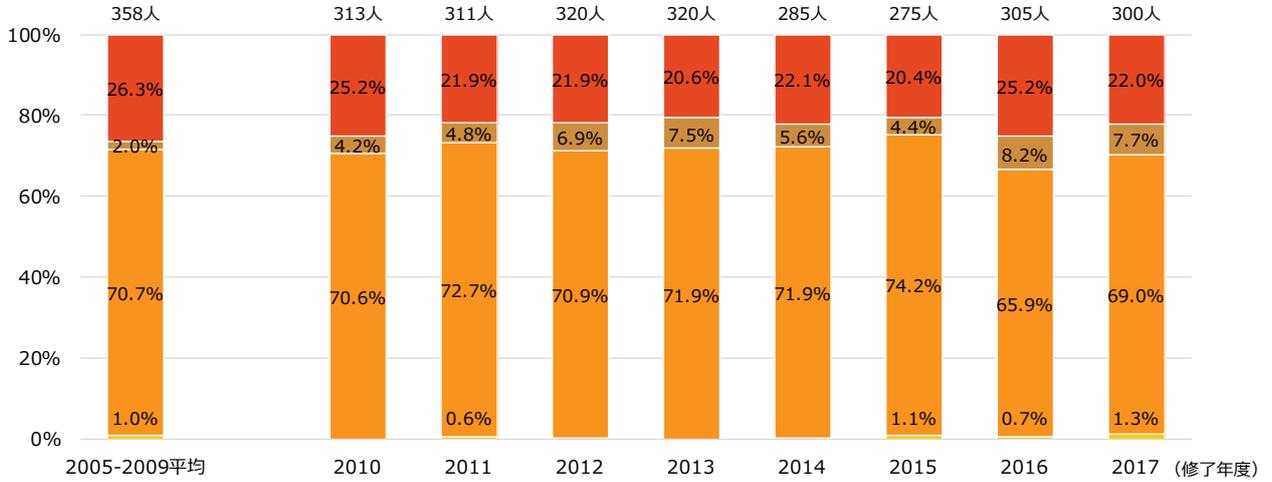
※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

7-7 博士課程・博士課程後期課程修了生の進路・就職状況



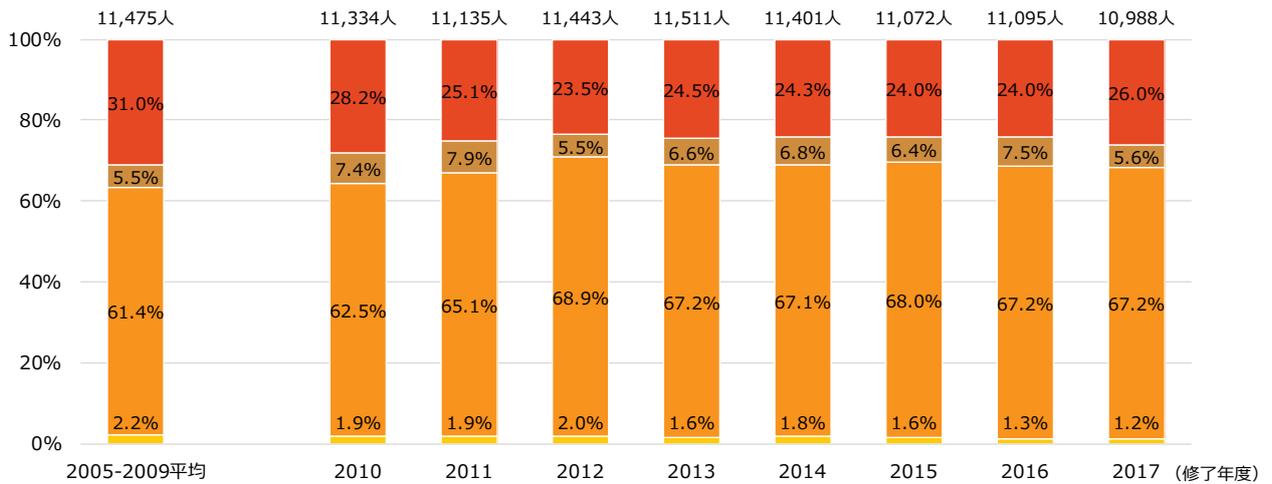
※「進学者」には「専修学校・外国の学校等に入学した者」を含む。
 ※「一時的な仕事に就いた者等」には「臨床研修医」を含む。
 ※「進学者のうち就職している者」は「進学者」としてカウントし、「就職者」には含まない。
 ※「その他」には「就職準備中の者」、「進学準備中の者」を含む。

神戸大学



※文学研究科、総合人間科学研究科、自然科学研究科（いずれも2007年度入試より募集停止）、医学系研究科（2008年度より募集停止）の修了生についても計上

国立大



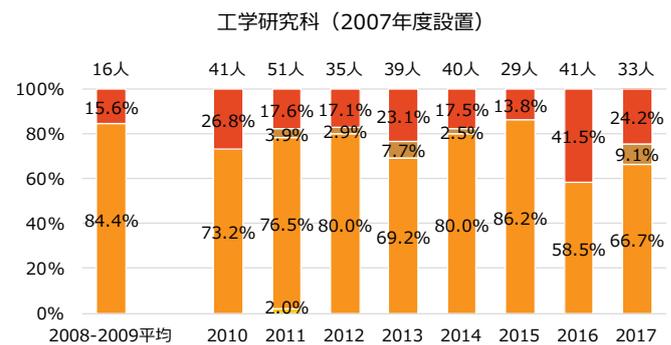
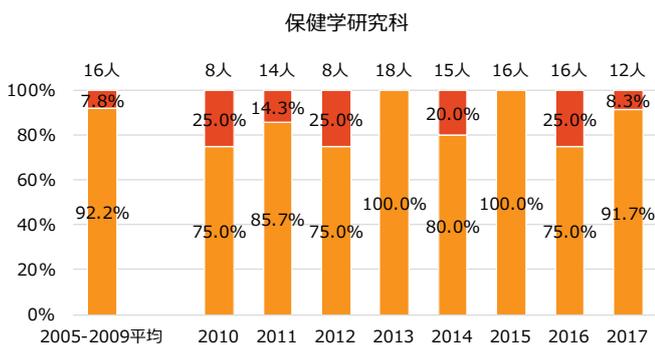
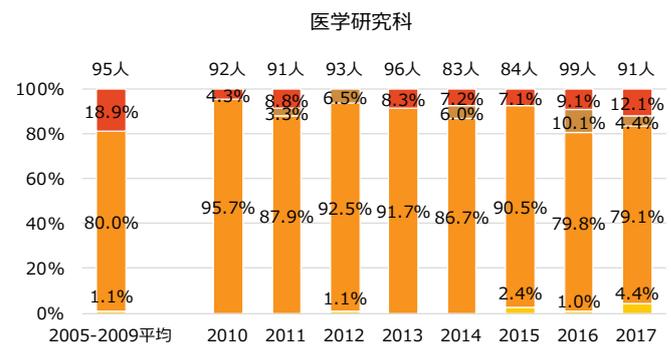
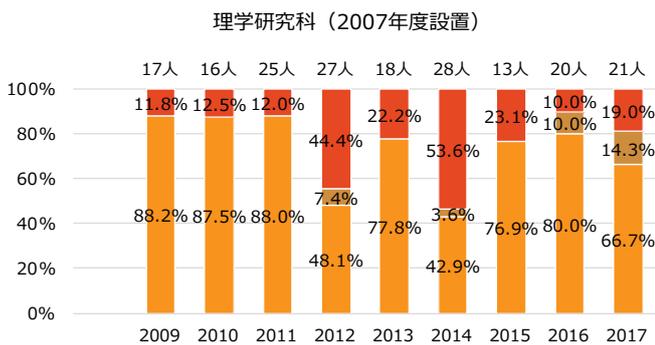
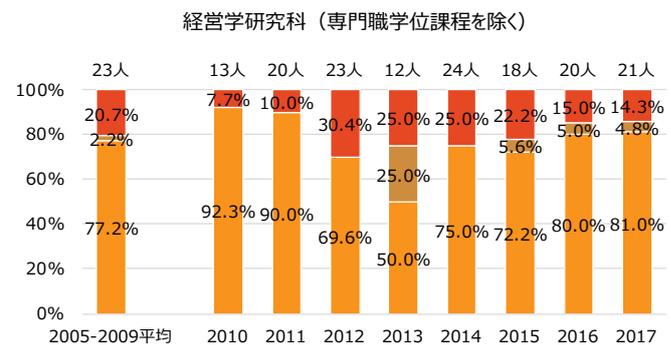
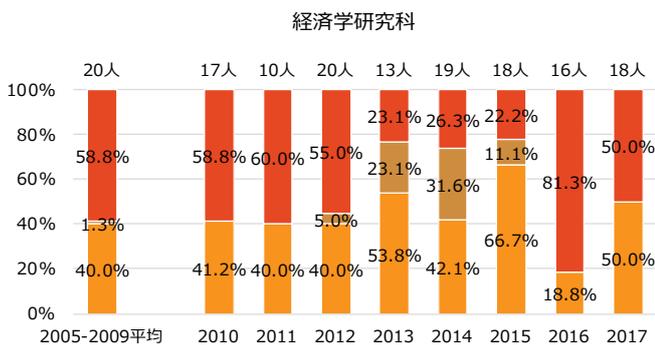
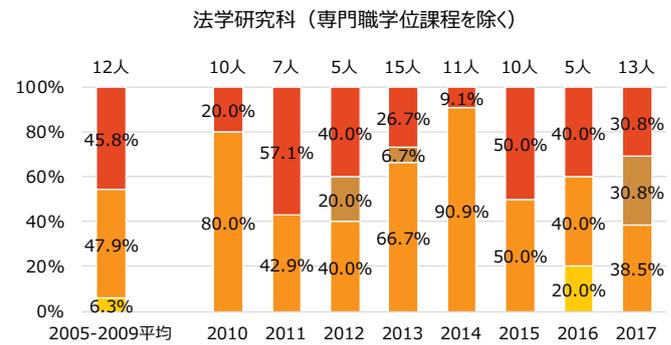
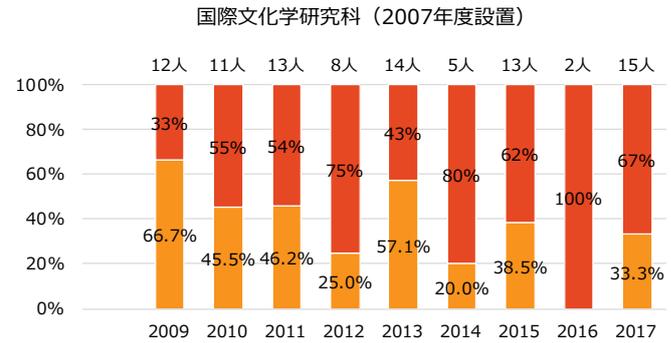
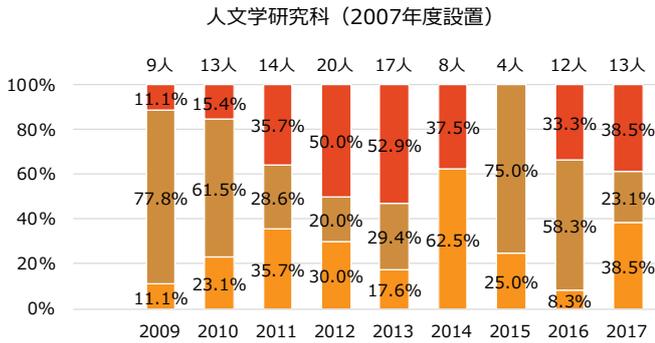
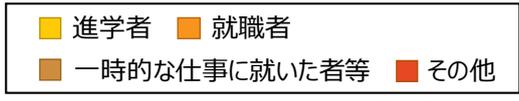
全国



出典：文部科学省 学校基本調査（国立大および全国の2017年度の値は2018年8月時点の速報値）

※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

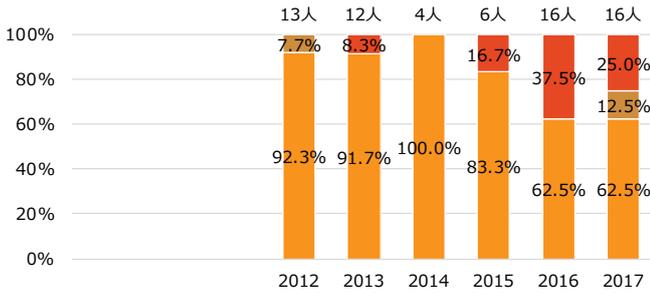
◆神戸大学◆ (博士課程・博士課程後期課程 修了年度)



※保健学研究科の修了生には、医学系研究科保健学専攻(2008年度入試より募集停止)の修了生を含む。

※2008年度修了生には、転入学した者を含む。

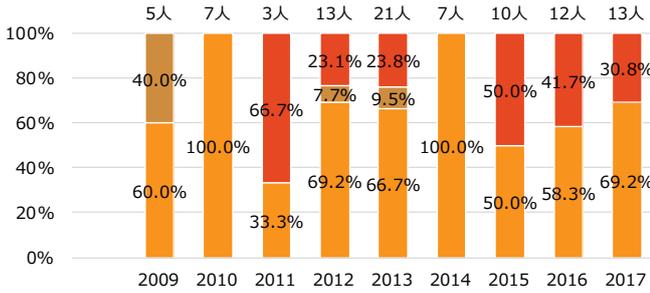
システム情報学研究科（2010年度設置）



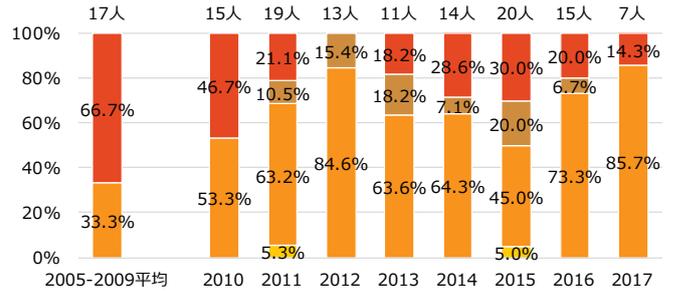
農学研究科（2007年度設置）



海事科学研究科（2007年度設置）



国際協力研究科

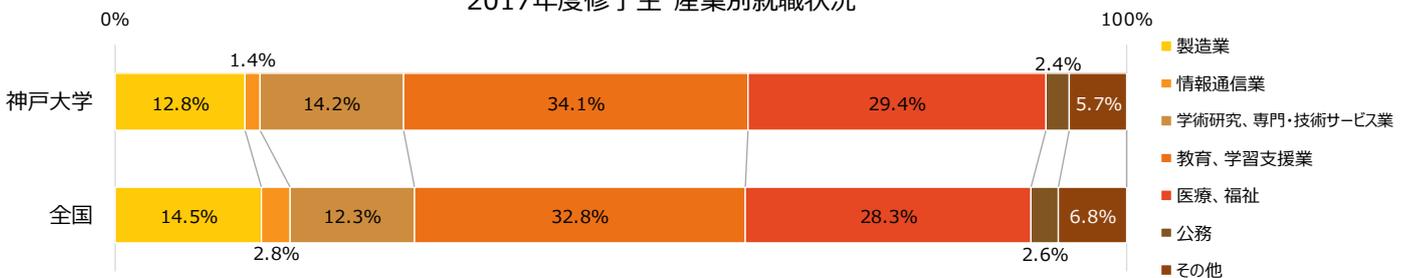


※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

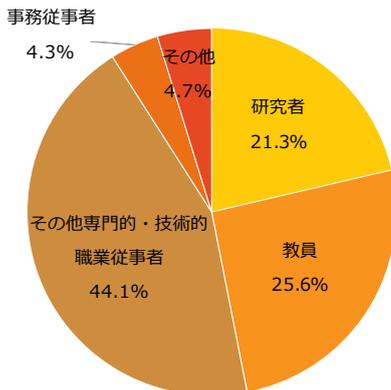
7-9 博士課程・博士課程後期課程修了生の産業別・職業別就職状況

○ 産業別、職業別ともに概ね全国における傾向と同様の傾向が見られる。

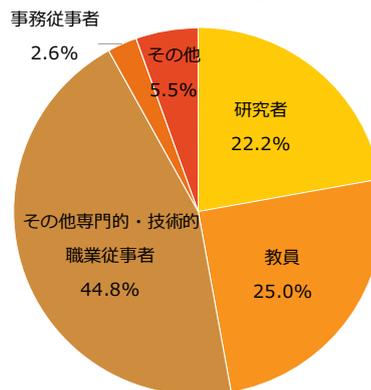
2017年度修了生 産業別就職状況



職業別（神戸大学）



職業別（全国）



出典：文部科学省 学校基本調査（2018年8月時点速報値）

※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

8. 資格試験合格状況

8-1 司法試験合格状況

○ 本学の司法試験合格状況について、毎年40人以上の合格者を安定して輩出している。

【合格率推移（上位20大学）】

順位	2014年度			2015年度			2016年度			2017年度			2018年度		
	大学名	合格率	合格者												
1	京都大	53.1%	130	一橋大	55.6%	79	一橋大	49.6%	63	京都大	50.0%	111	東北学院大	60.0%	3
2	東京大	52.0%	158	京都大	53.3%	128	東京大	48.1%	137	一橋大	49.6%	60	一橋大	59.5%	72
3	一橋大	47.1%	64	東京大	48.9%	149	京都大	47.3%	105	東京大	49.4%	134	京都大	59.3%	128
4	慶應義塾大	44.6%	150	神戸大	48.3%	72	慶應義塾大	44.3%	155	慶應義塾大	45.4%	144	東京大	48.0%	121
5	大阪大	40.1%	55	慶應義塾大	45.5%	158	早稲田大	35.8%	152	大阪大	40.7%	66	神戸大	39.5%	51
6	早稲田大	35.2%	172	愛知大	36.4%	8	神戸大	32.3%	41	神戸大	38.7%	55	慶應義塾大	39.2%	118
7	中央大	34.5%	164	中央大	35.8%	170	中央大	29.4%	136	愛知大	30.8%	4	大阪大	37.6%	50
8	千葉大	31.0%	26	早稲田大	30.8%	145	九州大	28.8%	36	早稲田大	29.4%	102	早稲田大	36.5%	110
9	神戸大	30.8%	44	大阪大	29.1%	48	大阪大	26.8%	42	首都大東京	27.0%	31	九州大	33.3%	29
10	東北大	26.4%	42	北海道大	28.6%	42	愛知大	26.7%	4	中央大	26.2%	119	名古屋大	30.5%	29
11	愛知大	25.9%	7	九州大	26.1%	40	名古屋大	25.0%	34	東北大	26.1%	18	白鷗大	28.6%	2
12	創価大	25.7%	18	東北大	25.7%	35	東北大	24.0%	23	北海道大	24.6%	29	東北大	27.3%	15
13	北海道大	25.5%	41	名古屋大	25.0%	37	北海道大	23.4%	30	名古屋大	23.7%	28	広島大	25.0%	12
14	首都大東京	22.9%	22	首都大東京	23.0%	26	広島大	20.3%	15	熊本大	20.0%	5	香川大	25.0%	3
15	九州大	22.8%	37	神奈川大	22.9%	8	千葉大	19.8%	17	鹿児島大	20.0%	3	中央大	23.2%	101
16	名古屋大	22.6%	30	大阪市立大	18.6%	22	首都大東京	19.5%	25	神戸学院大	20.0%	1	愛知大	23.1%	3
17	上智大	19.6%	31	岡山大	18.5%	12	創価大	19.4%	13	創価大	19.4%	13	信州大	22.7%	5
18	横浜国立大	19.4%	18	熊本大	18.4%	7	岡山大	18.0%	11	琉球大	19.4%	6	首都大東京	22.3%	23
19	岡山大	18.1%	13	創価大	17.9%	14	静岡大	16.7%	3	九州大	19.3%	17	岡山大	21.6%	11
20	大阪市立大	17.4%	19	同志社大	17.5%	33	神戸学院大	15.4%	2	関西学院大	18.4%	18	創価大	21.3%	13

【既修者・合格率推移（上位20大学）】

順位	2016年度			2017年度			2018年度		
	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者
1	鹿児島大	100.0%	1	大高法科大学院大	100.0%	1	東北学院大	100.0%	1
2	京都大	64.4%	96	福岡大	100.0%	1	一橋大	76.6%	59
3	東京大	63.0%	104	東京大	68.7%	103	京都大	73.8%	110
4	一橋大	61.7%	50	一橋大	65.0%	52	岡山大	71.4%	5
5	慶應義塾大	58.8%	124	京都大	63.2%	96	琉球大	66.7%	2
6	創価大	56.3%	9	熊本大	60.0%	3	東京大	66.2%	92
7	大高法科大学院大	50.0%	1	慶應義塾大	58.6%	123	山梨学院大	50.0%	2
8	琉球大	50.0%	1	大阪大	53.1%	51	熊本大	50.0%	1
9	広島大	45.0%	9	金沢大	50.0%	4	静岡大	50.0%	1
10	早稲田大	42.7%	103	岡山大	50.0%	4	慶應義塾大	46.7%	92
11	名古屋大	41.0%	25	神奈川大	50.0%	1	大阪大	46.2%	30
12	岡山大	38.5%	5	関西学院大	50.0%	1	西南学院大	42.9%	3
13	九州大	37.5%	24	神戸大	45.0%	49	神戸大	42.7%	44
14	神戸大	34.1%	29	早稲田大	35.5%	76	九州大	42.6%	20
15	名城大	33.3%	3	東北大	34.9%	15	早稲田大	41.5%	80
16	静岡大	33.3%	1	創価大	33.3%	5	京都産業大	36.4%	4
17	中京大	33.3%	1	名古屋大	32.1%	17	名古屋大	34.1%	15
18	大阪大	32.9%	28	北海道大	31.0%	22	信州大	33.3%	1
19	中央大	32.6%	108	首都大東京	30.9%	29	青山学院大	30.0%	3
20	北海道大	29.2%	21	中央大	29.5%	100	東北大	29.0%	9

【未修者・合格率推移（上位20大学）】

順位	2016年度			2017年度			2018年度		
	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者
1	神戸大	28.6%	12	愛知大	36.4%	4	東北学院大	50.0%	2
2	愛知大	28.6%	4	東京大	25.6%	31	白鷗大	33.3%	1
3	一橋大	28.3%	13	神戸学院大	25.0%	1	香川大	30.0%	3
4	東京大	27.5%	33	大阪大	22.7%	15	一橋大	29.5%	13
5	早稲田大	26.8%	49	京都大	21.4%	15	大阪大	29.4%	20
6	慶應義塾大	22.3%	31	琉球大	20.0%	6	広島大	29.4%	10
7	中央大	21.4%	28	鹿児島大	20.0%	3	早稲田大	27.8%	30
8	九州大	19.7%	12	慶應義塾大	19.6%	21	名古屋大	27.5%	14
9	大阪大	19.4%	14	早稲田大	19.5%	26	愛知大	27.3%	3
10	神戸学院大	16.7%	2	一橋大	19.5%	8	神戸大	26.9%	7
11	北海道大	16.1%	9	神戸大	18.2%	6	法政大	26.9%	7
12	東北大	15.2%	5	名古屋大	16.9%	11	京都大	26.9%	18
13	金沢大	15.2%	5	中央大	16.4%	19	東京大	25.7%	29
14	千葉大	14.3%	4	創価大	15.4%	8	慶應義塾大	25.0%	26
15	首都大東京	13.6%	3	千葉大	15.4%	4	大阪市立大	25.0%	8
16	福岡大	13.3%	6	島根大	15.4%	2	東北大	25.0%	6
17	新潟大	13.3%	4	同志社大	15.2%	7	九州大	22.5%	9
18	静岡大	13.3%	2	北海道大	14.9%	7	信州大	21.1%	4
19	関西学院大	12.7%	9	大阪市立大	14.6%	6	創価大	20.8%	10
20	岡山大	12.5%	6	大阪学院大	14.3%	2	学習院大	20.8%	5
				愛知学院大	14.3%	1			

出典：法務省ホームページ「司法試験の結果について」

※ このランキングは法科大学院卒業生のみを対象とし、予備試験合格者については含めていない。

8-2 各種資格試験・採用試験合格状況

○ 各種資格試験・採用試験において、安定して合格者を輩出している。

国家公務員総合職			弁理士			公認会計士			一級建築士		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者
1 (1)	東京大	372	1 (1)	東京大	34	1	慶應義塾大	157	1	日本大	181
2 (2)	京都大	182	2 (2)	大阪大	17	2	早稲田大	111	2	東京理科大	108
3	早稲田大	123	3 (3)	京都大	16	3	明治大	84	3	芝浦工業大	102
4 (3)	大阪大	83	4 (4)	東京工業大	14	4	中央大	77	4	早稲田大	71
5 (4)	北海道大	82	5	慶應義塾大、 東京理科大	12	5 (1)	東京大	50	5	明治大	67
6	慶應義塾大	79				6 (2)	京都大	48	6 (1)	千葉大、工学院大	60
7 (5)	東北大	72	7 (5)	東北大、早稲田大	11	7 (3)	一橋大	36	8	近畿大、法政大	58
8 (6)	九州大	67	9	中央大	7	8	立命館大	31	10 (2)	京都大	56
9	中央大	51	10 (6)	筑波大、名古屋大	6	9 (4)	神戸大、専修大	29	11 (3)	神戸大、京都工芸繊維大	52
10 (7)	一橋大	49	12 (8)	神戸大、岐阜大	5						
11	東京理科大	42									
12 (8)	東京工業大、名古屋大	41									
14 (10)	千葉大	37									
15	立命館大	36									
16 (11)	神戸大	35									
13.0 (9.0)	神戸大 過去三カ年平均	39.0	18.0 (11.0)	神戸大 過去三カ年平均	5.0	8.7 (1.3)	神戸大 過去三カ年平均	27.0	9.3 (2.0)	神戸大 過去三カ年平均	52.7

技術士			医師国家試験			看護師			保健師		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格率	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者
1 (1)	京都大	147	1	自治医科大	100.0%	1	順天堂大[医療看護]	201	1	順天堂大[医療看護]	131
2	日本大	144	2 (1)	筑波大	98.2%	2	日本赤十字広島看護大	148	2	順天堂大[保健看護]	113
3 (2)	北海道大	108	3	名古屋市立大	97.3%	3	聖隷クリストファー大	145	3	北里大	109
4 (3)	東京大	105	4	横浜市立大	96.6%	4	日本赤十字看護大	140	4	三重県立看護大	104
5 (4)	大阪大	104	5 (2)	東京医科歯科大	96.3%	5	日本赤十字豊田看護大	137	5	兵庫県立大	103
6 (5)	九州大	103	6	順天堂大	96.0%	6	帝京大	132	6	京都橘大	95
7	早稲田大	95	7 (3)	金沢大	95.9%	7	広島化学学園大	128	7	自治医科大	93
8 (6)	東京工業大、東北大	92	8	慶應義塾大	95.6%	8	埼玉県立大、広 島国際大	121	8	新潟県立看護大	92
10 (8)	名古屋大	70	9 (4)	佐賀大	95.5%		9 (1)	金沢大、千葉大	91	9 (1)	金沢大、千葉大
11 (9)	神戸大	65	10 (5)	浜松医科大	95.1%	10	九州看護福祉大、国際医 療福祉大[保健医療]	120	11	濁協医科大	88
				：			：			：	
			48 (30)	神戸大	88.6%		：		197 (39)	神戸大	4
						91 (1)	金沢大	85			
							：				
						139 (11)	神戸大、他2大学	76			
12.7 (9.3)	神戸大 過去三カ年平均	55.3	46.7 (24.0)	神戸大 過去三カ年平均	90.9%	110.3 (8.3)	神戸大 過去三カ年平均	79.7	103.5 (20.0)	神戸大 過去三カ年平均	51.0

※保健師の合格者数について
保健師養成課程を学部から大学院に移したことに伴い、2016年度以降の本学における受験資格取得者は毎年5名程度となっているため、保健師の合格者数は過年度と比較して大幅に減少している。

臨床検査技師			作業療法士			理学療法士			
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	
1	北里大[医療衛生]	120	1	国際医療福祉大 [保健医療]	96	1	帝京科学大	157	
2	熊本保健科学大	115		2	健康科学大	54	2	健康科学大	113
3	杏林大	94		3	帝京平成大[健康メディ カル]、目白大	53	3	新潟医療福祉大	109
4	国際医療福祉大	91		5	国際医療福祉大[福岡保 健医療]、兵庫医療大	52	4	国際医療福祉大 [保健医療]	104
5	麻布大、藤田保 健衛生大	90		7	東北福祉大	50	5	国際医療福祉大[福岡保 健医療]、北海道文教大	102
7	文京学院大	86		8	新潟医療福祉大、広 島国際大	48	7	帝京平成大[健康メディ カル]、了徳寺大	97
8	神戸常盤大	80		10	国際医療福祉大 [小田原保健医療]	46	9	日本医療科学大、文 教学院大	95
9	岐阜医療科学大	79			11	帝京平成大[地域医療]	94		
10	帝京大	77							
16 (1)	大阪大	50							
22 (2)	群馬大、山口大	41	44 (1)	広島大、他2大学	25	71 (1)	広島大、宝塚医療大	31	
24 (4)	北海道大	40							
25 (5)	神戸大、他3大学	39	52 (2)	京都大、他2大学	21	75 (2)	神戸大、大阪府立大	25	
			55 (3)	神戸大、他3大学	20				
23.3 (8.0)	神戸大 過去三カ年平均	38.7	54.0 (8.3)	神戸大 過去三カ年平均	18.0	80.0 (7.5)	神戸大 過去二カ年平均	16.0	

※合格者数は（人）
カッコ内は国立大学内の順位

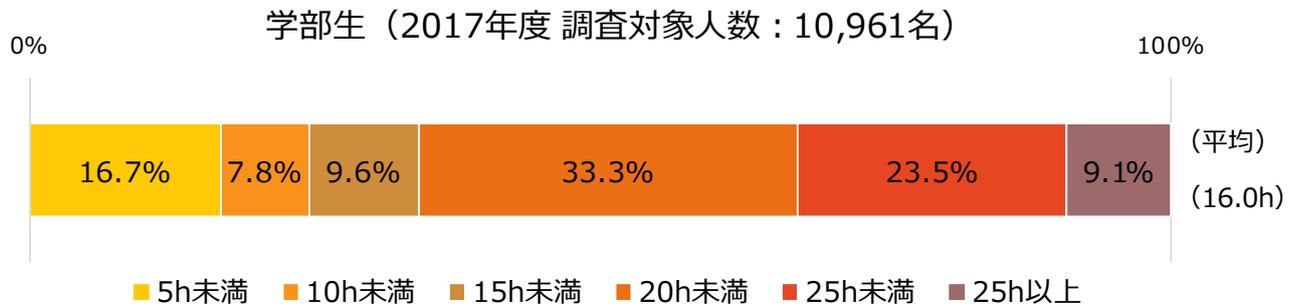
出典：朝日新聞出版
「大学ランキング2019年版」より作成。
※データは2017年の数値、過去三カ年平均値は2014～2016年の平均値
(理学療法士のみ2015～2016年の平均値)

9. 学生生活状況

9-1 学部学生の学修時間等について

◆学部学生の1週間あたりの授業時間

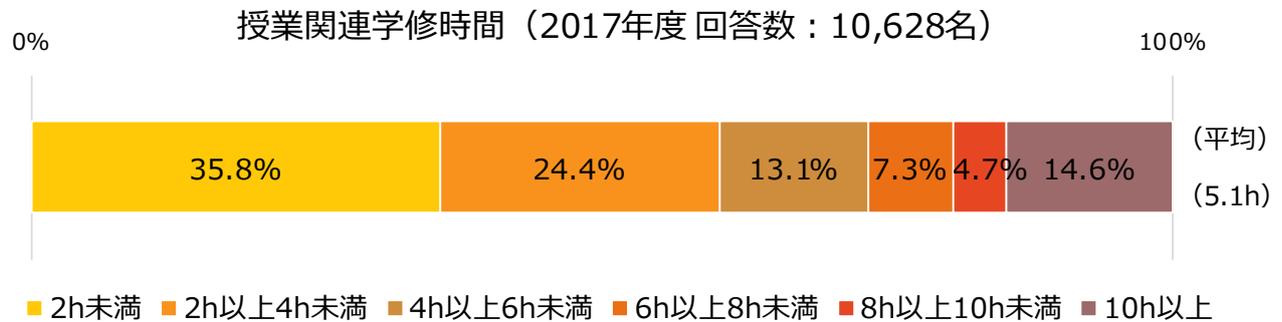
○ 1週間に15時間以上の授業を受けている学生が、65.9%と半数以上を占めている。



注：小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

◆学部学生の1週間あたりの授業関連学修時間と自主的学修時間

○ 1週間に授業関連の学修をする時間が4時間未満である学生が60.2%、自主的学修をする時間が4時間未満である学生は、68.8%となっている。



授業関連学修時間… 履修している授業に関連した学修や、ゼミ・卒業論文・卒業研究等に関する学修
 （授業の予習・復習、課題やレポートの作成、定期試験の準備、資料検索、実験準備、実験実施、発表準備、論文執筆等）



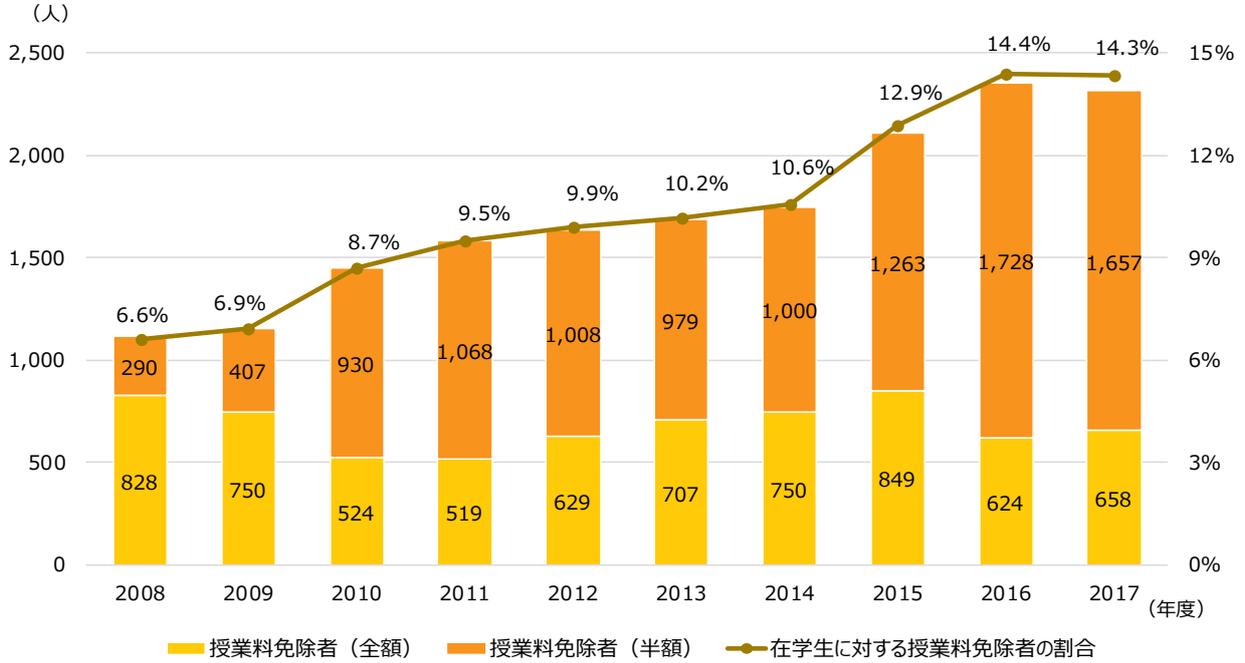
自主的学修時間… 授業関係時間以外で、自主的に行った学修
 （資格試験学習、語学学習、大学院試験対策、就職試験対策、フィールドワーク、インターンシップ、ボランティア、セミナー、クラブ・サークル活動、教養のための読書等）

出典：神戸大学「学修の記録」全学集計結果

9-2 経済支援について

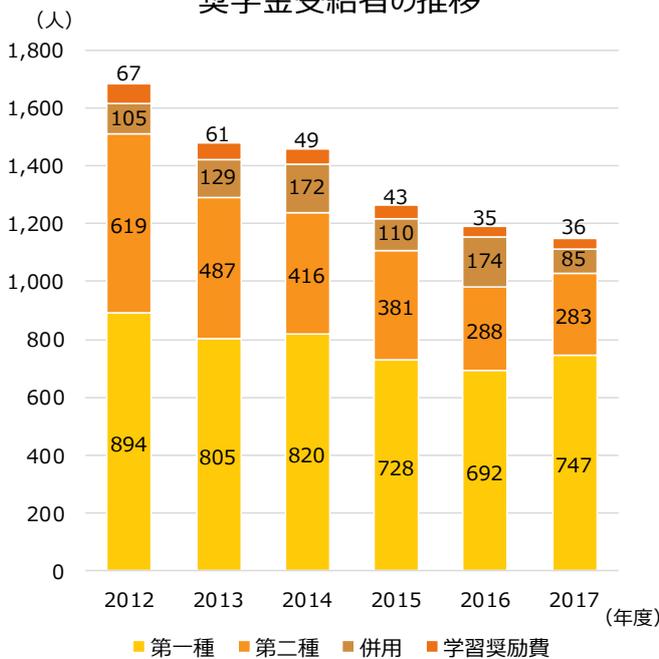
- 授業料の半額免除枠を段階的に拡大し、在学生に対する免除者の割合は14%超となっている。
- 日本学生支援機構の奨学金の受給者は減少している。また、その他の奨学金について地方自治体が減少し、民間・財団法人等や大学支給が増加している。

授業料免除者とその割合

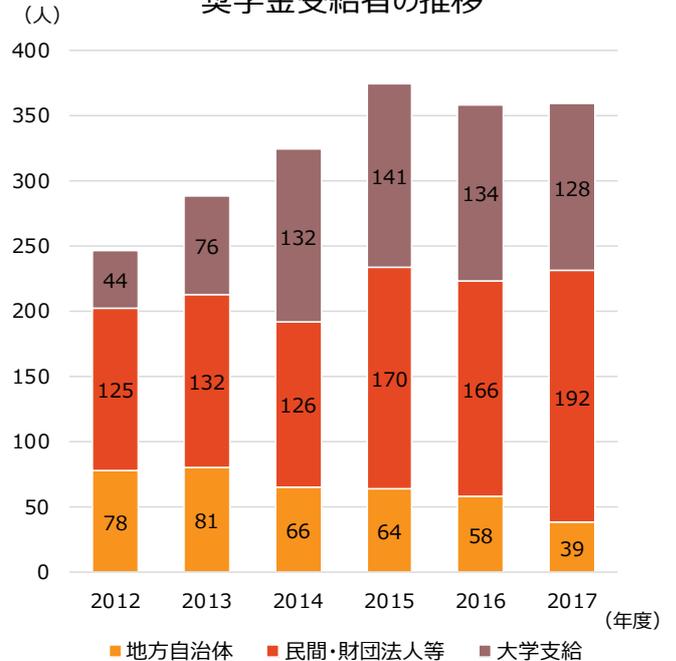


※授業料免除者については、前後期の平均値

日本学生支援機構の奨学金受給者の推移



日本学生支援機構以外の奨学金受給者の推移



※日本学生支援機構の内訳

第一種：第一種（無利息）のみ受給している学生

第二種：第二種（利息付）のみ受給している学生

併用：第一種、第二種併用して受給している学生

学習奨励費：学習奨励費（私費外国人学生対象の給与型奨学金）を受給している学生

10. 研究論文

10-1 インパクトの高い論文数分析による日本の研究機関ランキング

- 本学の2007年1月から2017年12月の約11年間における高被引用論文数は、国内で16位、大学に限ると13位となっている。
- 20位以内にランクインした国立大学は、すべて国立大学法人運営費交付金の支援枠の重点支援3（卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する大学:16大学）の枠組みであった。
- ただし、データ元の「Web of Science」は自然科学・生命医学系の学術論文を中心に収録しているデータベースであることに留意が必要である。（「10.研究論文」全体の項目について）

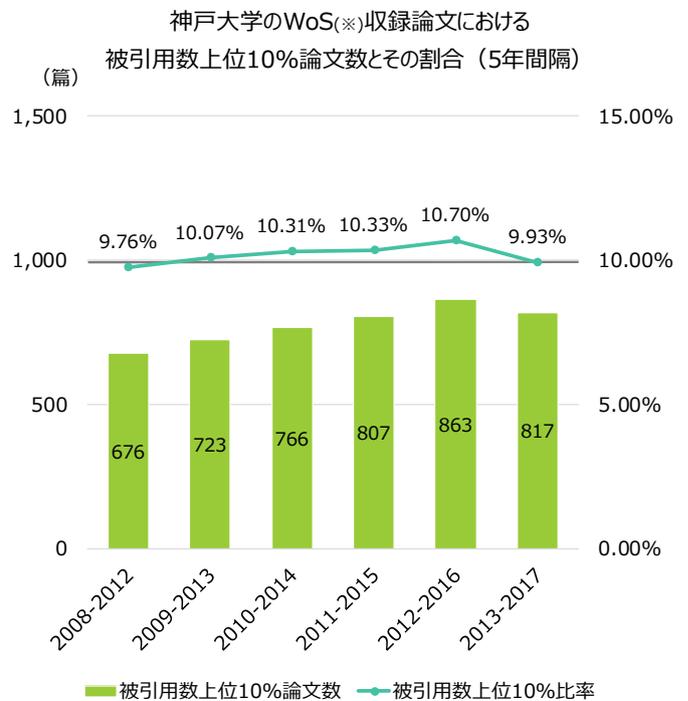
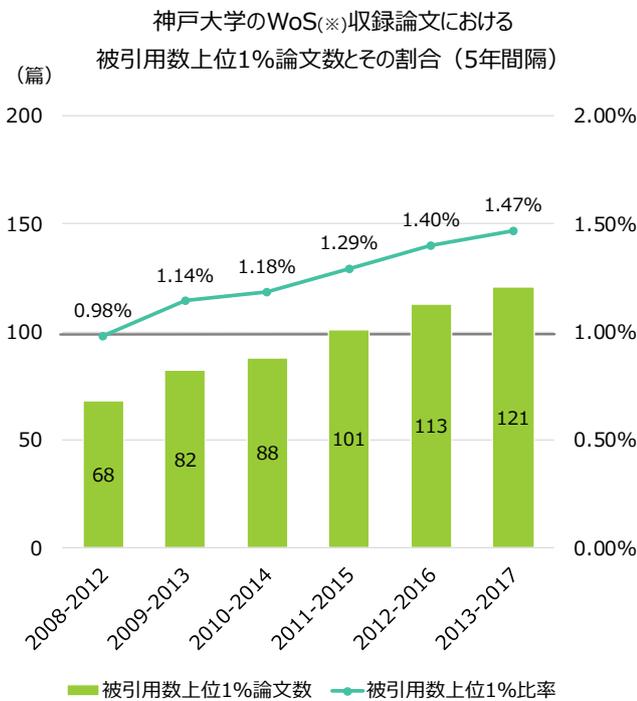
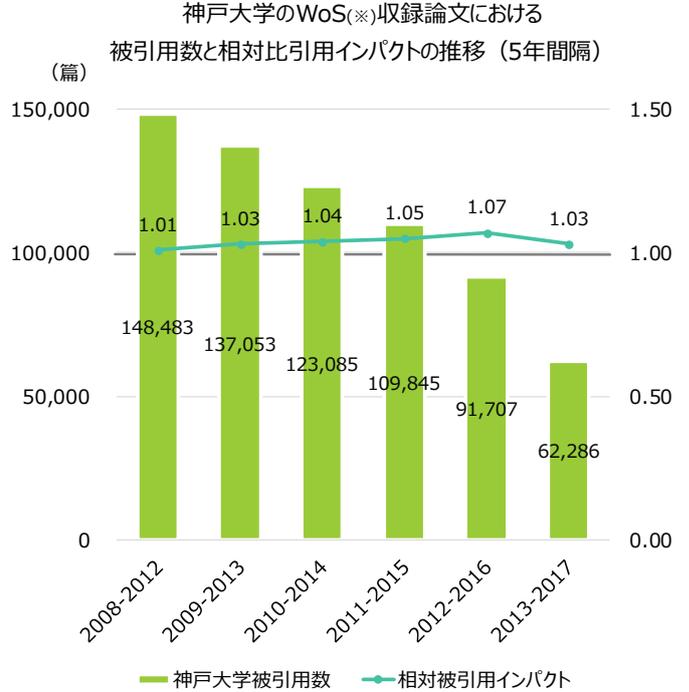
順位	機関名	高被引用論文数	当該大学の論文数に占める割合
1	東京大学	1,338	1.6%
2	京都大学	818	1.3%
3	国立研究開発法人 理化学研究所	677	2.5%
4	大阪大学	544	1.1%
5	東北大学	513	1.1%
6	名古屋大学	399	1.2%
7	九州大学	319	0.9%
8	国立研究開発法人 物質・材料研究機構	307	2.1%
9	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	303	1.2%
10	東京工業大学	302	1.1%
11	北海道大学	264	0.8%
12	筑波大学	249	1.1%
13	広島大学	188	1.0%
14	岡山大学	184	1.2%
15	慶應義塾大学	174	0.9%
16	神戸大学	172	1.1%
17	国立研究開発法人 国立がん研究センター	171	2.5%
18	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構	170	1.4%
19	早稲田大学	163	1.3%
20	千葉大学	131	0.9%

出典：クラリベイト・アナリティクス社プレスリリース「インパクトの高い論文数分析による日本の研究機関ランキング」

※当データは、同社が提供する学術文献データベース「Web of Science」の収録レコードをもとにした引用動向の統計データベース「Essential Science Indicators™」に収録されている世界の研究機関情報から、同データベースの22研究分野において被引用数が上位1%の高被引用論文を集計し、ランキング化したものである。

10-2 論文の量と質についての比較 - 推移 -

- 総論文数は増加傾向にあり、世界シェアは0.1%前後を維持している。
- 被引用数は、過去の論文である程増えるため傾向を一概には読み取れないが、被引用数上位1%論文数は増加傾向にあり、本学の総論文数における割合も最新の比較では世界平均を0.47%ポイント上回っている。



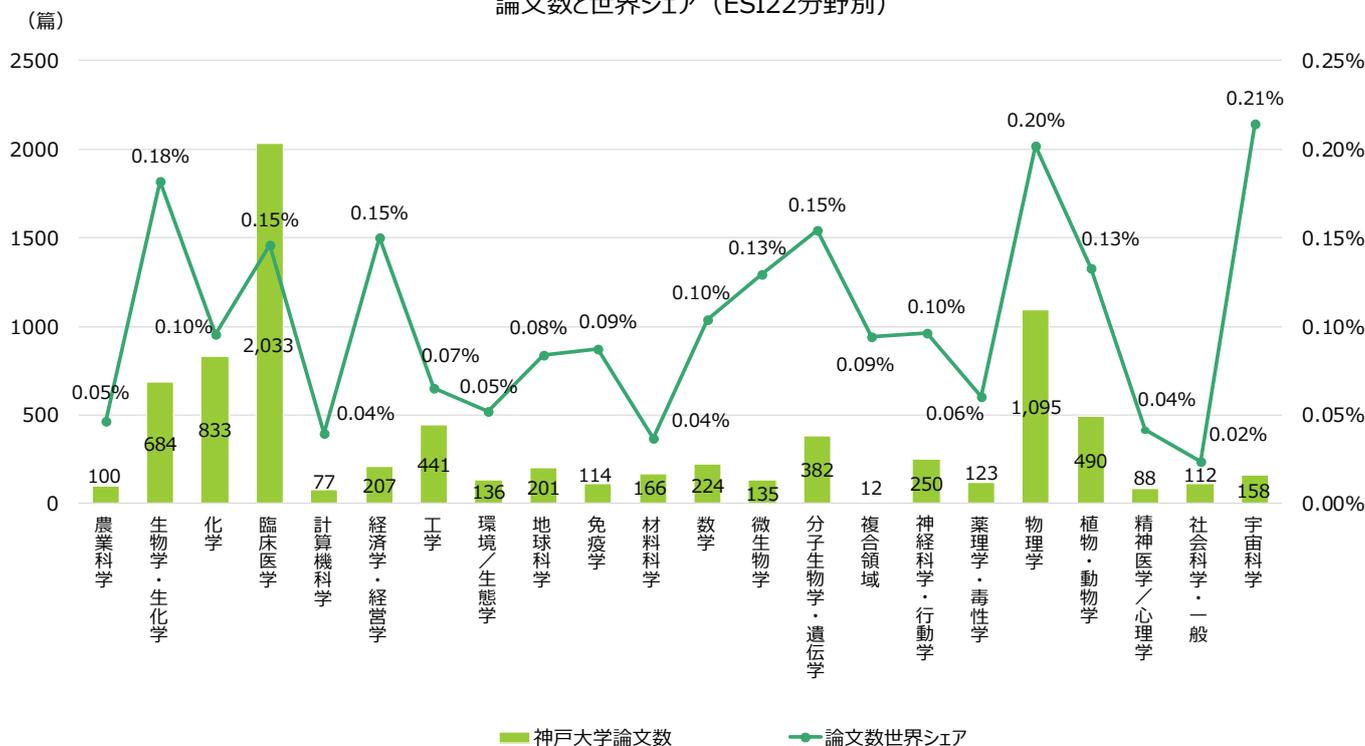
出典：引用文献に基づく研究評価ツール「InCites™」によりWoS(※)収録論文の2つのドキュメントタイプ (Article, Review) のデータについて、5年間の累計値を分析した。なお、本データは2018年7月28日現在の数値である。
 ※「WoS」=「Web of Science™」の略。

○相対被引用インパクト：各分野における1論文あたりの被引用数を世界平均1.0とした場合の相対的な割合を示す数値。

10-3 論文の量と質についての比較 – ESI22分野別 –

- InCites™を用いて、本学の研究をESI22分野別に比較した結果である。
- 相対被引用インパクトが世界平均1.0を超える分野は学術的影響力の高い研究成果が生み出されていることを示している。

論文数と世界シェア（ESI22分野別）



被引用数と相対被引用インパクト（ESI22分野別）



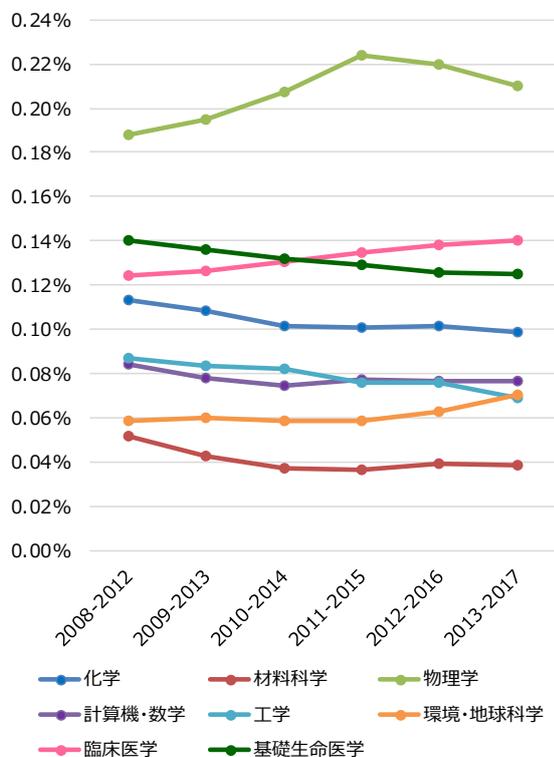
※引用文献に基づく研究評価ツール「InCites™」により、2013～2017年の2つのドキュメントタイプ（Article, Review）の論文について、「Essential Science Indicators™」の22分野別でデータを分析した。なお、本データは2018年8月20日現在の数値である。

10-4 論文の量と質についての比較 - NS 8 分野別 -

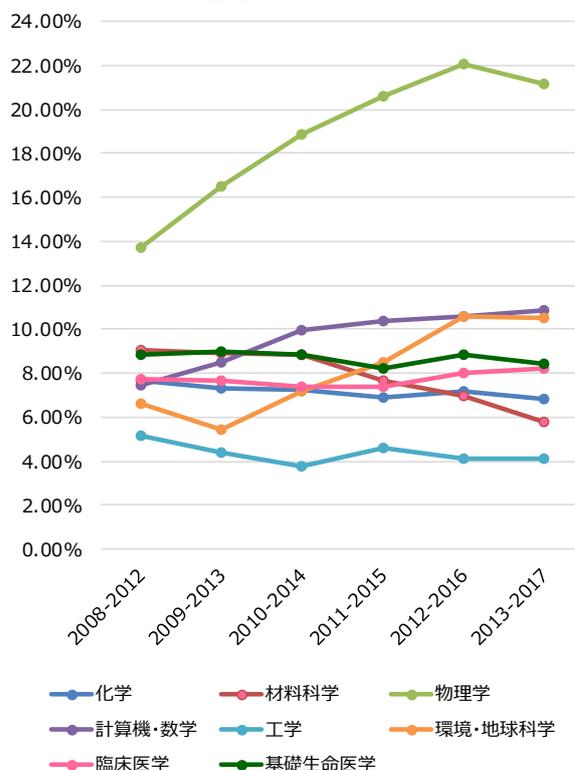
○ 科学技術・学術政策研究所（NISTEP）が定義した研究ポートフォリオ8分野別に、本学の論文を分析した結果である。本学では、物理学分野が突出していることがわかる。

◆推移（2008-2017年、5年間隔）

神戸大学 論文数世界シェア（百分率）

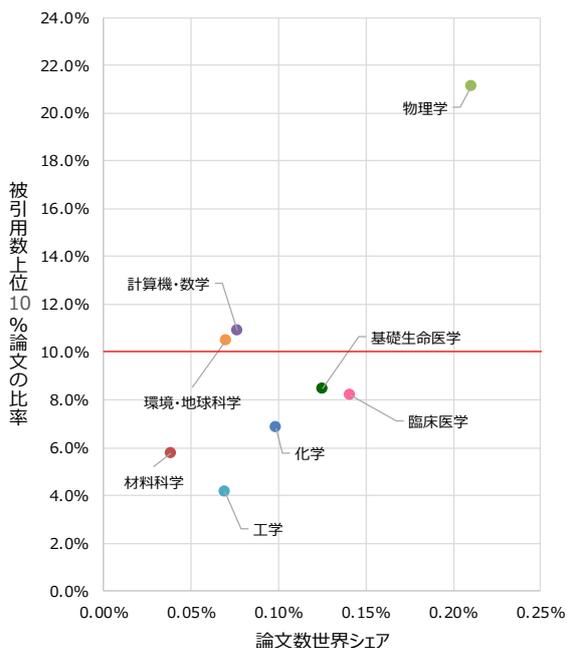


総論文数に対する
被引用数上位10%論文の比率（百分率）



◆マッピング

神戸大学（2013-2017）

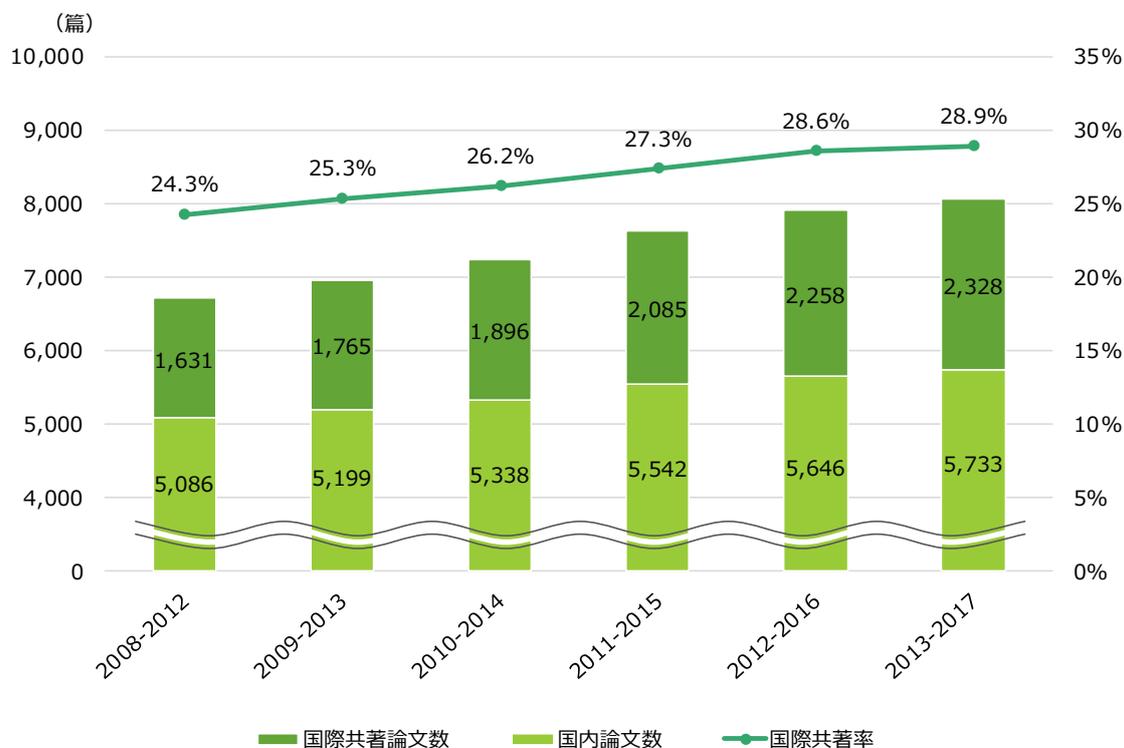


※引用文献に基づく研究評価ツール「InCites™」により、2つのドキュメントタイプ（Article, Review）の論文について、科学技術・学術政策研究所「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2015」において用いられていた「研究ポートフォリオ8分野（ESI22分野のうち19分野を再分類したもの）」別にデータを分析した。共著論文のカウント方法は整数カウント法である。また、本データは2018年7月28日現在の数値である。

10-5 論文の量と質についての比較 — 国際共著 —

○ 本学の国際共著論文数・国際共著率はともに増加傾向にある。分野別で見ると、物理学や天文学が特に高く、その他幅広い分野で積極的に国際連携して研究を行っていることがわかる。

◆神戸大学の国際共著論文数の推移（5年毎の合計値）



◆神戸大学の国際共著論文の多い分野（2013-2017年の合計）

分野名 (Web of Science252分野)	国際共著論文数	国際共著率
PHYSICS, PARTICLES & FIELDS (物理学、粒子、界)	520	90.0%
ASTRONOMY & ASTROPHYSICS (天文学、宇宙物理学)	291	74.8%
BIOCHEMISTRY & MOLECULAR BIOLOGY (生化学、分子生物学)	118	26.8%
PHYSICS, NUCLEAR (物理学、核)	108	85.7%
PHYSICS, MULTIDISCIPLINARY (物理学、総合)	94	50.3%
BIOTECHNOLOGY & APPLIED MICROBIOLOGY (バイオテクノロジー、応用微生物学)	93	26.2%
PLANT SCIENCES (植物学)	80	29.1%
CELL BIOLOGY (細胞生物学)	78	26.4%
ECONOMICS (経済学)	65	28.5%
PHYSICS, APPLIED (物理学、応用)	63	23.0%
GENETICS & HEREDITY (遺伝学、遺伝)	58	32.0%
MATHEMATICS (数学)	55	30.9%
CHEMISTRY, PHYSICAL (化学、物理)	54	18.6%
MATERIALS SCIENCE, MULTIDISCIPLINARY (物質科学、総合)	53	21.0%
RADIOLOGY, NUCLEAR MEDICINE & MEDICAL IMAGING (放射線学、核医学、医用画像)	51	23.7%
ONCOLOGY (腫瘍学)	47	12.2%
IMMUNOLOGY (免疫学)	42	32.3%

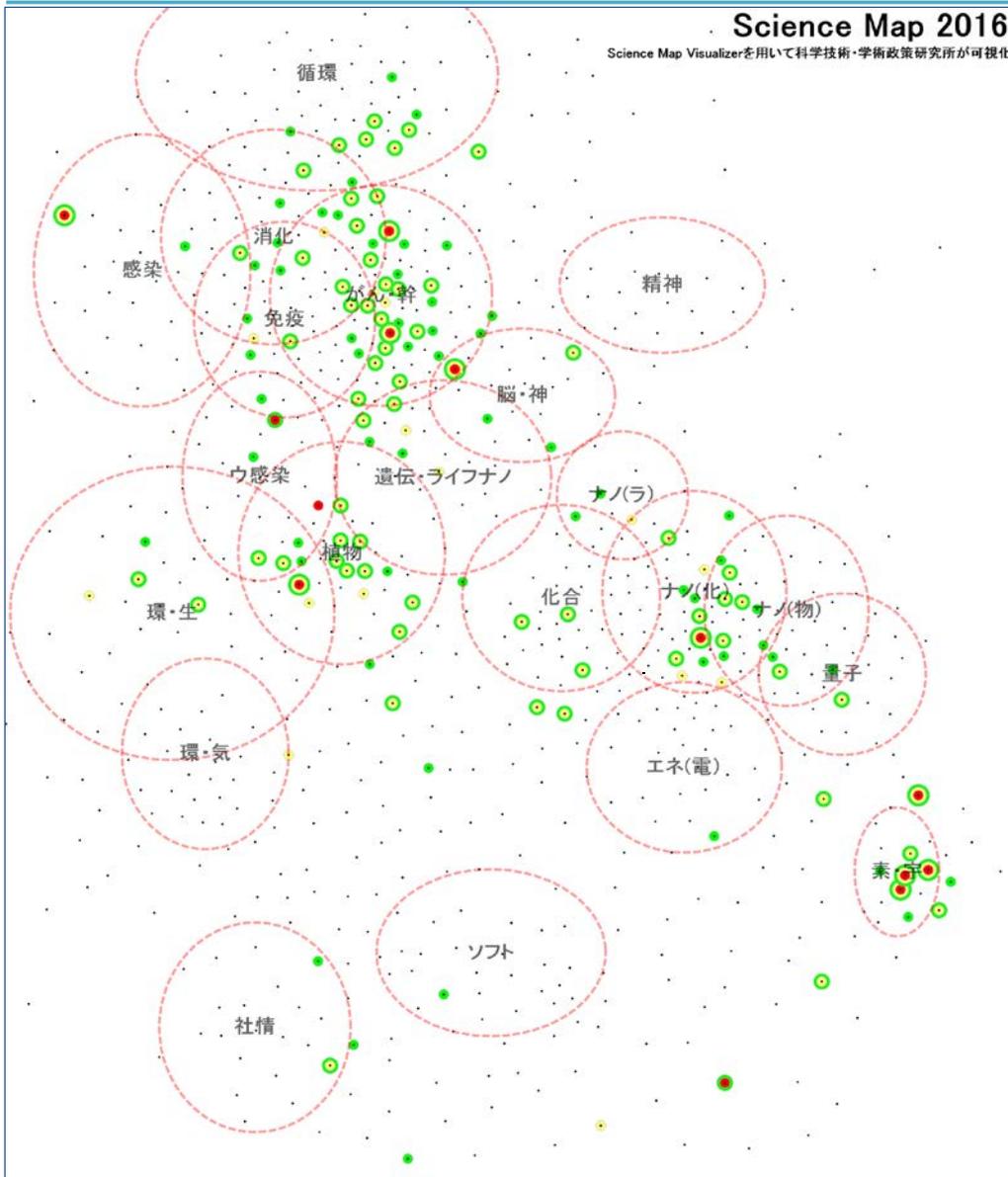
※引用文献に基づく研究評価ツール「InCites™」より、2つのドキュメントタイプ（Article, Review）の論文についてデータを分析した。
また、本データは2018年7月28日現在の数値である。

10-6 サイエンスマップから見る本学の強みである研究領域

- NISTEP（科学技術・学術政策研究所）が2018年10月に公表した「サイエンスマップ2016」によると、本学では「がんゲノム解析・遺伝子治療、幹細胞研究」、「植物科学研究」、「ナノサイエンス研究（化学）」、「素粒子・宇宙論研究」の4分野を中心に、世界をリードする研究が行われていることがわかる。
- ペーパー数については、サイティングペーパー及びそのうちのTOP10%論文数が着実に伸びている。

サイエンスマップとは？
論文データベース分析により国際的に注目を集めている研究領域を定量的に把握し、それらが、互いにどのような位置関係にあるのか、どのような発展を見せているのかを示した科学研究の地図。

神戸大学



- 研究領域のコアペーパー、サイティングペーパー(Top10%)、サイティングペーパーに入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパー(Top10%)、サイティングペーパーに入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパー(Top10%)に1件入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパー(Top10%)に入っている場合 (2件以上)
- 参照していない場合

神戸大学	コアペーパー		サイティングペーパーのうち Top10%論文		サイティングペーパー	
	該当領域数	ペーパー数	該当領域数	ペーパー数	該当領域数	ペーパー数
サイエンスマップ2008	12	21	79	188	100	592
サイエンスマップ2010	26	33	100	207	118	642
サイエンスマップ2012	21	53	76	284	106	821
サイエンスマップ2014	16	41	79	278	114	926
サイエンスマップ2016	13	49	86	334	133	1,038

◆研究領域群名

- 【循環】 循環器系疾患研究
- 【感染】 感染症研究
- 【消化】 消化器系疾患研究
- 【免疫】 免疫研究
- 【がん・幹】 がんゲノム解析・遺伝子治療、幹細胞研究
- 【脳・神】 脳・神経疾患研究
- 【精神】 精神疾患研究
- 【ウ感染】 ウイルス感染症研究
- 【遺伝・ライフナノ】 遺伝子発現制御研究、ライフナノブリッジ
- 【植物】 植物科学研究
- 【環・生】 環境・生態系研究
- 【環・気】 環境・気候変動研究
- 【化合】 化学合成研究
- 【ナノ(ラ)】 ナノサイエンス研究 (ライフサイエンス)
- 【ナノ(化)】 ナノサイエンス研究 (化学)
- 【ナノ(物)】 ナノサイエンス研究 (物理学)
- 【量子】 量子情報処理・物性研究
- 【エネ(電)】 エネルギー創出 (リチウムイオン電池)
- 【素・宇】 素粒子・宇宙論研究
- 【ソフト】 ソフトコンピューティング関連研究
- 【社情】 社会情報インフラ関連研究 (IoT等)

◆用語

- 研究領域**
2011～2016年の6年間に発行された論文の中で、各年、ESI22分野の被引用数Top1%論文に対し、「共引用」を用いたグループ化を行うことにより得られた895の領域。
- コアペーパー**
各研究領域を構成しているTop1%論文。
- サイティングペーパー**
コアペーパーを引用している論文。

出典：文部科学省 科学技術・学術政策研究所,サイエンスマップ2016, NISTEP REPORT No. 178, 2018年10月、サイエンスマップ2014, NISTEP REPORT No.169, 2016年9月、サイエンスマップ2010&2012,NISTEP REPORT No.159, 2014年7月

11. 科学研究費

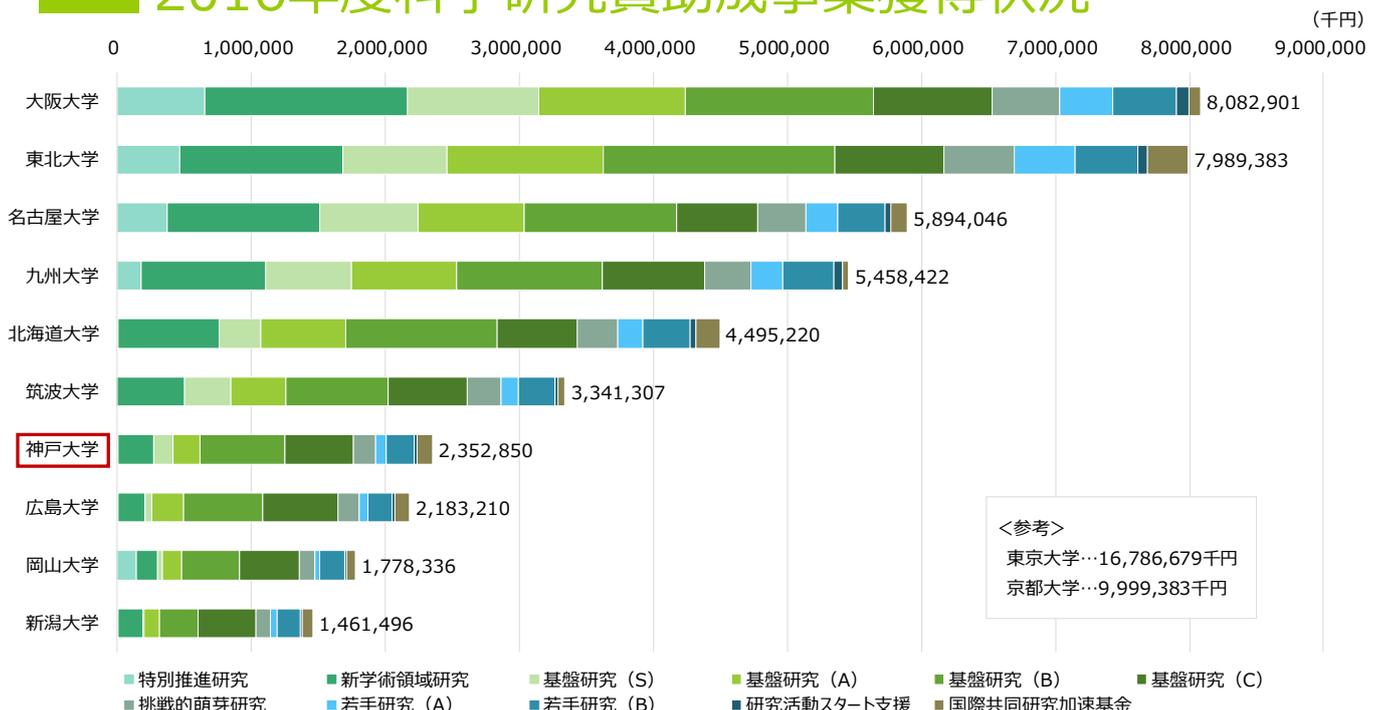
11-1 2018年度科学研究費助成事業獲得状況

種 目	新規申請件数	採択件数			新規採択率	配分額 (新規+継続)		
		新規	継続	合計		直接経費 (千円)	間接経費 (千円)	合計 (千円)
特別推進研究	1	0	0	0	-	0	0	0
	1	0	0	0	-	0	0	0
新学術領域研究 (計画)	29	1	10	11	3.4%	221,858	64,230	286,088
	22	1	9	10	4.5%	184,642	54,270	238,912
新学術領域研究 (公募)	57	12	9	21	21.1%	53,000	15,900	68,900
	58	9	7	16	15.5%	47,600	14,280	61,880
基盤研究 (S)	12	0	5	5	-	126,000	36,630	162,630
	12	2	3	5	16.7%	134,260	38,850	173,110
基盤研究 (A)	45	8	27	35	17.8%	259,538	75,900	335,438
	49	14	20	34	28.6%	292,008	85,440	377,448
基盤研究 (B)	192	54	152	206	28.1%	736,350	215,540	951,890
	217	56	144	200	25.8%	678,037	201,212	879,249
基盤研究 (C)	440	167	349	516	38.0%	496,250	149,145	645,395
	423	163	353	516	38.5%	519,700	155,910	675,610
挑戦的萌芽研究	-	-	36	36	-	18,300	5,490	23,790
挑戦的研究 (開拓)	10	3	1	4	30.0%	25,600	7,680	33,280
	19	2	-	2	10.5%	9,600	2,880	12,480
挑戦的研究 (萌芽)	189	33	27	60	17.5%	123,500	37,050	160,550
	226	27	-	27	11.9%	56,900	17,070	73,970
若手研究 (A)	-	-	14	14	-	56,200	15,660	71,860
	23	6	14	20	26.1%	76,600	24,180	100,780
若手研究 (B)	-	-	144	144	-	121,000	36,300	157,300
	246	78	134	212	31.7%	220,400	66,120	286,520
若手研究	258	89	0	89	34.5%	110,200	33,060	143,260
研究活動スタート支援	36	-	6	6	-	4,824	0	4,824
	36	7	12	19	19.4%	17,581	5,400	22,981
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化)	-	-	20	20	-	49,500	14,850	64,350
	15	6	20	26	40.0%	53,700	16,110	69,810
国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B))	57	-	-	-	-	-	-	-
	-	-	-	-	-	-	-	0
合 計	1,326	367	800	1,167	27.7%	2,402,120	707,435	3,109,555
	1,347	371	821	1,192	27.5%	2,373,828	706,562	3,080,390

- 「国際共同研究加速基金」：2015年度から公募が始まった新規研究種目である。
- ※「国際共同研究強化」は2018年度から (A)、(B) に分けて公募を開始した。(A) は2018.7現在公募中のため未掲載。
- 「挑戦的研究 (開拓)」、「挑戦的研究 (萌芽)」：2017年度から公募が始まった新規研究種目である。
- ※「挑戦的萌芽研究」は2016年度限りで新規の公募を終了した。
- 「若手研究」：2018年度から公募が始まった新規研究種目である。

上段：2018年度採択状況 (2018.7現在)
 下段：2017年度採択状況 (最終版)
 ※表中の「-」は該当なし又は申請中を示す。
 ※研究代表者として申請した課題のみを集計。

11-2 2016年度科学研究費助成事業獲得状況

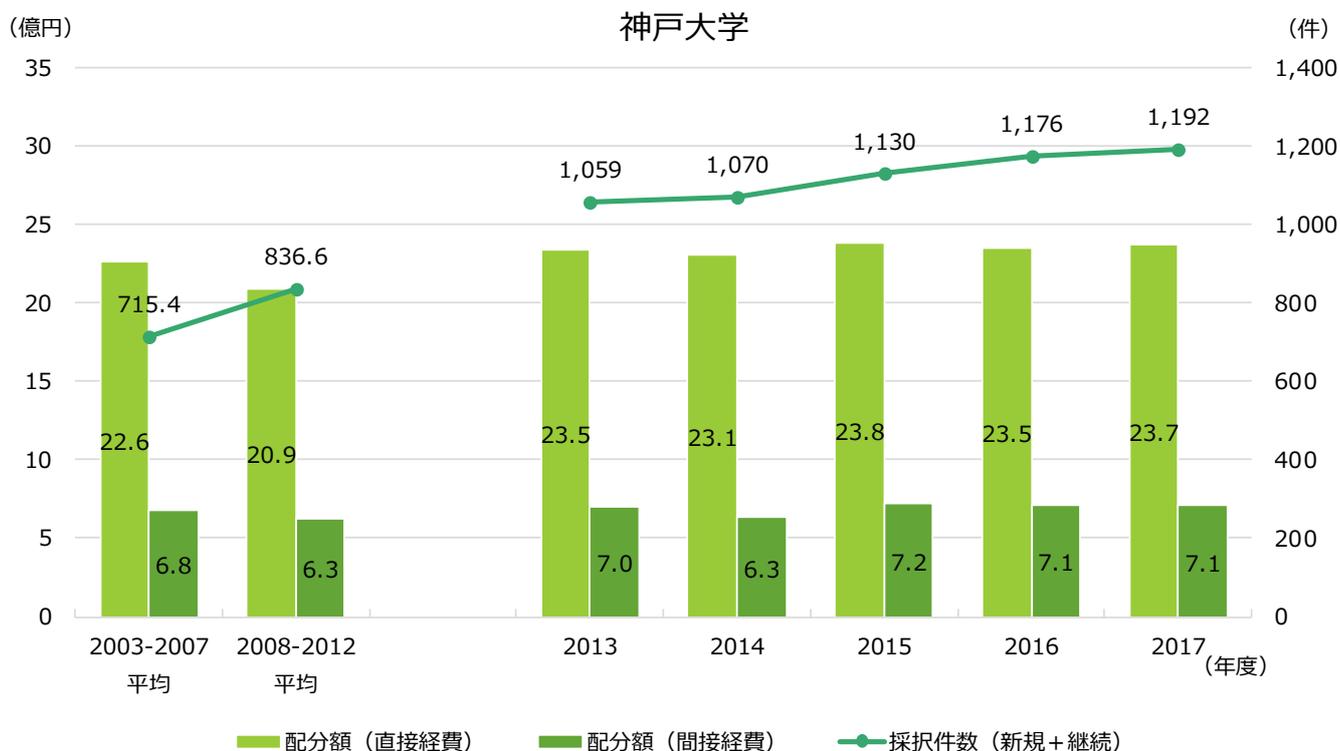


<参考>
 東京大学…16,786,679千円
 京都大学…9,999,383千円

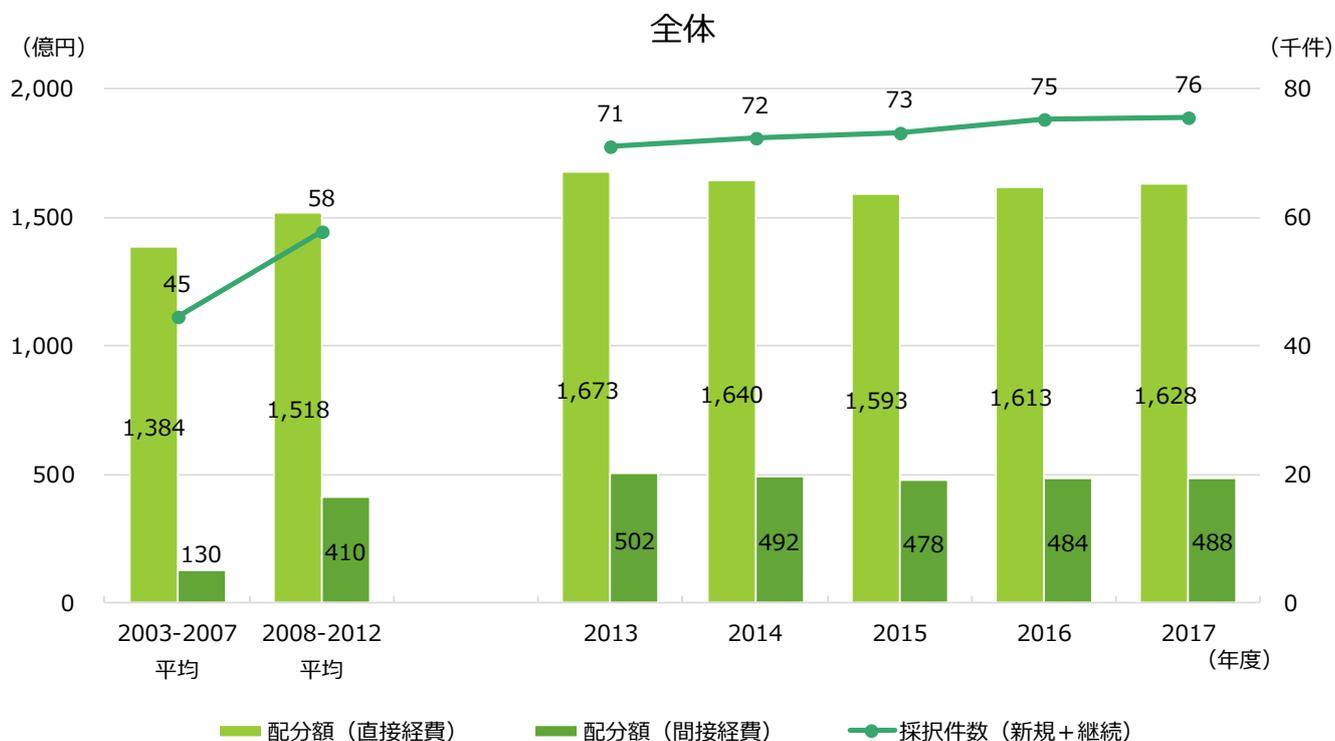
※学生収容定員1万人以上の国立大学法人を比較対象とし、各大学財務諸表 (2016年度版) より科学研究費の明細が示されているものを集計した。
 ※配分額は直接経費相当額のみを示しており、研究分担者も含む。

11-3 科学研究費助成事業採択状況 — 推移 —

○ 2013年度以降、科学研究費助成事業全体の傾向として緩やかな伸びになっており、本学も類似した傾向にある。



※2015年度より「国際共同研究加速基金」を含む。

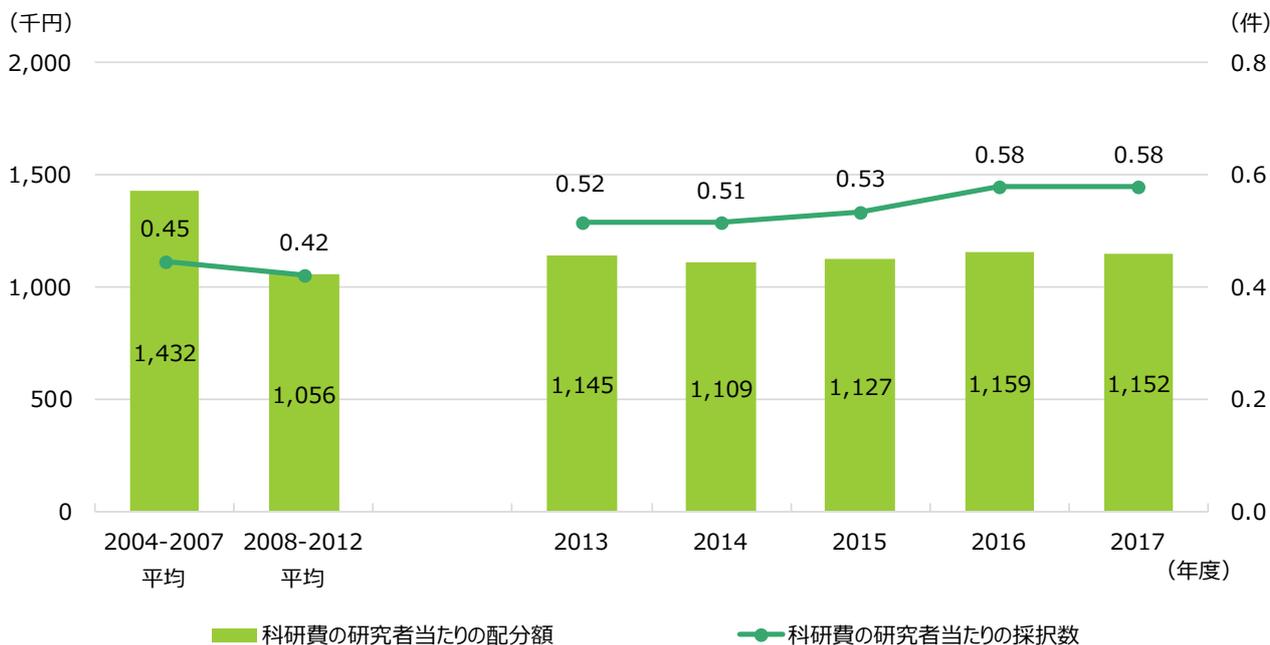


※科学研究費のうち、「特別推進研究」、「新学術領域研究（研究領域提案型）」、「基盤研究」、「挑戦的萌芽研究」（※2017年以降は「挑戦的研究）」、「若手研究」、「研究活動スタート支援」について集計した。

出典：文部科学省HP掲載「科学研究費補助金 配分結果」

11-4 科研費の研究者当たりの配分額・採択数 — 推移 —

○ 科研費の研究者当たりの配分額及び採択数は2009～2010年度に底を打ち、緩やかな増加傾向後にやや停滞気味であったが、2016年度から採択数は再び増加した。

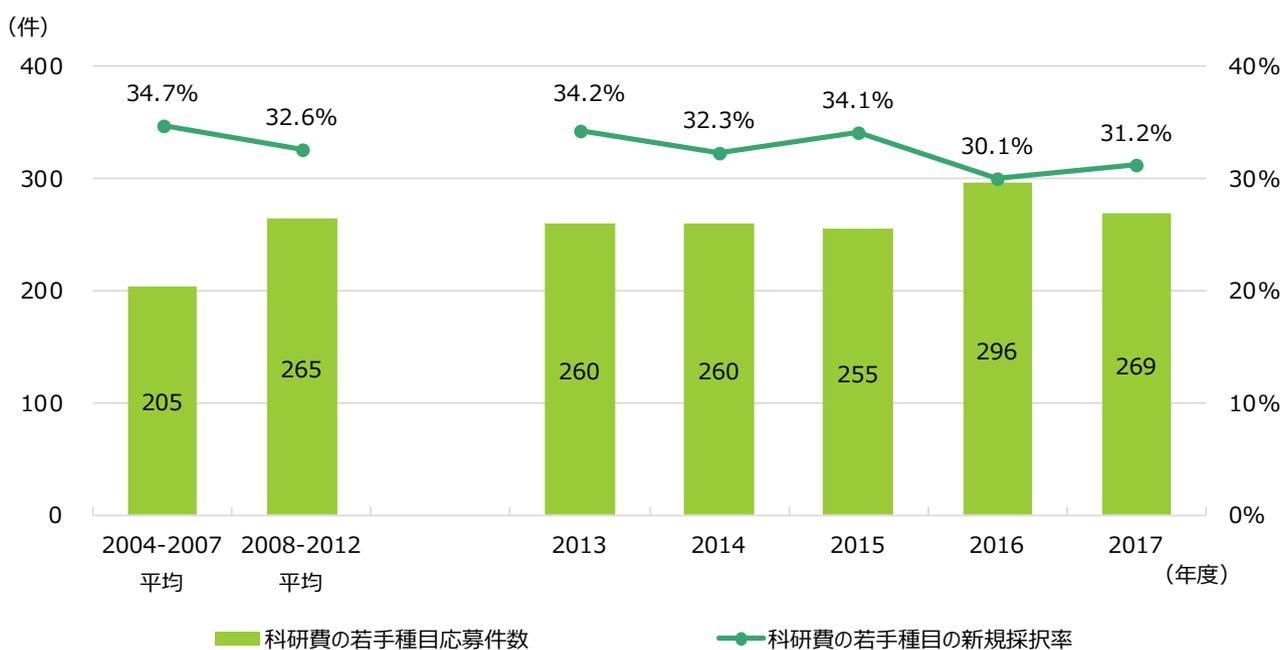


※科研費の研究者当たりの配分額 = 採択額 (直接経費) / 科研費応募資格者

※科研費の研究者当たりの採択数 = 科研費採択件数 (新規 + 継続) / 科研費応募資格者

11-5 科研費若手種目の新規採択率と応募件数 — 推移 —

○ 2017年度は、前年度と比べて科研費の若手種目の応募件数は減少したが、新規採択率は増加し、採択件数は前年度とほぼ同様であった。

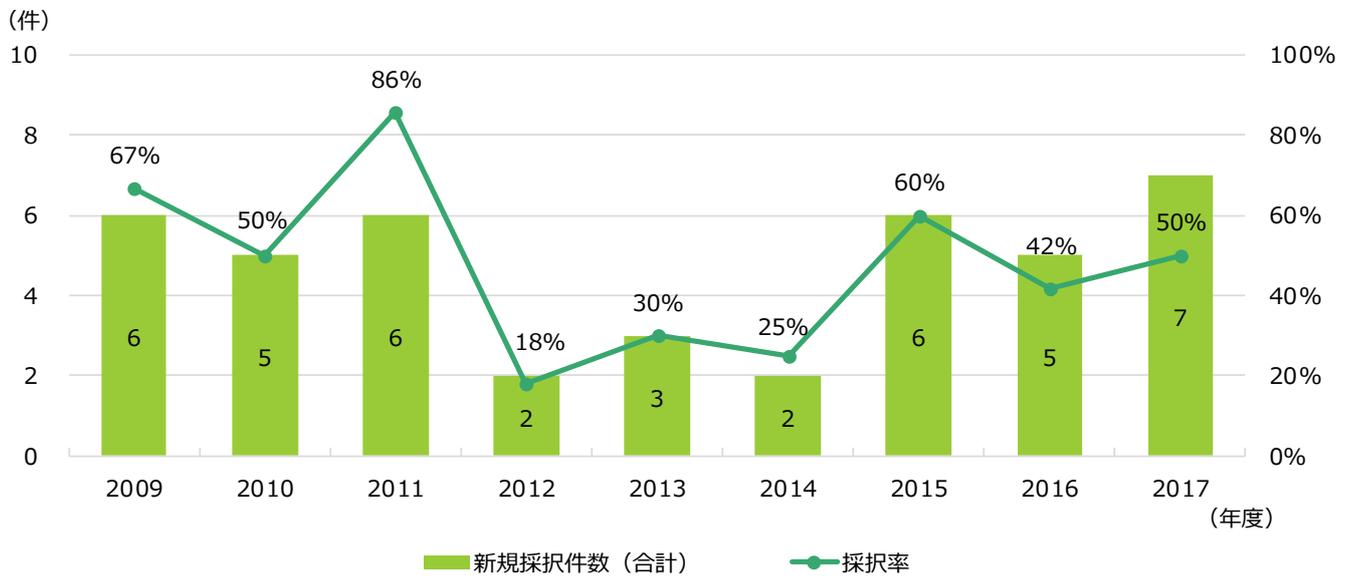


※科研費の若手種目の新規採択率 = 新規採択件数 (若手研究(A) + 若手研究(B)) / 応募件数(若手研究(A) + 若手研究(B))

11-6 研究成果公開促進費 — 推移 —

○ 2017年度は、新規採択件数7件、採択率50%となっており、7件の内訳は学術図書6件、データベース1件となっている。

研究成果公開促進費（神戸大学）



○研究成果公開促進費

科学研究費助成金の種目で、研究成果の公開発表、重要な学術研究の成果の発信及び、データベースの作成・公開について助成することによって、我が国の学術の振興と普及に資するとともに、学術の国際交流に寄与することを目的とするものであり、優れた研究成果の公的流通の促進を図るもの。

11-7 2013-2017年度科学研究費助成事業新規採択状況

研究

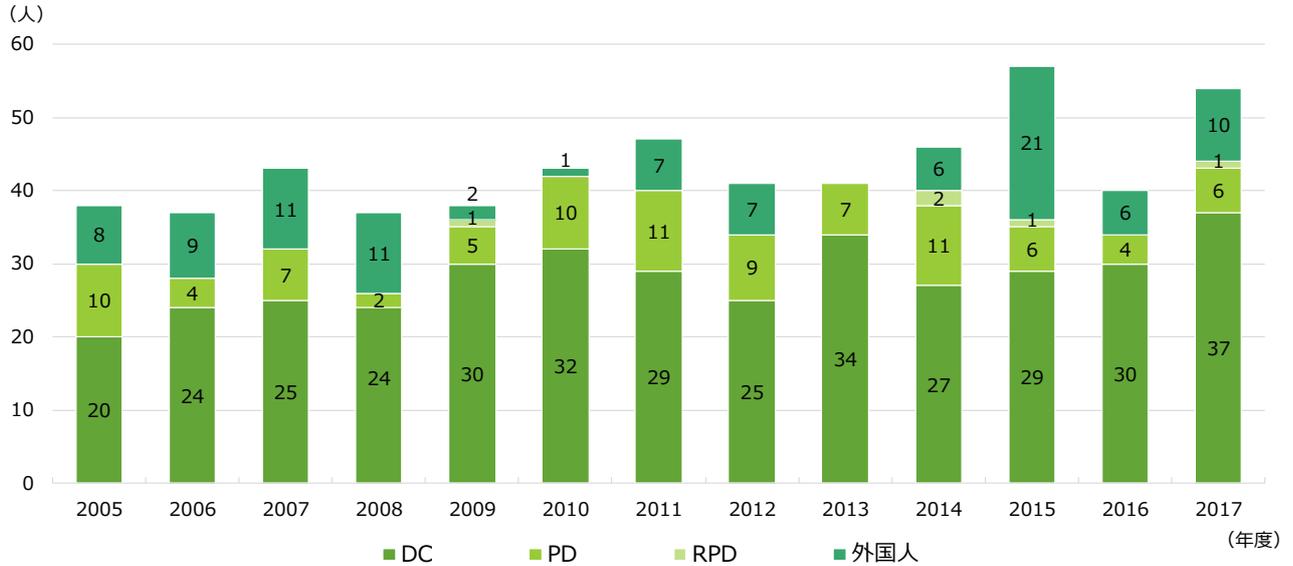
分野	分科	細目数	細目別採択数上位10機関に本学がランクインしている細目名	
情報学	情報学基礎、計算基盤、人間情報学、情報学フロンティア	4/21	情報セキュリティ	ソフトコンピューティング
			ウェブ情報学・サービス情報学	学習支援システム
環境学	環境解析学、環境保全学、環境創成学	4/10	環境モデリング・保全修復技術	環境リスク制御・評価
			自然共生システム	環境政策・環境社会システム
複合領域	デザイン学、生活科学、科学教育・教育工学、科学社会学・科学技術史、文化財科学・博物館学、地理学、社会・安全システム科学、人間工医学、健康・スポーツ科学、子ども学、生体分子科学、脳科学	9/23	デザイン学	家政・生活学一般
			食生活学	科学教育
			教育工学	科学社会学・科学技術史
			社会システム工学・安全システム	医用システム
			リハビリテーション科学・福祉工学	
総合人文社会	地域研究、ジェンダー、観光学	1/3	地域研究	
人文学	哲学、芸術学、文学、言語学、史学、人文地理学、文化人類学	7/24	宗教学	思想史
			美学・芸術諸学	ヨーロッパ文学
			外国語教育	日本史
			ヨーロッパ史・アメリカ史	
社会科学	法学、政治学、経済学、経営学、社会学、心理学、教育学	20/29	基礎法学	公法学
			国際法学	社会法学
			刑事法学	民事法学
			新領域法学	政治学
			国際関係論	理論経済学
			経済学説・経済思想	経済統計
			経済政策	財政・公共経済
			金融・ファイナンス	経済史
			経営学	商学
			会計学	教育心理学
総合理工	ナノ・マイクロ科学、応用物理学、量子ビーム科学、計算科学	0/14	-	
数物系科学	数学、天文学、物理学、地球惑星学、プラズマ科学	4/20	数学基礎・応用数学	固体地球惑星物理学
			気象・海洋物理・陸水学	超高層物理学
化学	基礎化学、複合化学、材料化学	2/14	物理化学	グリーン・環境化学
工学	機械工学、電気電子工学、土木工学、建築学、材料工学、プロセス・化学工学、総合工学	9/39	機械材料・材料力学	土木計画学・交通工学
			建築構造・材料	建築環境・設備
			都市計画・建築計画	建築史・意匠
			化工物性・移動操作・単位操作	生物機能・バイオプロセス
			船舶海洋工学	
総合生物	神経科学、実験動物学、腫瘍学、ゲノム科学、生物資源保全学	1/11	システムゲノム科学	
生物学	生物科学、基礎生物学、人類学	6/15	機能生物化学	生物物理学
			動物生理・行動	生物多様性・分類
			生態・環境	応用人類学
農学	生産環境農学、農芸化学、森林園科学、水圏応用科学、社会経済農学、農業工学、動物生命科学、境界農学	6/23	作物生産科学	植物保護科学
			生物有機化学	社会・開発農学
			地域環境工学・計画学	農業環境・情報工学
医歯薬学	薬学、基礎医学、境界医学、社会医学、内科系臨床医学、外科系臨床医学、歯学、看護学	10/75	薬理学一般	医化学一般
			人類遺伝学	代謝学
			内分泌学	小児科学
			放射線科学	脳神経外科学
			整形外科学	生涯発達看護学

出典：文部科学省「2017年度科学研究費助成事業の配分について」

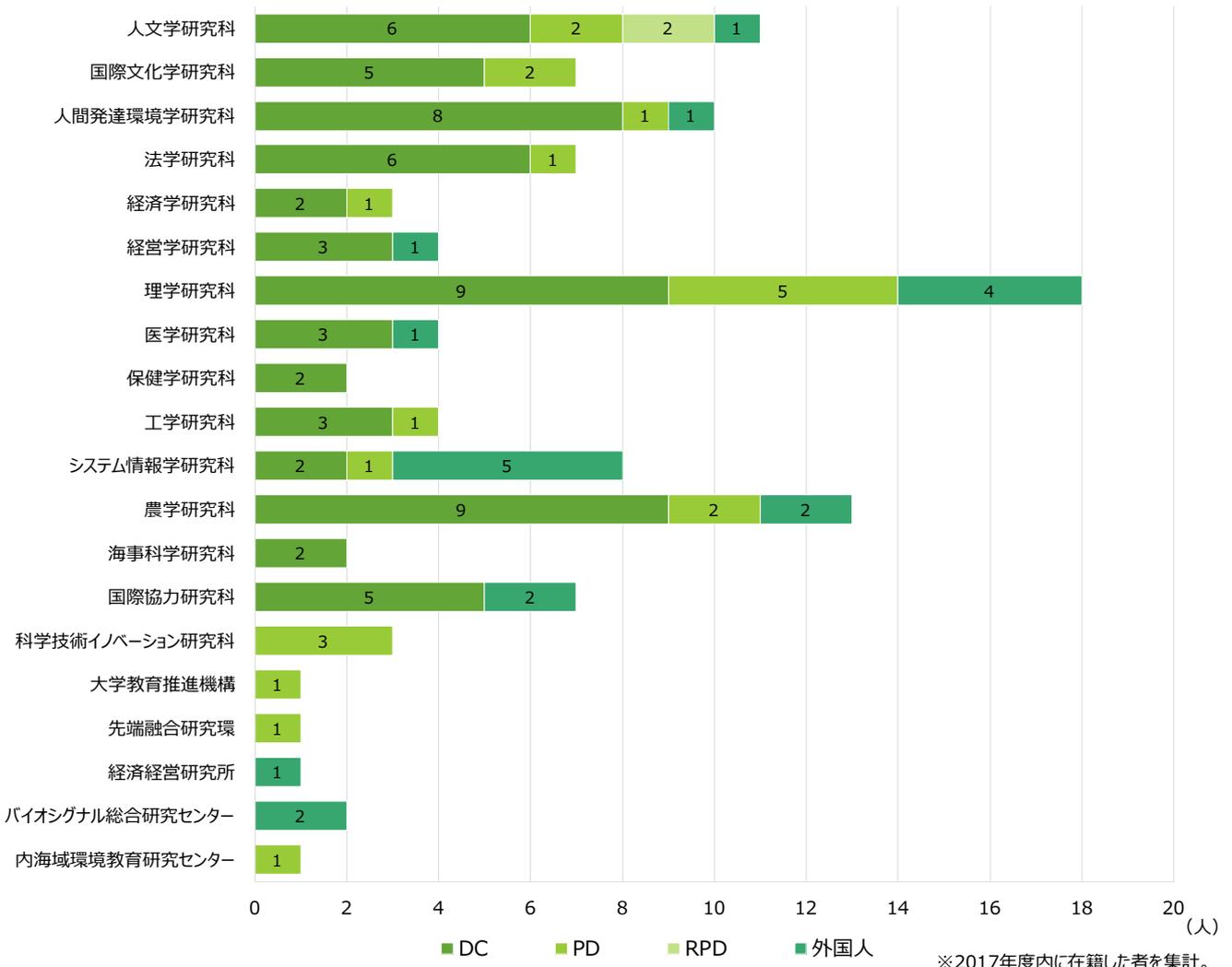
※2013年度から2017年度までの各年度の科学研究費(新規採択分)のうち、「基盤研究(A)(B)(C)」(特設分野研究は除く)、「挑戦的萌芽研究」、「若手研究(A)(B)」、「研究活動スタート支援」の研究課題について、集計・分類したもののうち、本学が細目別採択数上位10機関にランクインしているものを集計した。

12. 日本学術振興会特別研究員

12-1 全学の受入れ状況 — 新規 —



12-2 研究科別受入れ状況 — 在籍者 —



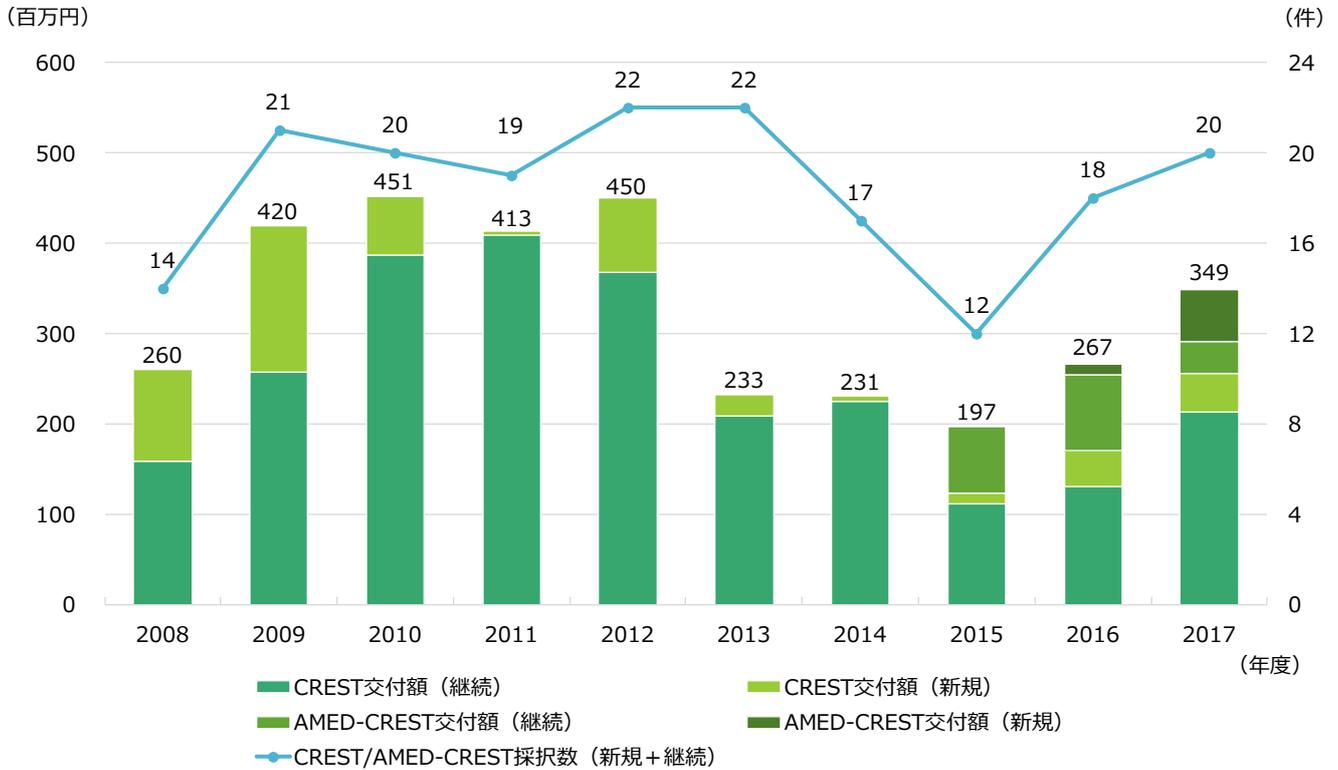
DC : 博士課程に在籍中の日本学術振興会特別研究員
 PD : 博士の学位を取得後5年未満の日本学術振興会特別研究員
 RPD : 博士の学位取得者で、過去5年以内に出産又は子の養育のため研究活動を一定期間中断していた日本学術振興会特別研究員
 外国人 : 博士の学位を取得前後の外国人日本学術振興会特別研究員

※2017年度内に在籍した者を集計。

13. 研究プログラムの採択状況

13-1 戦略的創造研究推進事業「CREST」、革新的先端研究開発支援事業「AMED-CREST」

○ 採択件数については、2009年度以降20件前後を保っており、一旦落ち込んだものの2017年度は再び同程度となった。



※グラフの「交付額」及び「採択数」には、分担研究分も含む。
 ※2014年度以前のCRESTには、AMED設立に伴い、2015年度以降AMED-CRESTへ承継された課題を含む。

CREST/AMED-CREST 2017年度継続中のプログラム一覧 (代表研究のみ)

プログラム名・取組名		実施担当部局
CREST	ホログラム光刺激による神経回路再編の人為的創出	医学研究科
	放牧牛のインタラクション分析による革新的飼養管理技術の開発	システム情報学研究科
	分極制御非鉛圧電薄膜による高効率MEMS振動発電素子の創製	工学研究科
	活性酸素生成抑制システムの非破壊評価系の確立とフィールドへの応用～危機早期診断システムの構築～	農学研究科
AMED-CREST	ストレス関連疾患を担う機能性脂質の探索と機能解析に基づく臨床応用のための技術基盤の創出	医学研究科
	機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開	医学研究科
	包括的メタボロミクス・ターゲットプロテオミクスによるがん診断・薬効診断マーカー探索と革新的統合臨床診断ネットワーク構築	医学研究科

○ 「CREST」

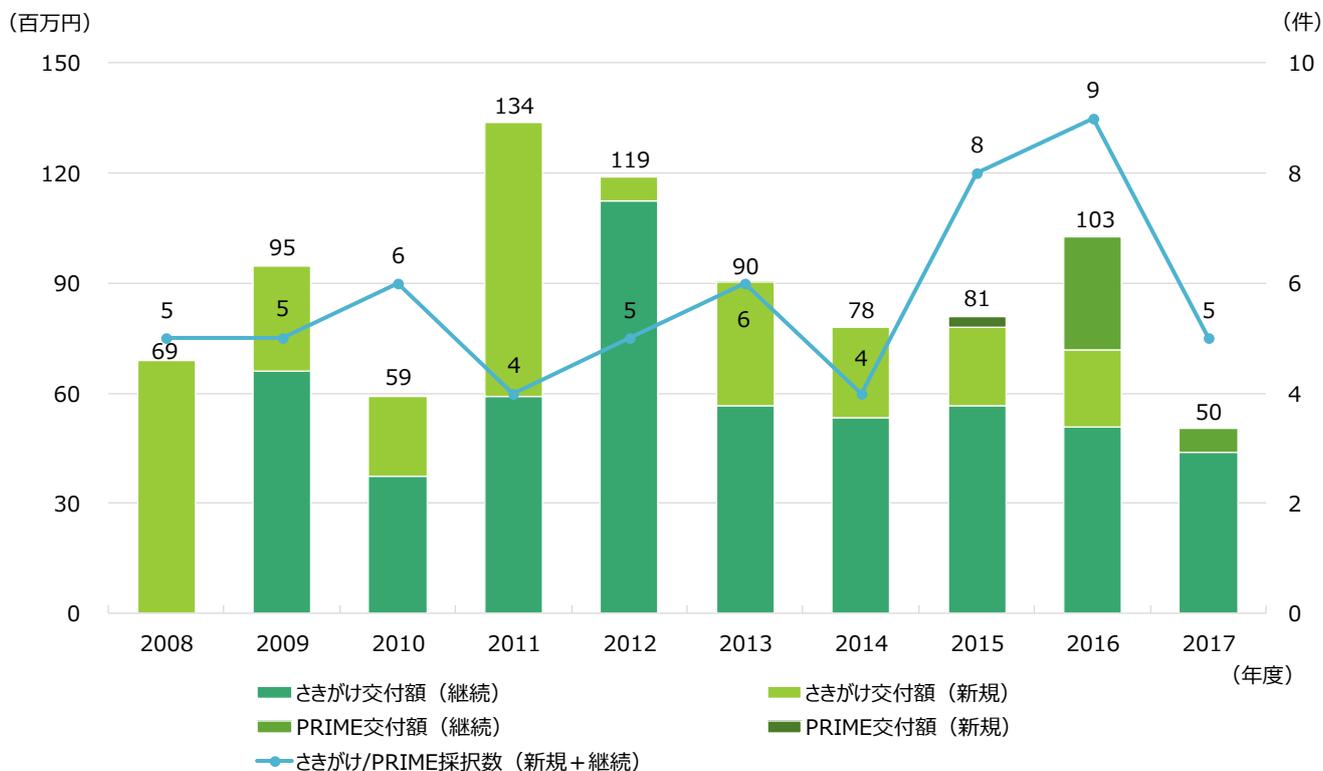
国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）による、国が定める戦略目標の達成に向けて、課題型基礎研究を推進し、科学技術イノベーションを生み出す革新的技術シーズを創出するためのチーム型研究プログラム。

○ 「AMED-CREST」

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）による、画期的シーズの創出に向けて国際的に高い水準の成果を目指すユニット型研究プログラム。

13-2 戦略的創造研究推進事業「さきがけ」、革新的先端研究開発支援事業「PRIME」

○ 採択件数については、2016年度には新規と継続プログラムを合わせて9件と、2年連続で過去最多となったが、2017年度は新規プログラムの採択に至らなかった。



※2014年度以前のさきがけには、AMED設立に伴い、2015年度以降PRIMEへ承継された課題を含む。

さきがけ/PRIME 2017年度継続中のプログラム一覧

プログラム名・取組名		実施担当部局
さきがけ	情報幾何学と離散力学の融合と社会ネットワーク解析への応用	システム情報学研究科
	「提示系心理情報学」確立のためのウェアラブルシステムプラットフォーム	工学研究科
	脳性麻痺障害者の個人適応型コミュニケーション支援システムの開発	都市安全研究センター
	気候変動と病原菌の進化に頑強な作物設計システムの構築	農学研究科
PRIME	癌細胞の浸潤・転移を司る細胞膜の張力を介したシグナル伝達機構の解明	バイオングナル総合研究センター

○ 「さきがけ」

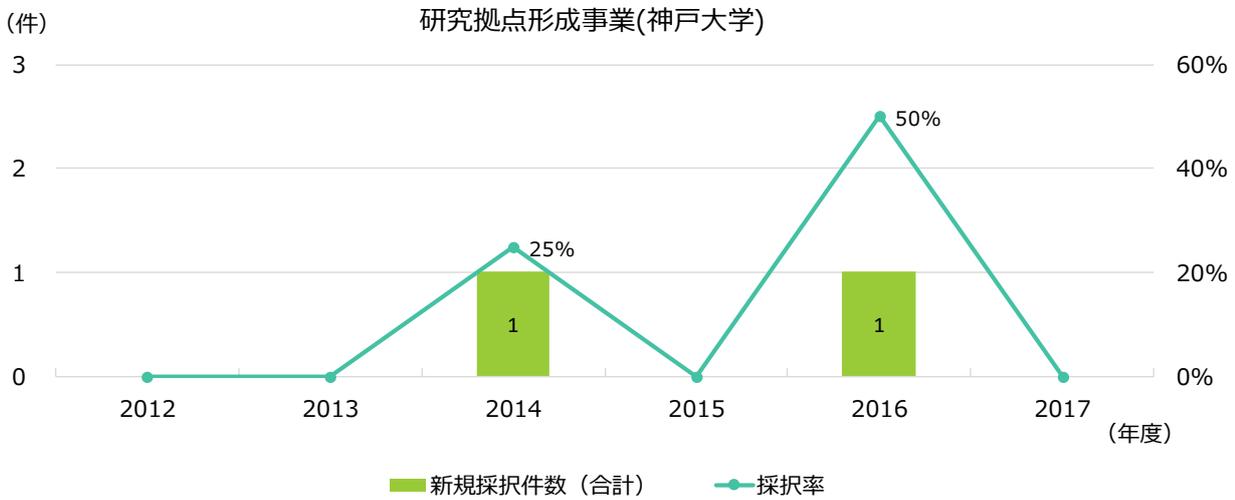
国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）による、戦略目標に基づいて未来のイノベーションの芽を育む個人型研究プログラム。

○ 「PRIME」

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）による、画期的シーズの源泉となる成果の創出を目指す個人型研究プログラム。

13-3 研究拠点形成事業

○ 全国で20件前後のプログラムが採択されており、本学は2014年、2016年に1件ずつ採択されている。



研究拠点形成事業 2017年度継続中のプログラム一覧

プログラム名・取組名	期間	実施担当部局
日欧垂におけるコミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成	2016年4月~2021年3月	国際文化学研究所

(参考) 2018年度採択プログラム

階層横断的グリア脳科学研究のための国際コンソーシアム拠点形成	2018年4月~2023年3月	医学研究科
--------------------------------	-----------------	-------

○ **研究拠点形成事業**

我が国において先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題、または地域における諸課題解決に資する研究課題について、我が国と世界各国の研究教育拠点機関をつなぐ持続的な協力関係を確立することにより、当該分野において世界的水準または地域における中核的な研究交流拠点の構築とともに、次世代の中核を担う若手研究者の育成を目的とした事業。

14. 研究業績に関する主な受賞者等一覧

○所属教員

2018年7月現在

賞名等	氏名	決定年	所属(旧所属)	職名
【文化勲章】	西塚 泰美	1988年	医学部	教授(神戸大学第11代学長)
【文化功労者】	西塚 泰美	1987年	医学部	教授(神戸大学第11代学長)
	五百旗頭 真	2011年	法学研究科	名誉教授
	中井 久夫	2013年	医学部	名誉教授
【紫綬褒章】	岩井 誠三	1989年	医学部	教授
	三嶋 豊	1994年	医学部	教授
	天野 明弘	2000年	経営学部	教授
	岡村 均	2007年	医学系研究科	教授
	春日 雅人	2007年	医学系研究科	教授
	清野 進	2011年	医学研究科	教授
【ウルフ賞】	西塚 泰美	1994年	医学部	教授(神戸大学第11代学長)
【アルバート・ラスカー医学研究賞】 基礎医学研究賞	西塚 泰美	1989年	医学部	教授(神戸大学第11代学長)
【ガードナー国際賞】	西塚 泰美	1988年	医学部	教授(神戸大学第11代学長)
【朝日賞】	西塚 泰美	1986年	医学部	教授(神戸大学第11代学長)
	戸田 達史	2008年	医学研究科	教授
【京都賞】基礎科学部門	西塚 泰美	1992年	医学部	教授(神戸大学第11代学長)
【女性化学賞】	相馬 芳枝	2011年	自然科学研究科	特別顧問
【武田医学賞】	西塚 泰美	1982年	医学部	教授(神戸大学第11代学長)
	春日 雅人	2007年	医学系研究科	教授
	高井 義美	2014年	医学研究科	教授
【日本学士院賞】	戸田 達史	2017年	医学研究科	教授
	清野 進	2018年	医学研究科	教授
【日本学士院会員】	西塚 泰美	1991年	医学部	教授(神戸大学第11代学長)
	河本 一郎	1995年	法学部	名誉教授
	三宅 一郎	1999年	法学部	名誉教授
	西村 和雄	2012年	社会科学系教育研究府	特命教授

※本学在籍時及び名誉教授の受賞等を掲載

○神戸大学出身者

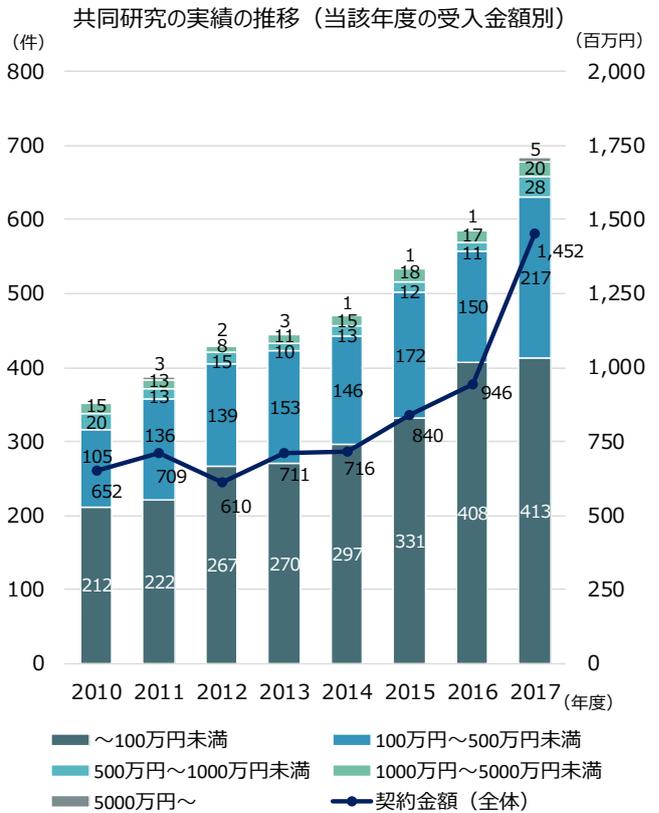
2018年7月現在

氏名	賞名等	受賞部門	決定年	卒業校等
河合 隼雄	【朝日賞】	-	1997年	神戸工業専門学校卒 (神戸大学工学部の前身)
山中 伸弥	【ノーベル賞】	生理学・医学賞	2012年	神戸大学医学部卒
	【文化勲章】	-	2012年	
	【ウルフ賞】	医学部門	2011年	
	【アルバート・ラスカー医学研究賞】	基礎医学研究賞	2009年	
	【ガードナー国際賞】	-	2009年	
	【ミネアム技術賞】	-	2012年	
	【京都賞】	先端技術部門	2010年	
	【武田医学賞】	-	2008年	
	【朝日賞】	-	2007年	
	【恩賜賞・日本学士院賞】	-	2010年	
【日本学士院会員】	-	2010年		
脇田 晴子	【文化勲章】	-	2010年	神戸大学文学部卒
佐川 真人	【朝日賞】	-	1990年	神戸大学工学部卒
	【日本国際賞】	-	2012年	神戸大学大学院工学研究科修了
江崎 玲於奈	【ノーベル賞】	物理学賞	1973年	兵庫県師範学校附属小学校高等科 (神戸大学附属中等教育学校の前身)
	【文化勲章】	-	1974年	
	【日本国際賞】	-	1998年	
野依 良治	【ノーベル賞】	化学賞	2001年	兵庫師範学校男子部附属小学校卒 (神戸大学附属小学校の前身)
	【文化勲章】	-	2000年	
	【ウルフ賞】	化学部門	2001年	
	【朝日賞】	-	1992年	

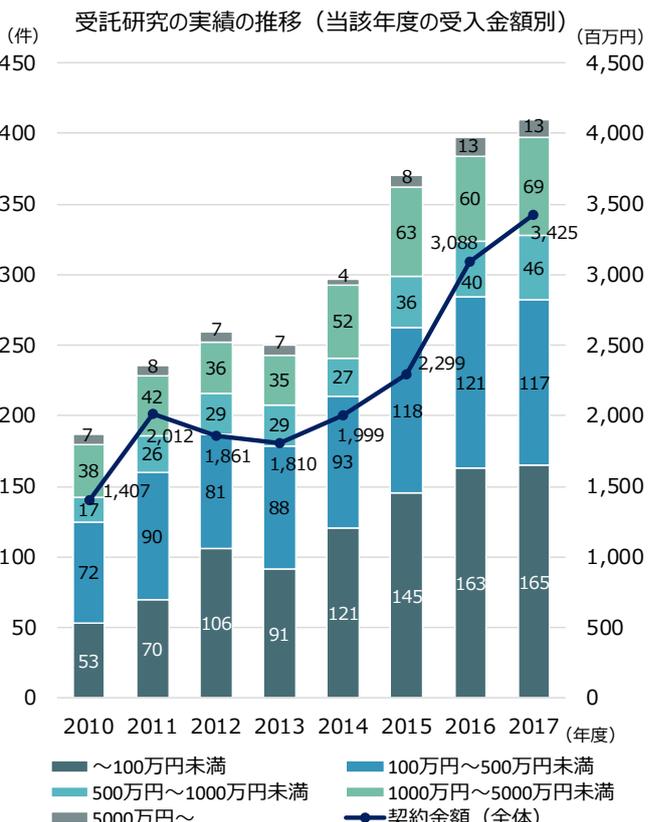
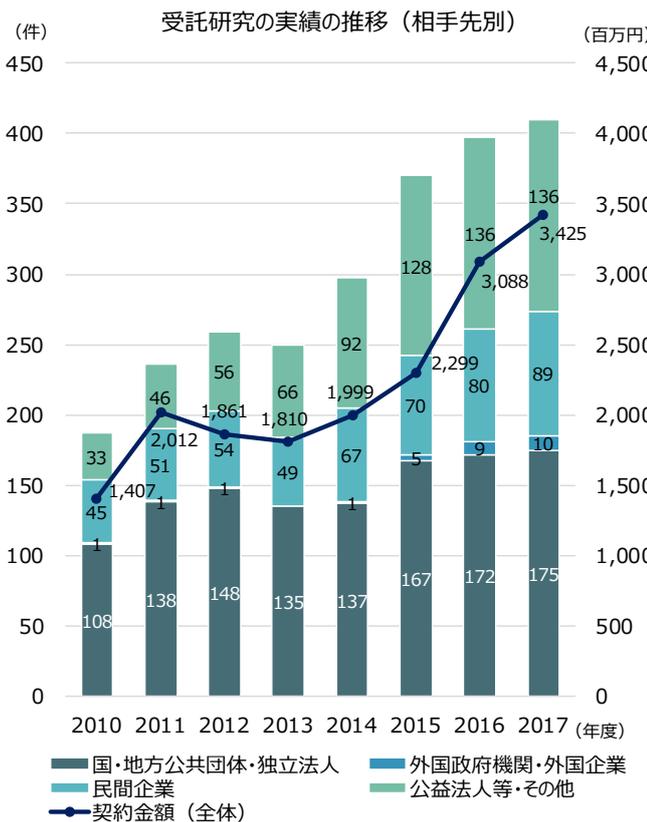
15. 産学官連携状況

15-1 共同研究・受託研究の状況

- 共同研究の件数は各分野とも順調に伸びている。
- 共同研究の契約金額は2014年度以降順調に伸びており、2017年度は前年度の約1.5倍となっている。

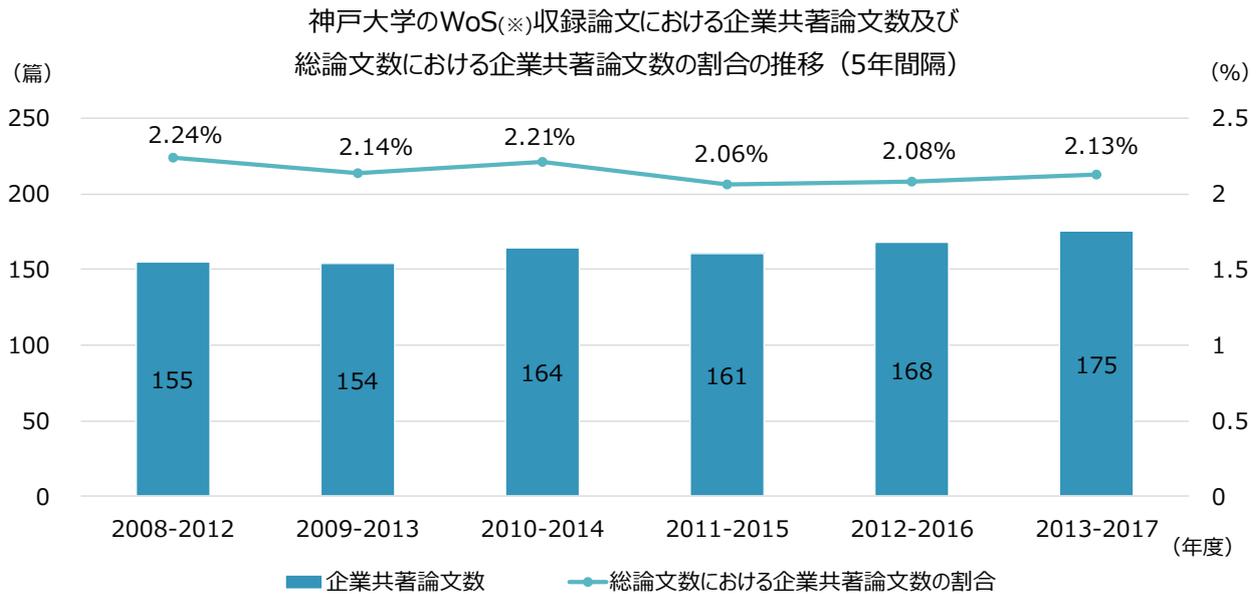


- 停滞した時期はあったが、2013年度以降順調に伸びており、2010年度と比べ、受託研究の件数は約2.1倍、金額は約2.4倍となっている。



15-2 企業共著論文数の推移

○ 企業共著論文数は緩やかな増加傾向にあり、総論文数に占める割合も回復しつつある。

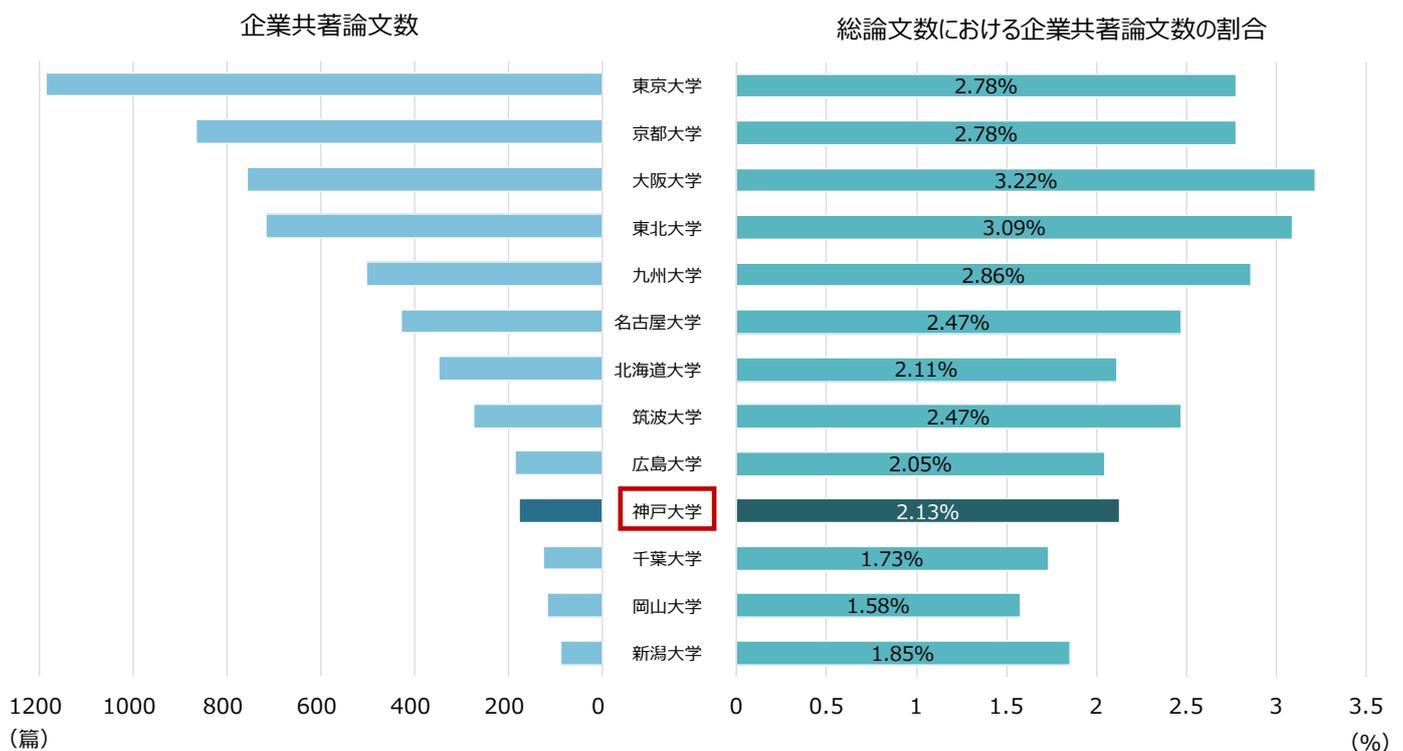


出典：「InCites™」によりWoS(※)収録論文の2つのドキュメントタイプ (Article, Review) のデータについて、5年間の累計値を分析した。
なお、データは2018年9月1日現在の数値である。

※「WoS」=「Web of Science™」(クларベイト・アナリティクス社が提供する学術文献データベース) の略。

15-3 各大学における企業共著論文の状況

○ 国立大学で学部入学定員の上位13大学のうち、神戸大学の企業共著論文数は10位であった。また、総論文数における企業共著論文数の割合は8位であった。

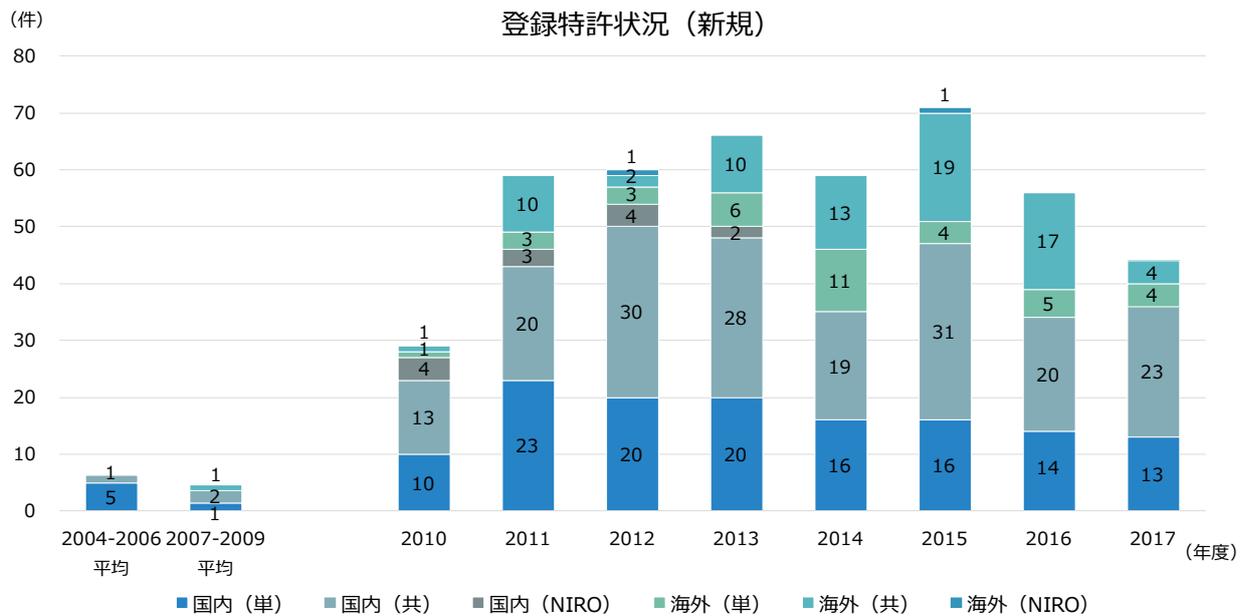


出典：引用文献に基づく研究評価ツール「InCites™」によりWoS(※)収録論文の2つのドキュメントタイプ (Article, Review) のデータについて、各大学における2013-2017の5年間の累計値及び割合を分析した。なお、データは2018年10月5日現在の数値である。

※「WoS」=「Web of Science™」(クларベイト・アナリティクス社が提供する学術文献データベース) の略。

15-4 神戸大学の知的財産の状況

- 発明届出件数は、過去14年間、100件程度/年を推移している。
- 登録特許は、法人化以降、2011年度まで海外の登録を中心に急増し、その後は安定的に推移している。
- 実施許諾件数は全体的に増加傾向、2017年度の実施許諾金額は約3,100万円であり、前年度の約2.5倍であった。
- 譲渡件数は2014年度をピークに減少していたが、2017年度は微増であった。



15-5 主な大学発ベンチャー企業

- 本学では累計32社のベンチャー企業を設立している。
- 2016年に設立した「株式会社科学技術アントレプレナーシップ」は、大学発ベンチャー企業の立ち上げのための出資や創業期における支援を行っており、本学における研究成果の事業化及びベンチャー企業の設立は加速している。

(2018年5月1日現在)

形態	企業名	設立年月	事業の概要
株式会社	アスク・ネットワーク・ジャパン	1992年8月	「マックスソイル工法」(地盤改良技術)の普及事業
有限会社	バソテック	2000年7月	病理組織試料の作製と、それに伴う遺伝子解析
株式会社	エイアルテック	2001年4月	集積回路の設計、開発・販売業務 および設計者育成
株式会社	ネオケミア	2001年5月	医薬品、医療用具、化粧品等の研究開発
株式会社	Bio-energy	2001年8月	バイオ燃料生産、アーミング菌体の開発など
有限会社	行動医科学研究所 (現：株式会社 行医研)	2002年1月	モデルマウスの販売・動物飼育、マウス等の行動解析など
株式会社	ビークル	2002年8月	制癌剤、遺伝子治療薬、バイオナノ粒子を用いる細胞の開発など
株式会社	GMJ	2003年1月	GMP基準に合致した各種ウイルスベクターの調整と作成など
株式会社	環境管理会計研究所	2003年4月	マテリアルフローコスト会計の導入支援
株式会社	リタニアルバイオサイエンス	2004年3月	免疫賦活剤LBSカルチャー原末の研究開発、製造販売
有限会社	ジーン・アンド・ジーンテクノロジー	2004年5月	遺伝子及び蛋白質分離システムとツールの開発・製造
株式会社	スマート粒子創造工房	2006年7月	機能性微粒子の設計、試作および製造販売
株式会社	マスター・オブサイエンス	2006年7月	安全性の高い医薬品の開発
株式会社	E S 研	2009年3月	省エネルギー技術コンサルティング業
株式会社	センサーズ・アンド・ワークス	2011年4月	焦電型赤外線センシング技術の開発販売
株式会社	Integral Geometry Science	2012年4月	計測機器、信号・画像処理ソフトウェアの専門事業
株式会社	mpusplus	2013年8月	LED電飾を使ったウェアラブル機器を主とした企画開発、コンサルティング
株式会社	科学技術アントレプレナーシップ	2016年1月	ベンチャー起業コンサルタント、M&Aに関するアドバイザーなど
株式会社	PIHPメディカル	2016年3月	肝灌流化学療法に用いる医療機器の製造およびそのセット販売
株式会社	シンプロジェクト	2017年2月	長鎖DNA合成技術による「正確で長い」DNAを活用した事業
株式会社	バイオパレット	2017年2月	切らないゲノム編集技術を活用した事業開発
株式会社	ViSpot	2017年9月	ウイルス安全性評価試験(ウイルスクリアランス試験)受託
株式会社	イノベーション・アクセル	2018年2月	アントレプレナーシップ教育事業、会員のネットワーキング事業とメンターの育成、シード・アクセラレーション事業

※HPで内容を確認できる主な企業等を掲載。

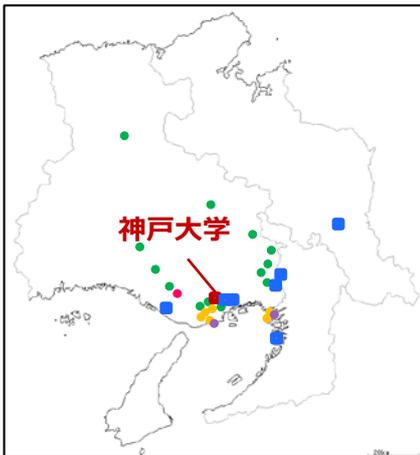
16. 国内の大学等との連携協定

○ 本学は、国内の数多くの機関や企業と連携協定を結び、研究・教育・医療の各分野において、充実した社会発展への寄与に取り組んでいる。

◆大学間連携協定等締結状況 (2018.5.1現在)



◆近畿地方の大学間連携協定等締結先 (2018.5.1現在)



- = 大学(本部所在地)
- = 自治体等(庁舎等所在地)
- = 民間企業(本社所在地)
- = 国立研究開発法人等(所在地)
- = 官公庁(庁舎)

※このページにて記されている連携協定は全学的に締結した「大学間連携協定等」であり、部局において締結された連携協定については記載していない。

○東北地方の連携先との大学間連携協定

区分	協定名称	協定締結機関	締結日
大	国立大学法人神戸大学と国立大学法人東北大学との災害科学分野における連携協力に関する協定	東北大学	2011年10月23日
大・研	国立大学法人神戸大学、国立大学法人東北大学及び大学共同利用機関法人人間文化研究機構の歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業における連携・協力に関する基本協定書	東北大学、人間文化研究機構	2018年1月26日

○関東地方の連携先との大学間連携協定等 (一部近畿地方の連携先含む)

区分	協定名称	協定締結機関	締結日
大・研	国立大学法人神戸大学、兵庫県立大学及び独立行政法人海洋研究開発機構 ^(※) の教育研究に関する包括協定	兵庫県立大学 国立研究開発法人海洋研究開発機構JAMSTEC	2007年8月6日
大	一橋大学、神戸大学及び大阪市立大学における教育交流に関する協定	一橋大学 大阪市立大学	2010年2月1日
民	国立大学法人神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協議会との連携協力に関する協定	一般社団法人日本プロジェクト産業協議会	2014年4月1日
民	国立大学法人神戸大学と一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携協力に関する協定	一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	2014年6月23日
独	国立大学法人神戸大学と独立行政法人国際協力機構との連携協定	(独) 国際協力機構 (JICA)	2011年3月1日
独	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構と国立大学法人神戸大学との間における包括的連携・協力関係の推進に関する協定	(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構	2017年6月7日
研	国立大学法人神戸大学と独立行政法人海洋研究開発機構 ^(※) との包括連携協定	国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)	2012年12月20日
研	現代中国地域研究に関する研究協力協定	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	2013年8月1日

○近畿地方の連携先との大学間連携協定等

区分	協定名称	協定締結機関	締結日
大	国立大学法人神戸大学と学校法人神戸薬科大学との連携に関する協定	神戸薬科大学	2007年7月17日
	国立大学法人神戸大学と国立大学法人京都大学との計算科学分野における連携協力に関する協定	京都大学	2010年4月1日
	京都大学、大阪大学及び神戸大学における相互の協力に関する協定	京都大学、大阪大学	2013年12月21日
	国立大学法人神戸大学と公立大学法人兵庫県立大学との連携に関する協定	兵庫県立大学	2018年1月23日
	国立大学法人神戸大学と国立大学法人徳島大学との連携に関する協定	徳島大学	2018年1月23日
自	国立大学法人神戸大学と神戸市灘区との連携協力に関する協定	神戸市灘区	2004年12月2日
	国立大学法人神戸大学と小野市との連携協力に関する協定	小野市	2005年1月26日
	国立大学法人神戸大学と兵庫県朝来郡生野町(現・朝来市)との連携協力に関する協定	朝来市	2005年3月23日
	国立大学法人神戸大学と加西市との連携協力に関する協定	加西市	2009年5月19日
	国立大学法人神戸大学と兵庫県との連携に関する協定	兵庫県	2010年8月2日
	国立大学法人神戸大学と篠山市との連携協力に関する協定	篠山市	2010年8月30日
	教員養成のための連携協力に関する協定	大阪府豊能地区(豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町)教育委員会	2012年12月18日
	国立大学法人神戸大学と神戸市との連携に関する協定	神戸市	2013年5月24日
	三木市と国立大学法人神戸大学との連携に関する協定	三木市	2013年6月27日
	神戸大学と兵庫県教育委員会との連携に関する協定	兵庫県教育委員会	2014年1月30日
国立大学法人神戸大学と神戸市教育委員会との連携に関する協定	神戸市教育委員会	2015年11月6日	
民	国立大学法人神戸大学と川崎重工業株式会社との産学連携の推進に関する協定	川崎重工業株式会社	2006年10月23日
	連携協力協定	本州四国連絡高速道路株式会社	2009年7月1日
	神戸大学と池田銀行(現・池田泉州銀行)の連携協力に関する協定	池田泉州銀行	2009年8月6日
	国立大学法人神戸大学と株式会社カネカとの包括的な産学連携推進に関する協定	株式会社カネカ	2010年12月14日
	国立大学法人神戸大学と株式会社神戸新聞社との連携に関する協定	神戸新聞社	2014年7月7日
	国立大学法人神戸大学とパンドー化学株式会社との包括的な産学連携推進に関する協定	パンドー化学株式会社	2014年9月24日
	国立大学法人神戸大学と阪神高速道路株式会社との連携に関する協定	阪神高速道路株式会社	2015年12月15日
	国立大学法人神戸大学と小野薬品工業株式会社との包括的な産学連携推進に関する協定	小野薬品工業株式会社	2018年3月30日
	国立大学法人神戸大学とアステラス製薬株式会社との包括的な産学連携推進に関する協定	アステラス製薬株式会社	2018年3月30日
	国立大学法人神戸大学と独立行政法人理化学研究所 ^(※) 計算科学研究機構との計算科学、計算機科学及びこれらに関連する分野における連携・協力に関する協定	国立研究開発法人理化学研究所計算科学研究機構(AICS)	2012年5月15日
独立行政法人防災科学技術研究所 ^(※) 兵庫耐震工学研究センターと国立大学法人神戸大学との連携に関する協定	国立研究開発法人防災科学技術研究所兵庫耐震工学研究センター	2014年9月29日	
官	国立大学法人神戸大学と国土交通省近畿地方整備局との連携・協力に関する協定	国土交通省近畿地方整備局	2015年7月8日
	サイバー空間の脅威に対処するための連携及び協力に関する協定	兵庫県警察本部、兵庫県立大学	2016年2月19日

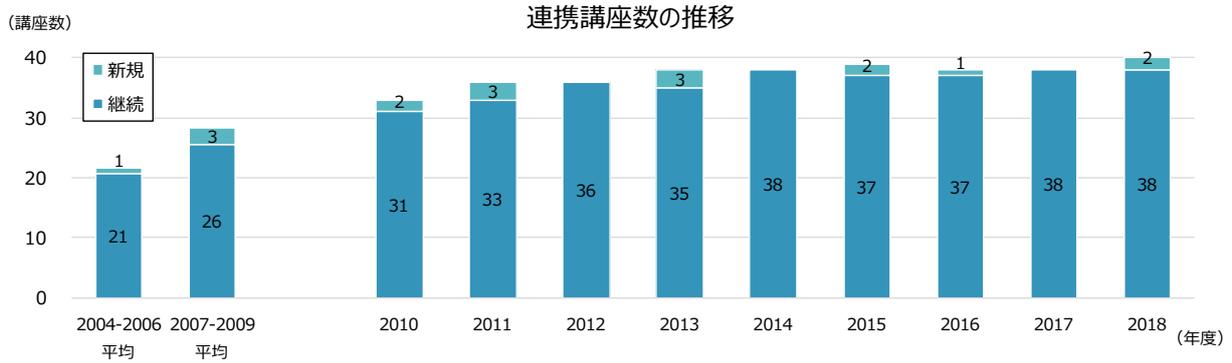
○九州地方の連携先との大学間連携協定

区分	協定名称	協定締結機関	締結日
自	国立大学法人神戸大学と中津市との連携に関する協定	大分県中津市	2016年4月22日

[区分]大…大学、自…自治体等、民…民間企業等、独…独立行政法人、研…国立研究開発法人等、官…官公庁等
(※)…2018年4月1日、国立研究開発法人となった。

17. 連携大学院等実施状況

○ 本学では、ほとんどの研究科において、多様な分野で官・民・病等の組織と連携講座を設けており、その数も増加傾向にある。



◎連携講座一覧 (2018年5月1日現在)

※グラフの講座数は下記一覧の「講座数」数を表す。

研究科名	専攻名	講座名	連携先	開始年度
人文学研究科	社会動態専攻	文化資源論	(財)大和文華館 (独)国立文化財機構 奈良国立博物館	2007年度
国際文化学研究科	グローバル文化専攻	先端コミュニケーション論	(株)国際電気通信基礎技術研究所	2007年度
人間発達環境学研究科	人間環境学専攻	環境先端科学	国立研究開発法人国立環境研究所 国立研究開発法人産業技術総合研究所	2007年度
経営学研究科	経営学専攻・現代経営学専攻	マネジメント・システム設計	(株)野村総合研究所	1998年度
		事業価値評価	GCA(株)	2006年度
		経営戦略システム設計	アクセンチュア(株)	1999年度
理学研究科	化学専攻	構造解析化学	(財)高輝度光科学研究センター	2007年度
	理論生物化学	国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究機構	2011年度	
	生物学専攻	発生物学	国立研究開発法人理化学研究所 生命機能科学研究センター	2007年度
		生物制御科学	住友化学(株) 健康・農業関連事業研究所	2015年度
	惑星学専攻	惑星地球変動史	国立研究開発法人海洋研究開発機構 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 国立天文台	2013年度
		応用惑星学	気象庁気象研究所	2016年度
医学研究科	医科学専攻	生理学・細胞生物学	国立研究開発法人理化学研究所 多細胞システム形成研究センター	2002年度
			(株)カン研究所	2010年度
			アスピオファーマ(株)	2011年度
		生化学・分子生物学	(財)高輝度光科学研究センター	2000年度
			(株)カン研究所	2010年度
		微生物感染症学	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 兵庫県立健康生活科学研究所	2007年度 2008年度
		地域社会医学・健康科学	(独)医薬品医療機器総合機構	2011年度
		内科学	(株)カン研究所	2010年度
			兵庫県立姫路循環器病センター	2015年度
		内科系	兵庫県立粒子線医療センター	2001年度
			(財)神戸医療産業都市推進機構 先端医療センター	2001年度
			(財)神戸医療産業都市推進機構 先端医療センター	2008年度
		外科系	兵庫県立こども病院	2013年度
			兵庫県立総合リハビリテーションセンター	2007年度
兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター	2007年度			
外科学	兵庫県立こども病院	2013年度		
	兵庫県立姫路循環器病センター	2015年度		
保健学研究科	保健学専攻	リハビリテーション科学	国立研究開発法人情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター	2013年度
工学研究科	建築学専攻	地域減災計画	総務省消防庁消防大学校消防研究センター	2007年度
	電気電子工学専攻	機能性薄膜学	パナソニック(株) 先端技術研究所	2007年度
		知的製造システム	(株)神戸製鋼所技術開発本部 神戸総合技術研究所	2007年度
	機械工学専攻	機能適応モデル	国立研究開発法人情報通信研究機構	2007年度
		開智型ものづくり	川崎重工業(株) 技術開発本部	2009年度
	応用化学専攻	局所場反応・物性解析学	国立研究開発法人産業技術総合研究所 関西センター	2007年度
		化学エネルギー変換プロセス学	国立研究開発法人産業技術総合研究所 関西センター	2007年度
		生物機能工学	(財)サントリ-生物有機科学研究所	2009年度
		製剤設計生産工学	アステラス製薬(株)	2010年度
		ケミカル・バイオセンシング	国立研究開発法人産業技術総合研究所	2011年度
環境エネルギー材料学		国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	2018年度	
システム情報学研究科	システム科学専攻	応用システム	三菱電機(株)	2007年度
	情報科学専攻	感性アートメディア	(株)国際電気通信基礎技術研究所	2007年度
	知能統合	国立研究開発法人理化学研究所 革新知能統合研究センター	2018年度	
計算科学専攻	応用計算科学	国立研究開発法人海洋研究開発機構	2010年度	
	大規模計算科学	国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究機構	2013年度	
農学研究科	資源生命科学専攻	食料生産フィールド科学	兵庫県立農林水産技術総合センター	2007年度
海事科学研究科	海事科学専攻	海洋環境計測科学	国立研究開発法人海洋研究開発機構	2007年度
		地域環境科学	(財)ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター	2009年度

◎寄附講座（2018年5月1日現在）

研究科名	専攻名	講座名	寄附者	講座期間
医学研究科	医科学専攻	生理学・細胞生物学講座	MSD(株) ノボルディスクファーマー(株) 興和創薬(株) 大正富山医薬品(株)	2018年10月1日 ~ 2023年3月31日
		病理学講座	北播磨総合医療センター	2017年4月1日 ~ 2020年3月31日
		地域社会医学・健康科学講座	兵庫県	2015年4月1日 ~ 2020年3月31日
			兵庫県病院事業管理者	2016年4月1日 ~ 2019年3月31日
		神戸市	2018年4月1日 ~ 2021年3月31日	
			内科学講座	日本メトロロック(株) セント・ジュード・メディカル(株)
		内科系講座	神戸市	2014年4月1日 ~ 2019年3月31日
			神戸市	2015年4月1日 ~ 2020年3月31日
		外科学講座	シスメックス(株)	2015年10月1日 ~ 2018年9月30日
			シスメックス(株)	2017年4月1日 ~ 2020年3月31日
外科系講座	兵庫県/養父市	2018年4月1日 ~ 2019年3月31日		
	(株)メディカロイド	2016年4月1日 ~ 2019年3月31日		
	神戸町	2017年4月1日 ~ 2022年3月31日		
	(株)サージカル・スパイン	2018年4月1日 ~ 2021年3月31日		
兵庫県病院事業管理者	2018年4月1日 ~ 2023年3月31日			

◎寄附研究部門（2018年5月1日現在）

センター名	部門名	寄附者	講座期間
バイオシグナル総合研究センター	シグナル分子応答研究部門	公益財団法人住友電工グループ 社会貢献基金	2018年4月1日 ~ 2023年3月31日

◎共同研究講座（2018年5月1日現在）

研究科名	専攻名	講座名	寄附者	講座期間
工学研究科	応用化学専攻	サステナブルケミストリー（日本触媒） 共同研究講座	株式会社日本触媒	2017年7月1日 ~ 2019年6月30日
医学研究科	医科学専攻	生化学・分子生物学講座	エーザイ(株)	2018年4月1日 ~ 2023年3月31日

18. 教育関係共同利用拠点

- 2014年度に教育関係共同利用拠点への認定申請を行い、以下の3施設について認定された。
 (認定期間：2014年7月31日～2019年3月31日)
 ※なお、2018年度に新たな拠点名で再度認定申請を行い、3施設とも2019年4月1日～2024年3月31日まで認定された。

内海域環境教育研究センター マリンサイト ※2016年度から自然科学系先端融合研究環より移行

【 拠点名 都市域沿岸の海洋生物・生態系と環境管理に関わる教育共同利用拠点 】

2017年度共同利用状況 (学内を除く)

区分	所属機関数	利用人数	延べ人数
国立大学	21	70	238
公立大学	5	38	102
私立大学	10	21	68
民間・独立行政法人等	12	21	24
外国の研究機関	2	11	26
計	50	161	458



2017年度実施プログラム (抜粋)

課題	概要
全国公開臨海実習 Aコース	沿岸域生態系の主要な構成要素の1つである海藻類を対象に、その生物多様性を、分類・生態・形態・生理・進化・遺伝子などの多様な側面から学んだ。(利用者数：7名)
全国公開臨海実習 Bコース	ため池と河川の生物群集が陸域からの資源供給に支えられていることを実測するとともに、それら陸域－淡水域間の相互作用が河口付近に形成される干潟の生物群集とどのように関係しているか検証した。(利用者数：9名)
全国公開臨海実習 Cコース	練習船「深江丸」による海上実習を行い、海水の水温・塩分・溶存酸素濃度・光量・流速などの観測、海水・プランクトン・海底堆積物の採取・分析を通して、内湾環境の多様性とその原因を考察した。(利用者数：6名)
奈良女子大学 臨海実習	藻類の多様性と進化・沿岸環境との関わりについての講義、船舶を用いた沿岸環境の観察、淡路島の沿岸における海藻類・海産底生動物の生態観察・採集、実験室における海藻類・海産底生動物の同定、標本作製、組織観察などを行った。(利用者数：18名)
大型海藻類培養技術ワークショップ	大型海藻類の培養株を用いた研究のための基礎技術として、単藻培養株の単離、培養液の作製、培養株の維持・管理、凍結保存などの技術について学んだ。また国際コースとして英語で実施した。(利用者数：6名)

大学院農学研究科附属 食資源教育研究センター

【 拠点名 農場と食卓をつなぐフィールド教育拠点 】

2017年度共同利用状況 (学内を除く)

区分	所属機関数	利用人数	延べ人数
国立大学	6	23	23
公立大学	6	80	130
私立大学	14	217	332
民間・独立行政法人等	4	148	203
外国の研究機関	0	0	0
計	30	468	688



2017年度実施プログラム (抜粋)

課題	概要
農場と食卓をつなぐフィールド演習	大学コンソーシアム単位互換科目。8/30-9/1にブドウの観察と収穫、ウシの飼養管理、イネの管理・収穫、里山散策などを実習し、ワークショップを実施した。(利用者数：23名)
農場から食卓まで (兵庫大学)	利用大学開講科目「食品学実験Ⅱ」の一環として実施。5/21にナシの摘果、イネの手植を実習した。(利用者数：41名)
農場から食卓まで (関西国際大学)	利用大学開講科目「業界研究実習」の一環として実施。6/24にパレイショ収穫、タマネギ調製などを実習した。(利用者数：57名)
農場から食卓まで (吉備国際大学)	利用大学開講科目「フィールド実習Ⅱ」の一環。10/14にカキの洗抜き、ウシの給餌などについて実習した。(利用者数：30名)
農場から食卓まで (神戸学院大学)	利用大学開講科目「ゼミナールⅡ」「現代社会基礎実習」の一環。11/11にセンター案内、サツマイモの収穫・調製、グループワークを行った。(利用者数：23名)
農場から食卓まで (兵庫県立大学)	利用大学開講科目「専門ゼミナール」の一環。11/26にサツマイモの収穫、ウシの給餌・個体識別について実習した。(利用者数：27名)

大学院海事科学研究科附属 練習船深江丸

【 拠点名 グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育のための共同利用拠点 】

2017年度共同利用状況（学内を除く）

区 分	所属機関数	利用人数	延べ人数
国立大学	1	80	80
公立大学	2	40	65
私立大学	7	147	250
民間・独立行政法人等	0	0	0
外国の研究機関	0	0	0
計	10	267	395



2017年度実施プログラム（抜粋）

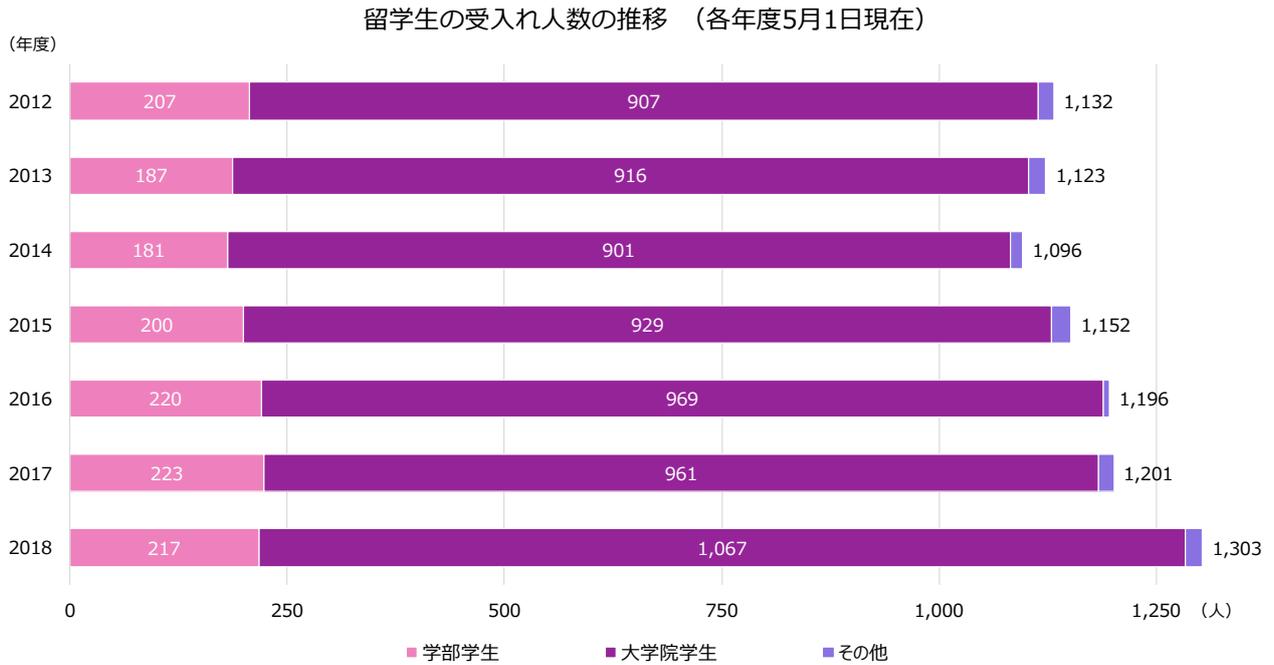
課 題	概 要
中京大学 心理学部 応用心理学実習	学外実習（船舶研修）では、「深江丸」で、神戸・深江港から高松港まで2泊3日の船舶研修を実施した。航海中に、機関当直、船橋当直、結索実習プログラムに参加し、また、船舶における職階とその任務、海上交通と安全などの講義を通して実り多い実習となった。 （利用者数：27名）
甲南大学大学院 フロンティアサイエンス研究科 セルエンジニアリング特論	免疫細胞の機能と医療への応用の重要性を理解することを目的とした無脊椎動物の自然免疫を学ぶ授業において、フィールドワークとして、「深江丸」に乗船し、海洋生物の採集や実験を行った。（利用者数：26名）
大阪府立大学 工学部 船舶工学特殊講義	船舶工学の中でも特に他の講義では深く取り扱うことの少ない船用機関、及び船用機関と船舶推進装置の関係などに関して基礎から概説・詳述した。また、「深江丸」による演習航海を通して、船舶の運航に関する理解を深めた。（利用者数：25名）
大阪大学 全学共通科目 船と海の科学-乗船実習を交えて-	周りを海に囲まれている日本にとって、海との深い繋がりがなくては日本人の生活を語るができない。ところが、高校までに習う「海の科学」の位置付けは地球科学の一部となっているために理学的側面が強く、社会生活と直接結びつく「海の科学」については教えられていない。そこでこの授業では、社会生活に関連の深い海の科学に関する話題を通じて、人と海との関連を学んだ。さらに、「深江丸」での航海を実施し、海上でその体験と確認を行った。（利用者数：24名）
大阪大学 工学部 船舶設計製図	船舶の全体形状、居住施設、船倉、設備等を示した見取り図である船体一般配置図の船舶設計における重要性と、各種船舶の一般配置図の概要を学び、課題船舶の一般配置図を製図するため、「深江丸」に乗船し、船内の調査を行った。 （利用者数：43名）

19. 留学

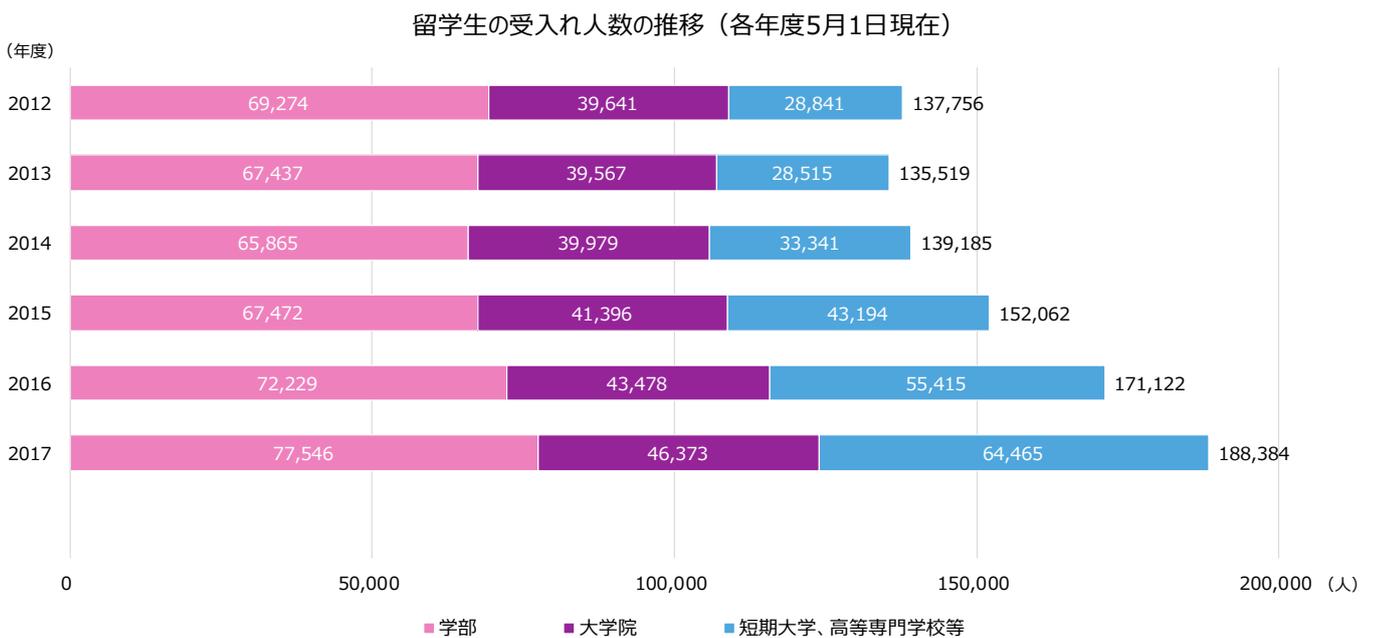
○ 留学生の受入れについて、2018年度（5月1日時点）は前年度の1,201名を上回り、過去最多となる1,303名を受け入れた。

19-1 外国人留学生受入れ状況 — 在籍段階別 —

◆神戸大学◆



◆全国◆

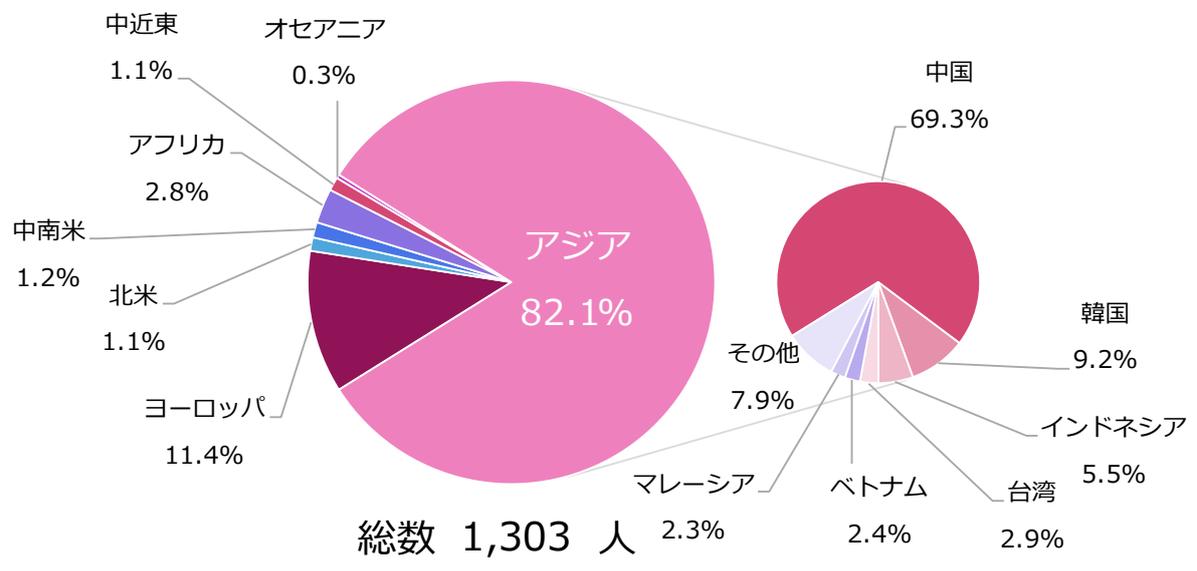


出典（全国）：JASSO「外国人留学生在籍状況調査」

19-2 外国人留学生受入れ状況 — 地域別 —

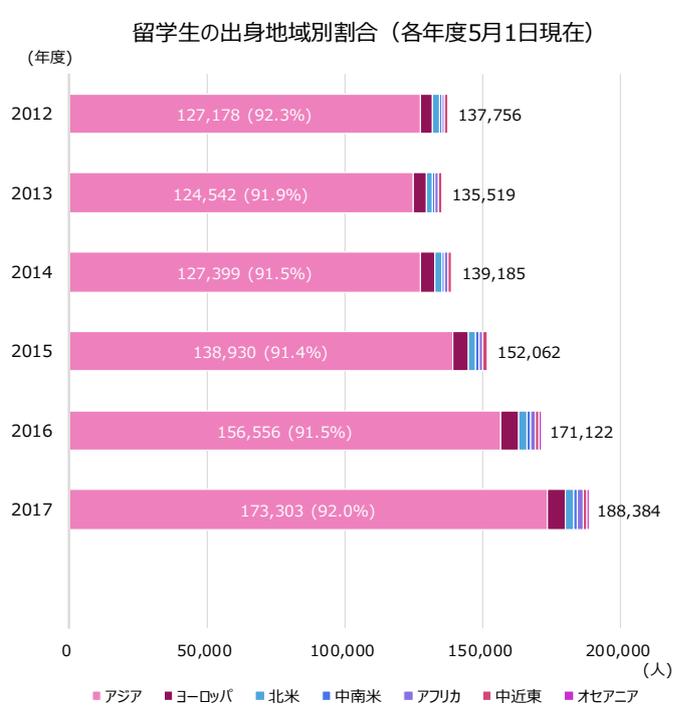
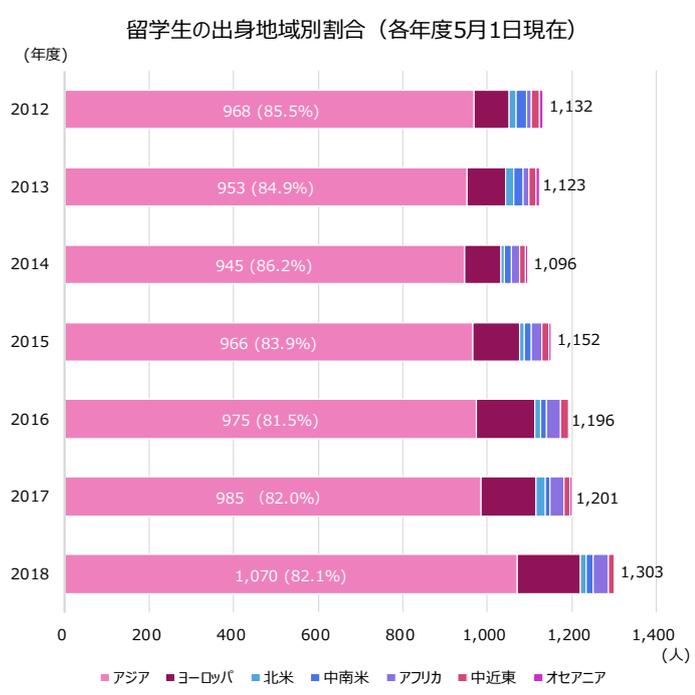
◆神戸大学◆

受入れ留学生数の地域別割合（2018年5月1日現在）



◆神戸大学◆

◆全国◆



出典（全国）：JASSO「外国人留学生在籍状況調査」
 ※（ ）内は各年度における全体に対するアジア出身留学生の割合。
 ※ 全国の留学生には、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）、準備教育課程の留学生を含む。
 ※ 小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

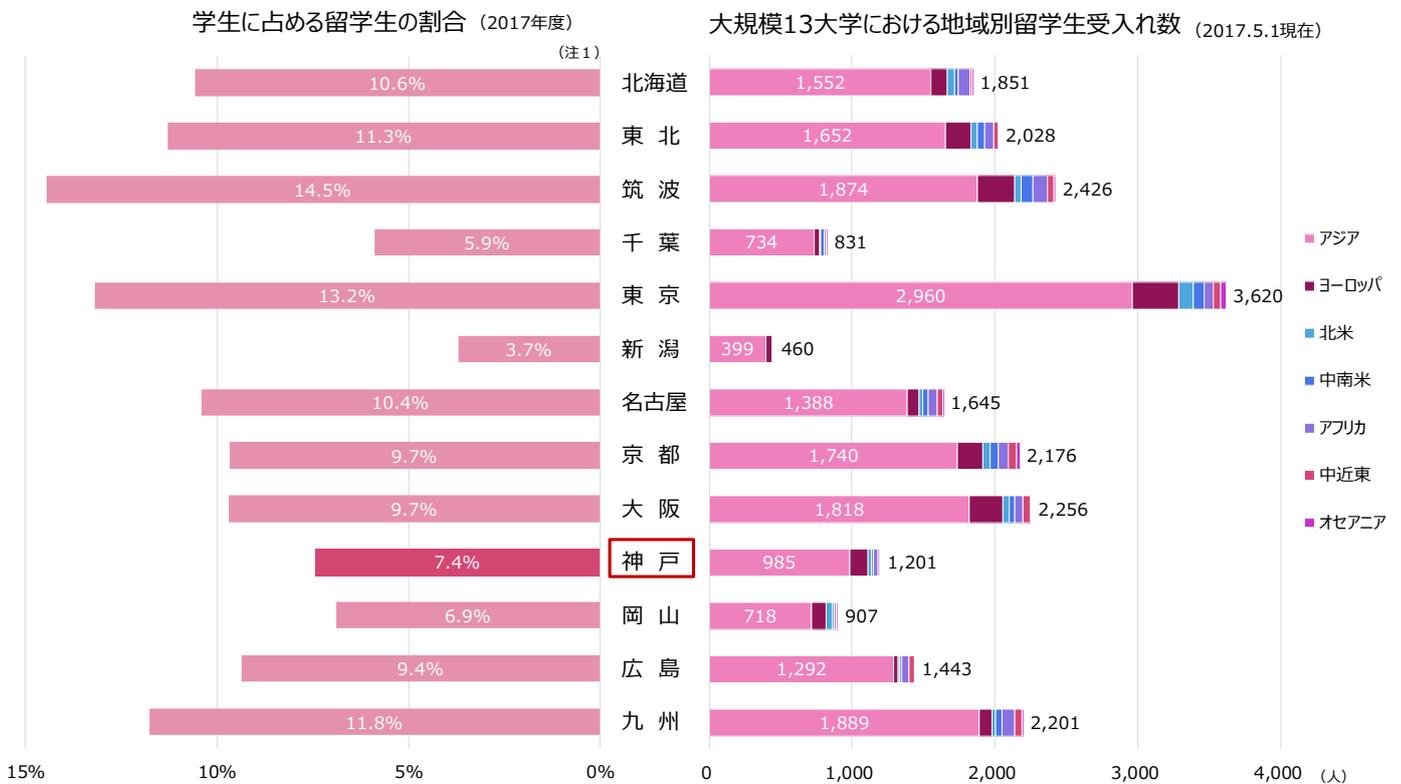
19-3 在籍学生に占める外国人留学生の比率



(注) 留学生比率 (学部・大学院留学生比率) = (学部留学生数 + 大学院留学生数) ÷ (学部学生数 + 大学院学生数) × 100

出典 (全国・国立) : (留学生数) JASSO「外国人留学生在籍状況調査」、(学生数) 文部科学省「学校基本調査」

19-4 大規模13大学の外国人留学生受入れ状況



(注1) 留学生の割合 = (学部留学生数 + 大学院留学生数) ÷ (学部学生数 + 大学院学生数) × 100

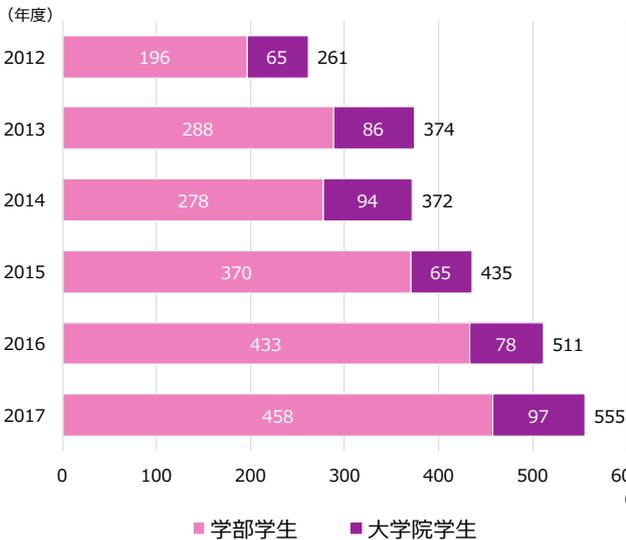
出典 (学生数) : 大学改革支援・学位授与機構 大学基本情報 「(7-A) 学生数」 ※別科や専攻科を含む

出典 (留学生数) : 大学改革支援・学位授与機構 大学基本情報 「(11) 国費留学生, 私費留学生, 留学生以外の外国人学生」 ※留学生以外の外国人学生は含まない

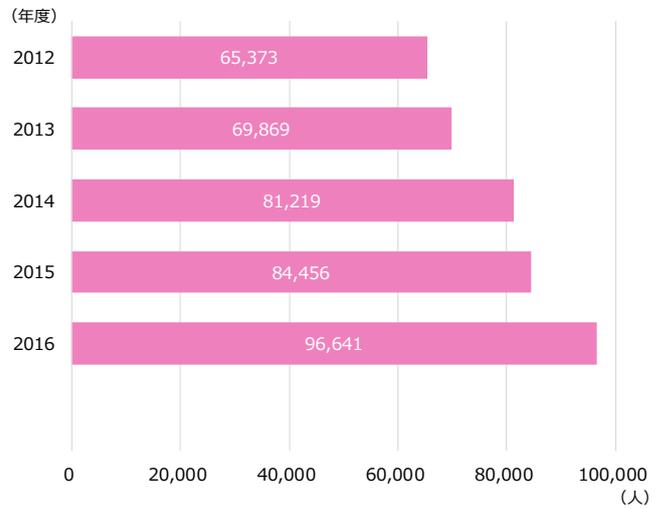
○ 学生の海外派遣数について、その地域別割合を見ると、神戸大学は他大学と比して、北米地域への学生派遣比率が低い一方、ヨーロッパへの派遣比率は高く、EUの中心地であるブリュッセルにオフィスを構え、ヨーロッパ諸国との国際連携活動を展開している本学の特徴と言える。

19-5 学生の海外派遣数の推移

◆神戸大学◆ (注1)



◆全国◆ (注2)



※各年度4月1日～3月31日に派遣した人数

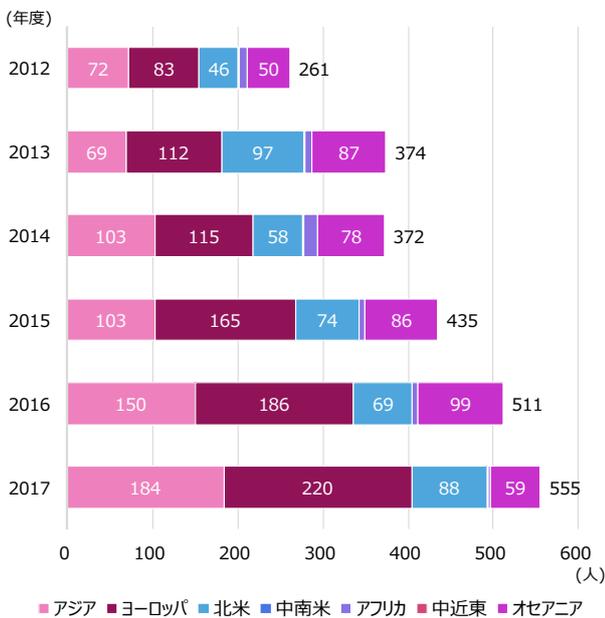
(注1) 単位授与を伴うプログラムに基づくもの。

(注2) 「協定等に基づく日本人学生派遣数」と参考として記載されている「協定等に基づかない日本人学生留学状況（在籍学校において把握している限り）」の合計。

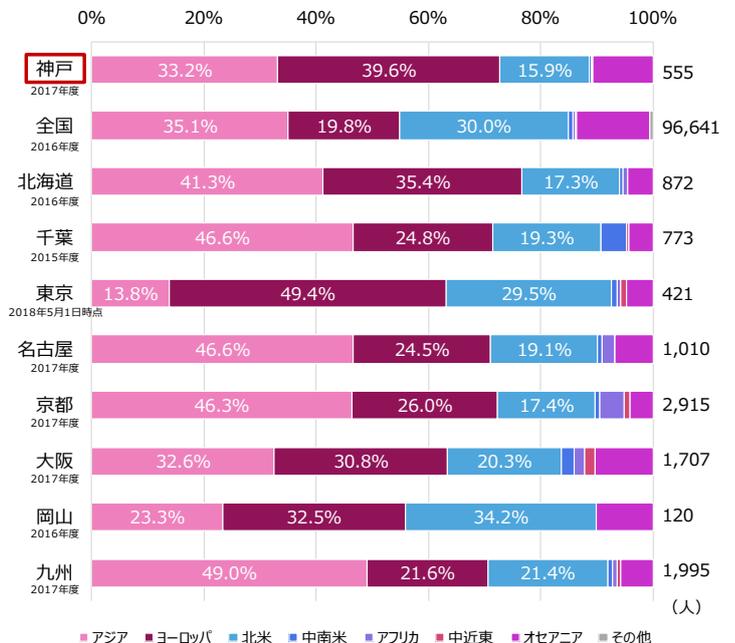
出典(全国) : JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」

19-6 学生の海外派遣状況 (地域別)

◆神戸大学◆



◆各大学◆



出典(全国) : JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」

※「協定等に基づく日本人学生派遣数」と参考として記載されている「協定等に基づかない日本人学生留学状況（在籍学校において把握している限り）」の合計。

出典(各大学) : 各大学のHP等

※なお、グラフ内には、比較的割合の大きいアジア、ヨーロッパ、北米の割合のみ記載している。また、右端の数字は各大学の派遣学生の合計数を記載している。

※下記のとおり、大学によって定義が異なるので、単純比較はできない。

北海道大学…協定等に基づく学生の海外派遣者数及び協定等に基づかない学生の海外派遣者数の合計

千葉大学…学生交流協定校以外への派遣を含む

東京大学、大阪大学…定義の記載なし

名古屋大学…海外留学の種類・目的は交換留学、研究、語学研修、学位取得等

京都大学…外国へ渡航した学生数

神戸大学…単位授与を伴うプログラムに基づくもの

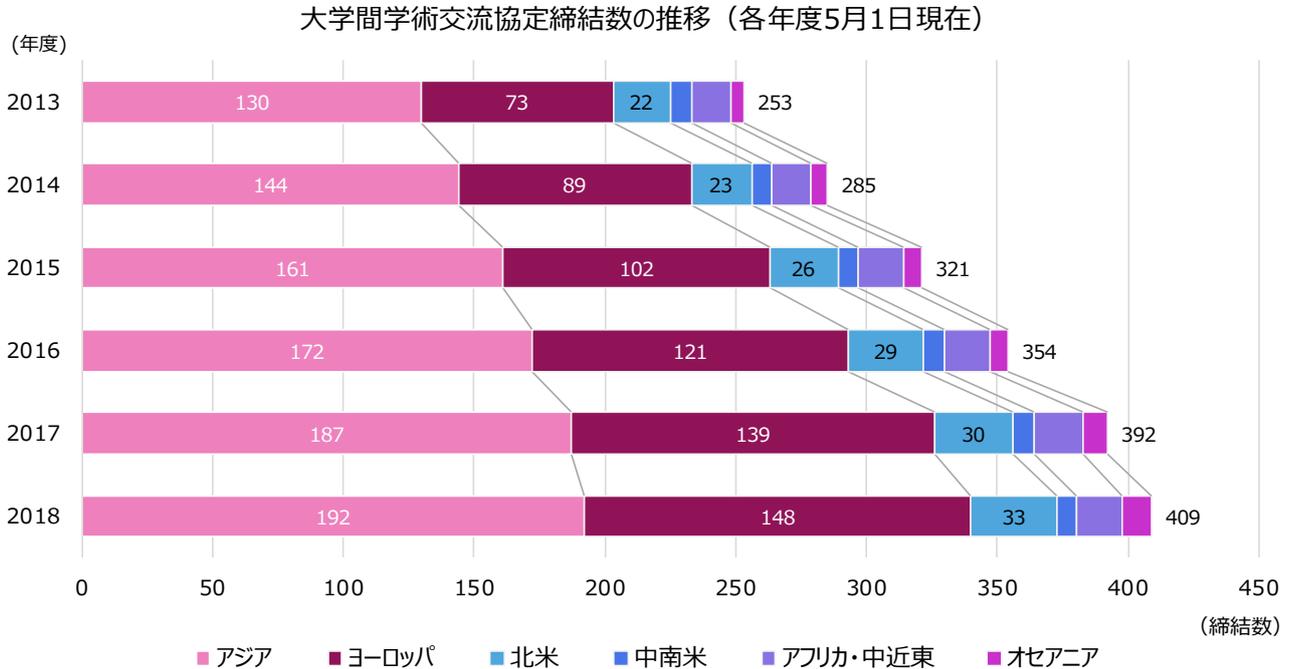
岡山大学…「留学願」受付数より算出

九州大学…過年度に留学を開始した者を含む

20. 海外大学との交流状況

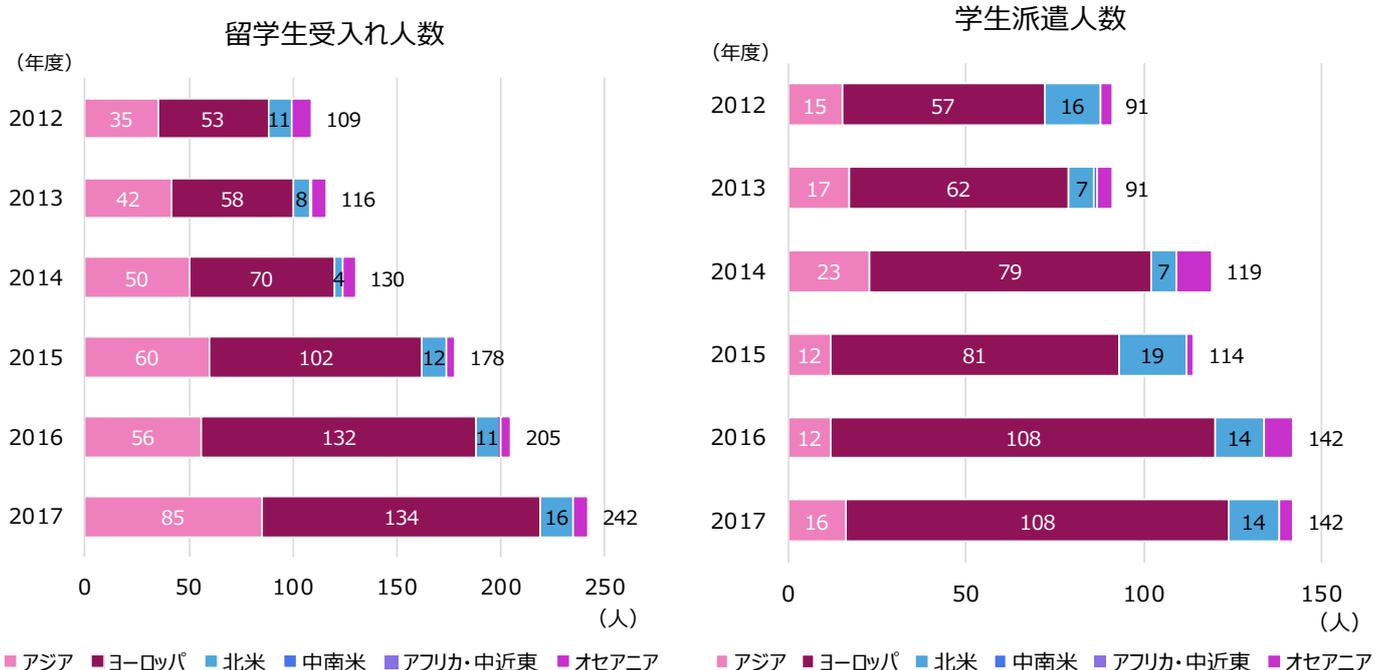
20-1 外国の大学等との学術交流協定の締結状況

○ 大学間学術交流協定締結数は近年、アジア及びヨーロッパを中心に着実に増加している。



20-2 大学間学術交流協定に基づく留学生受入れ・学生派遣状況

○ 大学間学術交流協定数の伸びと同調して、2017年度は留学生の受入れ及び学生派遣数が過去最多となった。ヨーロッパの大学との交流が多くを占める一方、協定数の割にアジアの大学の交流が少なかったが、2017年度の受入れは大きく増加した。

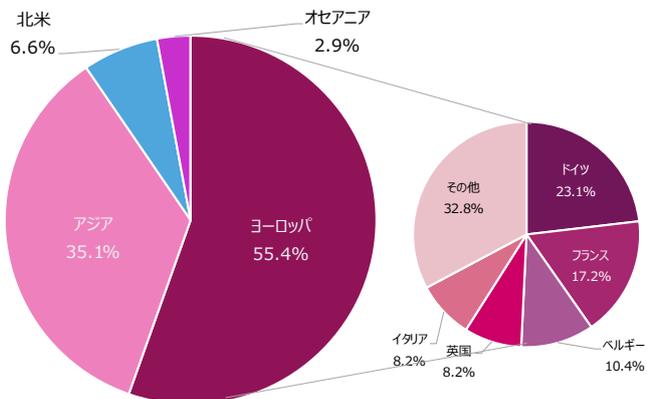


20-3

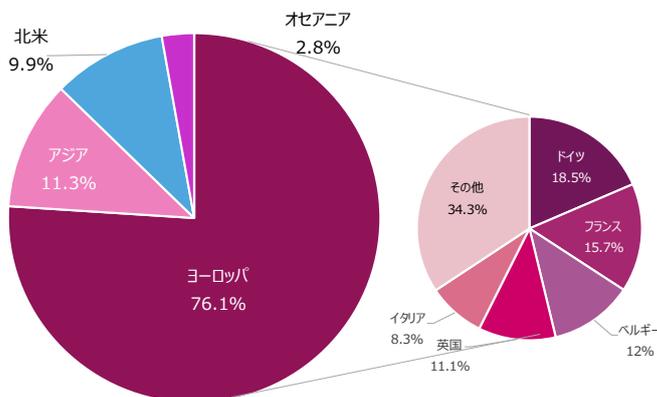
大学間学術交流協定に基づく 外国人留学生の出身地域・日本人留学生の派遣先地域

○ 交換留学の多いヨーロッパについて内訳を見ると、本学が交流の拠点として海外オフィスを置くベルギーは、フランスや 英国、イタリアと同程度の割合を占めている。また、その他の地域も3割程度を占めていることから、多様な交流が行われていることがわかる。

交換留学生の出身地域別割合（2017年度）



交換留学生の派遣先地域別割合（2017年度）



※小第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

20-4

ダブルディグリープログラムによる交流学生数

○神戸大学におけるダブルディグリー設置状況

2018年3月31日時点

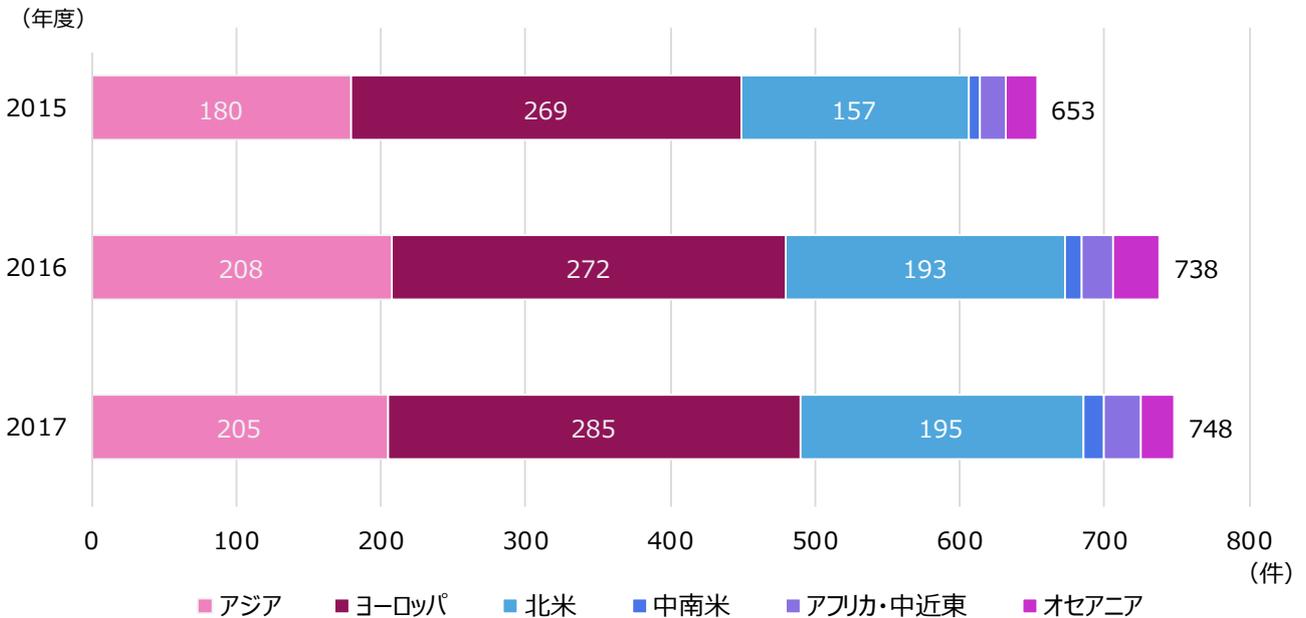
部局	課程	共同設置機関国	共同設置機関校	先方における関係部局	プログラム覚書締結日	派遣/受入れ開始日	派遣										受入れ																																					
							2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017																												
人文学研究科	修士	中国	北京外国語大学	北京日本学研究中心	2014/9/30	2015年9月(派遣) 2016年4月(受入)	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1																					
国際文化学研究科	修士	ベルギー	ルーヴン大学※1	人文学研究科 MAES	2012/3/28 2015/12/15	2012年秋以降 2017年	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1																					
		中国	浙江大學※1	人文学院	2011/9/28	2012年春	-	-	-	1	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0																				
		イタリア	ナポリ東洋大学	-	2014/5/19	2015年春	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2																				
		フランス	パリ・ディドロ大学※1	地理・歴史・社会科学研究科	2015/10/23	2016年春	-	-	-	-	-	-	-	0	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5																				
法学研究科	修士	英国	エッセクス大学※1	人文科学部アジア・アフリカ研究所	2015/10/23	未定	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0																					
		ドイツ	ハンブルク大学	政治学部	2013/9/19	2014年秋以降	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2																					
経済学研究科	修士	ポーランド	ヤグウォ大学※1	ヨーロッパ研究センター	2014/3/11	2014年秋以降	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2																						
		ベトナム	貿易大学※5	-	2016/7/13	2017年秋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1																					
		ベルギー	ルーヴン大学	ヨーロッパ研究センター 人文学部・経済経営学部	2010/1/18 2013/5/8 (更新) 2014/3/12 (更新)	2012年春	-	-	-	-	-	1	1	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1																				
	中国	北京外国語大学※2	北京日本学研究中心	2010/5/18	2011年春	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3																				
	中国	武漢大学※2	外国語文学部日本語学	2012/12/10	2013年秋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3																				
	ベトナム	貿易大学※5	-	2016/7/13	2017年秋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0																				
経営学研究科	学士	英国	エッセクス大学	-	2018/3/23	2018年秋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-																				
		ベトナム	貿易大学※4	日本語学部	2015/2/24	2016年春	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3																			
		中国	武漢大学※4	外国語文学部	2015/3/16	2016年春	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3																			
経営学研究科	修士	ベルギー	ルーヴン大学※4	人文学部	2015/6/8	2016年春	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0																				
		英国	シェフィールド大学	マネジメントスクール	2016/11/29	2017年9月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0																			
医学研究科	修士	ベトナム	貿易大学※5	-	2016/7/13	2017年秋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0																				
		インドネシア	ガジャマダ大学※1	医学部	2016/2/29	未定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0																			
国際協力研究科	修士	タイ	マヒドン大学	シラート病院医学部	2015/11/26	未定	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0																			
		インドネシア	インドネシア大学※3	経済学研究科	2006/6/28 2014/11/26 (更新)	2007年秋(受入) 2010年8月(派遣)	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2	2	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	2																		
				経済経営研究科	2006/6/28 2014/12/1 (更新)	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	2	3	3	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	1																
				都市工学系研究科	2006/6/28	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																	
				政治学研究科	2015/12/18	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																	
		韓国	高麗大学校※1	国際研究大学院	2012/3/26	2012年秋	-	-	-	2	2	3	0	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1																		
		中国	復旦大学※1	国際関係・公共事務学院	2012/6/12	2012年秋	-	-	-	2	2	4	0	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3																		
		ベトナム	貿易大学※5	-	2016/7/13	2017年4月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0																	
		米国	イーストアングリア大学	国際開発学部	2008/7/16 2015/3/18 (更新)	2009年秋	1	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																		
					2009/9/7	2010年秋	-	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																
2010/2/25	2010年秋				-	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0																		
2013年秋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1																			
計																																			1	3	2	6	4	10	4	8	7	7	7	6	6	11	15	19	15	26	37	26

※1 授業料相互不徴収によるダブルディグリープログラム。
 ※2 受入れのみのダブルディグリープログラムであり、日本語学科の修士課程に在籍の学生を対象として、最短2年間で共同設置大学と神戸大学経済学研究科の修士号取得を目指すもの。
 ※3 インドネシア大学、ガジャマダ大学、バンドン工科大学とは、2006年に日本の国際協力銀行（当時）の円借款による支援を受けてダブルディグリー取得を目指す学生の受入れのために覚書を交わし、2007年秋学期から受入れを開始した。その後、2014年度に一旦受入れを中断し、同年にインドネシア大学、ガジャマダ大学と覚書を更新、2015年度より再開している（バンドン工科大学については協定終了）。
 なお、これらの大学とは、別途経費でダブルディグリー取得を目指す学生の相互派遣・受入れを目指した覚書も締結している。
 ※4 受入れのみの3年次編入のダブルディグリープログラム。
 ※5 4研究科（法学・経済学・経営学・国際協力）による、受入れのみの修士課程のダブルディグリープログラム。

20-5 海外研究機関との国・地域別共同研究数

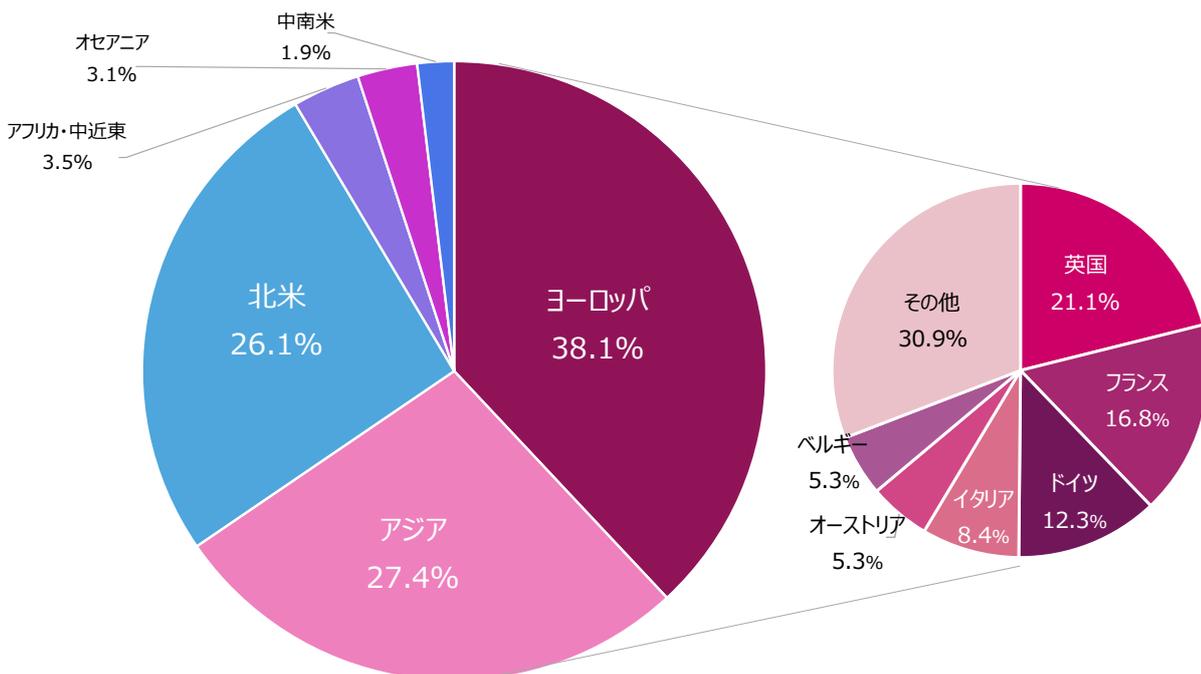
- 海外研究機関との共同研究については、アジア、ヨーロッパ、北米地域との共同研究が全体の9割近くを占めている。
- 地域別割合ではヨーロッパの割合が最も高い。ヨーロッパの国別に見ると、学生交流とは逆に英国、フランス、ドイツの順になっており、その他様々な国との研究が進んでいることが伺える。

海外研究機関との地域別共同研究数



※海外研究機関とは海外の大学、研究所等を指す。

海外研究機関との共同研究の国・地域別割合（2017年度）

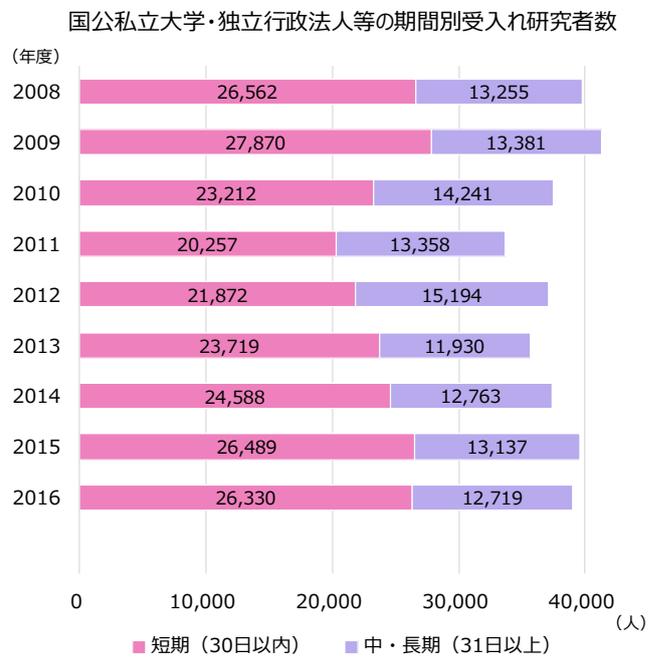
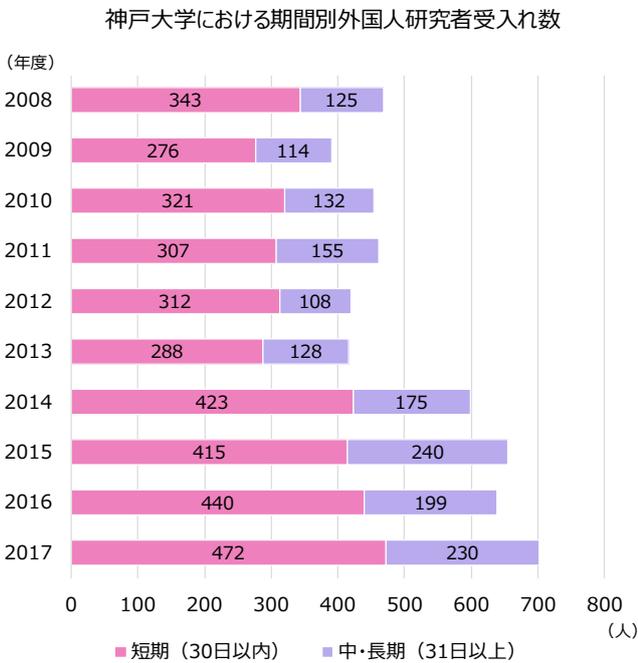


※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

21. 研究者等交流状況

21-1 外国人研究者受入れ数の推移

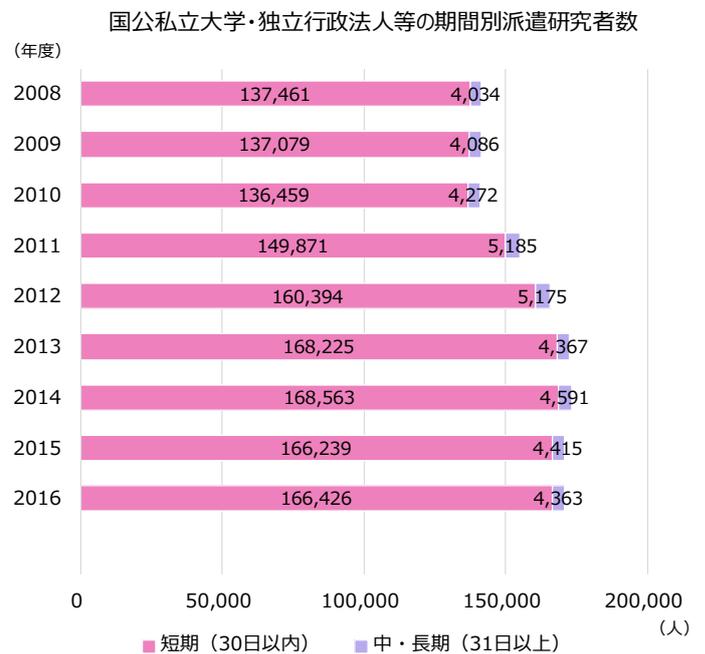
○ 本学における外国人研究者受入れ数については、2013年度までは毎年400～450名程度を推移していたが、2014年度以降は600～650名程度を推移し、2017年度は700名を超えた。



出典 (右) : 文部科学省「国際研究交流の概況」

21-2 研究者海外派遣数の推移

○ 本学では、「若手教員長期海外派遣制度」により、中・長期派遣研究者数を毎年安定して派遣している。
 ○ 2016年度は、短期派遣研究者数が前年度比22%程度増加したことにより、全体としても統計を開始した2008年度以降最多となる2,752名を派遣したが、2017年も引き続き増加し、2,823名を派遣した。



出典 (右) : 文部科学省「国際研究交流の概況」

22. 国際化の状況

22-1 スーパーグローバル大学創成支援事業採択大学との比較

- 本学は、外国人教員等数の総教員数に対する割合が高い。
- 外国語による授業の実施率、外国人留学生の全学生に対する割合等は高くないため、今後さらなる国際化が求められる。

①外国人教員等数の割合

順位	大学名	外国人教員等数	専任教員数	外国人教員等の割合
1	広島大学	676	1,678	40.3%
2	岡山大学	594	1,523	39.0%
3	神戸大学	635	1,637	38.8%
4	九州大学	875	2,436	35.9%
5	北海道大学	730	2,411	30.3%
6	東北大学	916	3,150	29.1%
7	筑波大学	520	1,882	27.6%
8	名古屋大学	631	2,361	26.7%
9	大阪大学	855	3,234	26.4%
10	千葉大学	314	1,370	22.9%
11	東京大学	1,244	5,841	21.3%
12	京都大学	470	3,356	14.0%

(2017年5月1日現在)

②外国人教員等数当たりの学生数

順位	大学名	全学生数	外国人教員等数	外国人教員等数当たりの学生数
1	東北大学	18,621	916	20.33
2	九州大学	19,036	875	21.76
3	岡山大学	13,499	594	22.73
4	東京大学	28,446	1,244	22.87
5	広島大学	15,788	676	23.36
6	北海道大学	18,362	730	25.15
7	名古屋大学	16,175	631	25.63
8	神戸大学	16,588	635	26.12
9	大阪大学	24,372	855	28.51
10	筑波大学	17,560	520	33.77
11	千葉大学	14,533	314	46.28
12	京都大学	23,272	470	49.51

(2017年5月1日現在)

③外国語による授業の実施率

順位	大学名	外国語による授業数	全授業科目数	実施率
1	広島大学	2,677	12,424	21.5%
2	筑波大学	2,602	13,601	19.1%
3	九州大学	2,087	12,529	16.7%
4	名古屋大学	1,783	11,023	16.2%
5	北海道大学	1,165	7,814	14.9%
6	東北大学	918	8,925	10.3%
7	東京大学	1,437	13,990	10.3%
8	京都大学	1,171	13,101	8.9%
9	神戸大学	490	6,505	7.5%
10	岡山大学	486	8,302	5.9%
11	大阪大学	1,045	21,715	4.8%
12	千葉大学	559	12,484	4.5%

(2016年度実績)

④外国人留学生の全学生に対する割合

順位	大学名	外国人留学生数	全学生数	外国人留学生の割合
1	筑波大学	2,426	17,560	13.8%
2	東京大学	3,621	28,446	12.7%
3	九州大学	2,201	19,036	11.6%
4	東北大学	2,027	18,621	10.9%
5	名古屋大学	1,637	16,175	10.1%
6	北海道大学	1,851	18,362	10.1%
7	大阪大学	2,273	24,372	9.3%
8	京都大学	2,138	23,272	9.2%
9	広島大学	1,443	15,788	9.1%
10	神戸大学	1,201	16,588	7.2%
11	千葉大学	831	14,533	5.7%
12	岡山大学	685	13,499	5.1%

(2017年5月1日現在)

⑤日本人学生の海外留学生の全学生に対する割合

順位	大学名	海外留学生数	全学生数 (外国人留学生除く)	海外留学の割合
1	千葉大学	657	13,714	4.8%
2	筑波大学	688	15,012	4.6%
3	九州大学	745	16,792	4.4%
4	広島大学	588	14,375	4.1%
5	北海道大学	629	15,425	4.1%
6	岡山大学	505	12,811	3.9%
7	東北大学	646	16,538	3.9%
8	神戸大学	522	15,441	3.4%
9	大阪大学	649	21,786	3.0%
10	東京大学	714	28,253	2.5%
11	名古屋大学	312	14,594	2.1%
12	京都大学	191	21,395	0.9%

(2016年度実績)

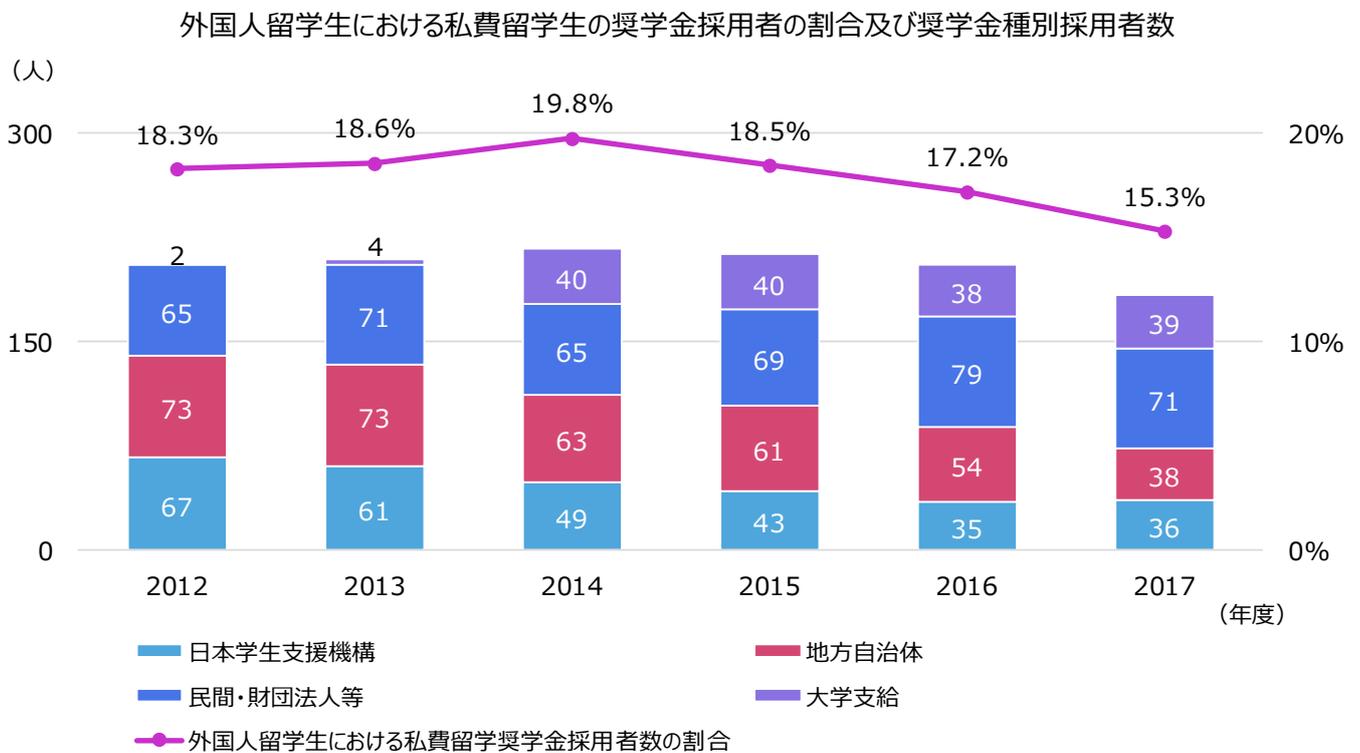
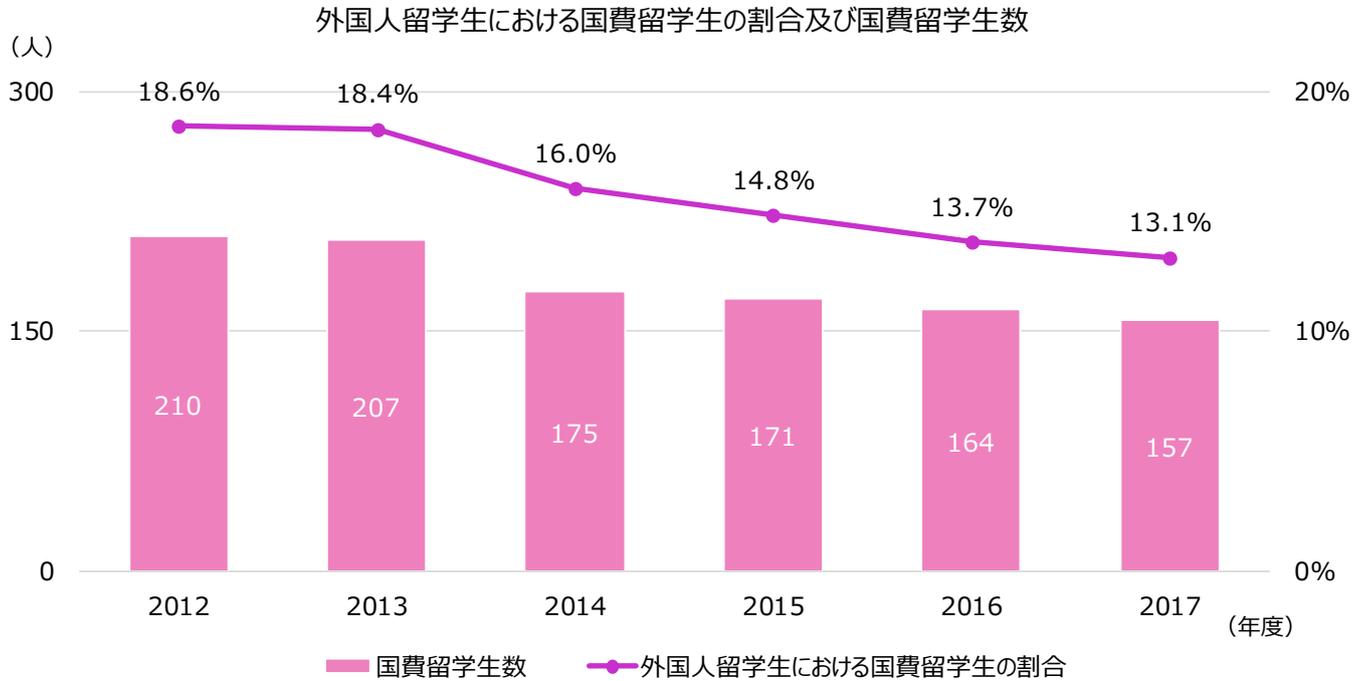
出典：独立行政法人 日本学術振興会「スーパーグローバル大学等事業 スーパーグローバル大学創成支援」2017年度中間評価における各大学の参考数値より

国立大学で学部入学定員の上位13大学（大規模13大学）のうち、事業採択大学と比較

- 注1) 外国人教員等数：外国籍の教員に加え、国外の大学での学位取得、通算1年以上教育研究に従事した日本人教員を含む。
- 注2) 外国語による授業の実施率：日本語の併用や外国語教育を主たる目的とするものを除く。
- 注3) 外国人留学生：在留資格が「留学」の者のみ計上。
- 注4) 日本人学生の海外留学生数：2016年4月1日から2017年3月31日までに海外の大学において留学を開始した日本人学生数
- 注5) 全学生数：非正規課程の学生を含む。

22-2 留学生への経済支援について

- 外国人留学生数が増加している一方で、国費留学生及び私費留学生の奨学金採用者数はやや減少傾向にあり、奨学金採用者の割合は低下している。
- 私費留学生の奨学金採用者の内訳としては、2014年度に大学支給を拡大したが、地方自治体、日本学生支援機構の減少が進んでいる。



※外国人留学生数は学校基本調査より算出しており、科目等履修生・聴講生・研究生等を含む。

※日本学生支援機構による奨学金は「留学生受入れ促進プログラム（旧：文部科学省外国人留学生学習奨励費給付制度）」の採用者数を集計している。

23. 附属病院

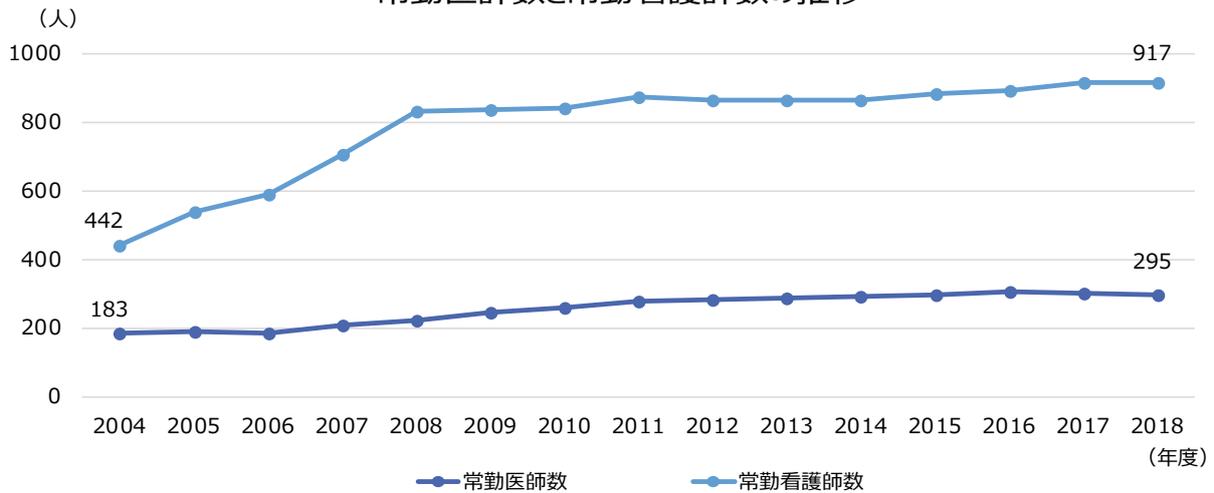
23-1 附属病院の病床数・常勤医師数・常勤看護師数

○ 常勤医師数は2004年度と比較すると、約1.6倍となっている。また、常勤看護師数は2004年度から2008年度にかけて約2倍に増加し、2009年度以降は微増となっている。

病床数		常勤医師数	常勤看護師数
一般病棟	精神病棟		
888床	46床	295名	917名

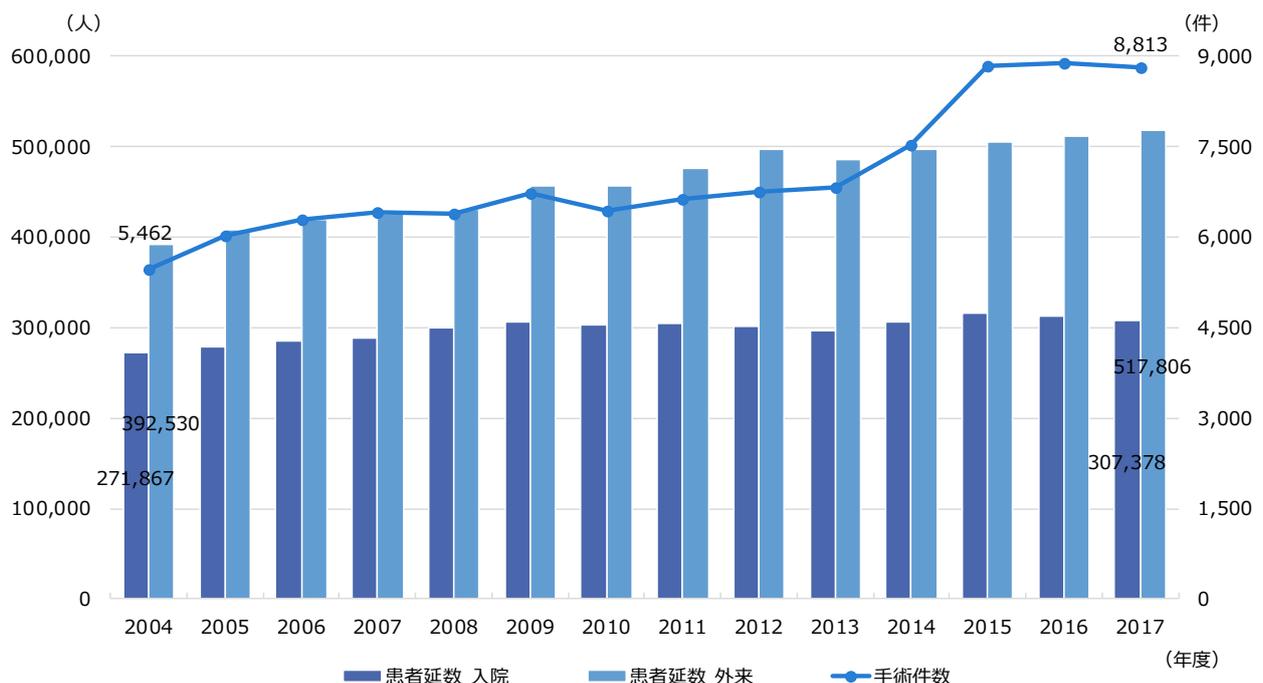
2018年5月1日現在

常勤医師数と常勤看護師数の推移



23-2 附属病院の患者数と総手術件数の推移

○ 患者延べ数は2004年度と比較すると約1.2倍となっており、増加している。また、総手術件数は2004年度から2015年度にかけて約1.6倍に増加し、2016年度以降は水準を維持している。

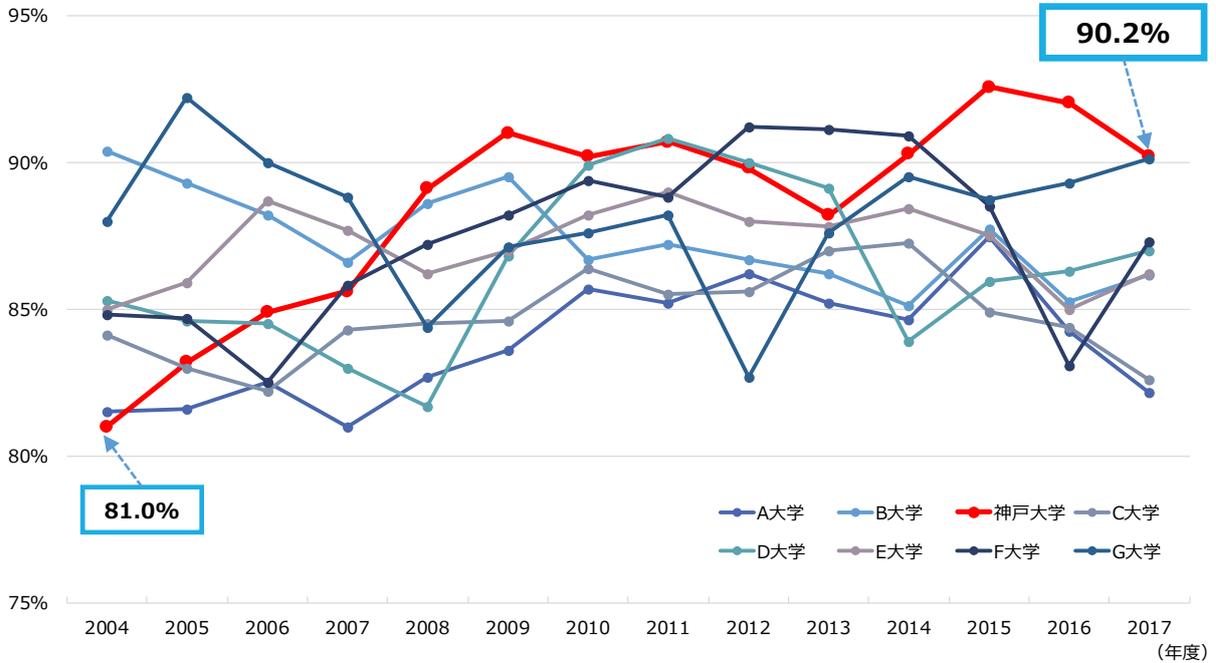


・患者延数 入院・・・退院患者数+在院患者延数
 ・患者延数 外来・・・新来患者数+再来患者数

23-3 附属病院の病床稼働率・平均在院日数の推移

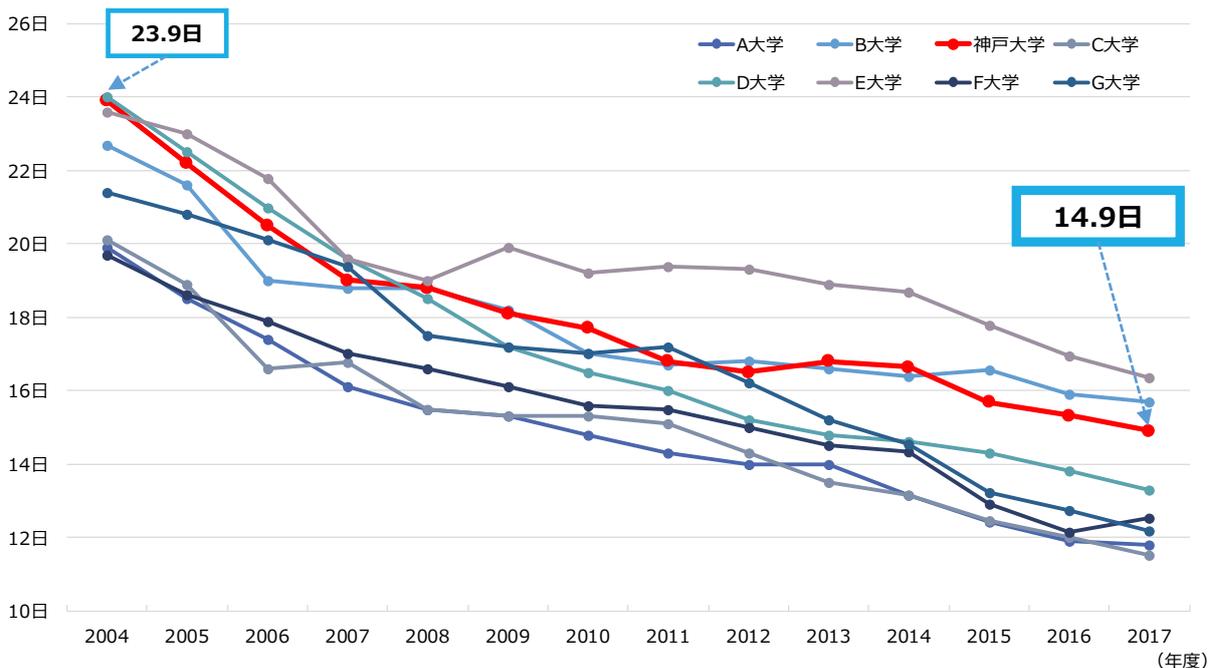
○ 2017年度の本学の病床稼働率は90.2%であり、病床数が同規模である8国立大学の附属病院間で比較したところ1位であった。また、全国の国立大学附属病院における病床稼働率においては2位となっている。

病床稼働率の推移（2004～2017年度）
病床数が同規模である国立8大学について比較



【出典】 ・病床稼働率（分院除く）・・・ 2004～2015:国立大学病院DBC病院資料
2016～2017:UMINデータ

平均在院日数（一般病床）の推移（2004～2017年度）
病床数が同規模である国立8大学について比較

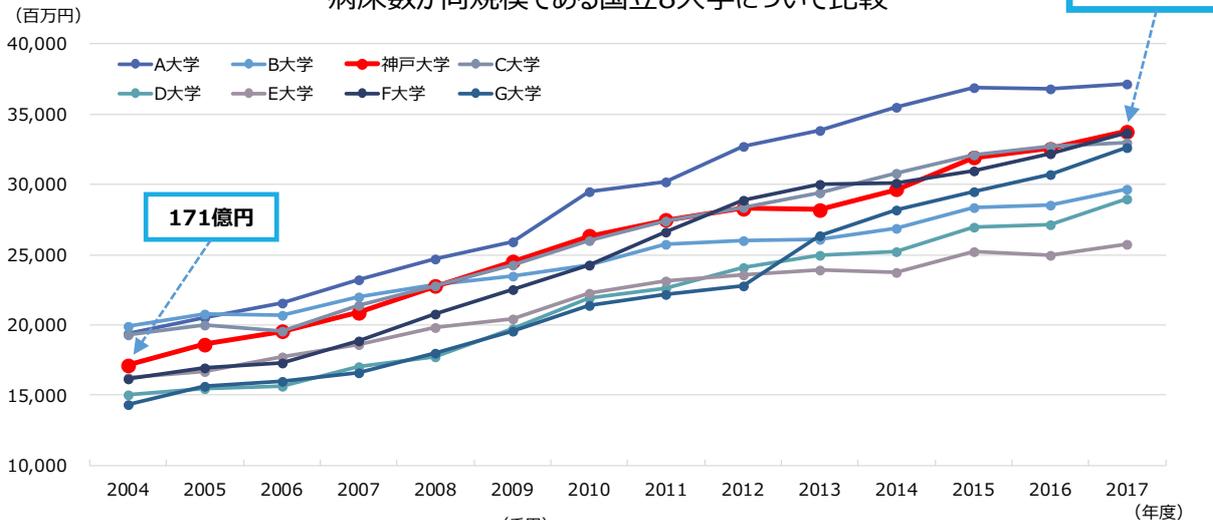


【出典】 ・平均在院日数（一般病床）・・・ 2004～2015:国立大学病院DBC病院資料
2016～2017:UMINデータ

23-4 附属病院の診療報酬請求額の推移

○ 本学の2017年度診療報酬請求額は338億円であり、法人化時（2004年度）のほぼ倍となっている。

診療報酬請求額の推移（2004～2017年度）
病床数が同規模である国立8大学について比較



《参考》

大学名	病床数	運営費交付金 (2016年度)	大学名	病床数	運営費交付金 (2016年度)
A大学	1,035床	3,485,091	D大学	862床	3,673,029
B大学	944床	3,016,420	E大学	838床	2,730,807
神戸大学	934床	3,001,730	F大学	850床	3,452,119
C大学	855床	3,116,391	G大学	800床	2,926,439

【出典】

・診療報酬請求額 … 2004～2015：国立大学病院DBC病院資料
2016～2017：国立大学病院DBC診療報酬稼働額Webデータ
・病床数 … 国立大学病院DBC病院資料（2017.6.1現在）
・運営費交付金 … 各大学の財務諸表（附属病院の運営費交付金収益）

その他 教育・研究・高度医療・地域医療 への貢献

教育

- 将来の医療を担う医療従事者の育成
- ・医学生、看護学生等の教育
 - ・初期研修医（85名）の指導
 - ・専門医の養成（プログラム登録者644名）
 - ・エキスパートメディカルスタッフの育成（2018.5.1現在コース修了者154名）

診療

- ・地域の中核病院として専門性を有した質の高い医療の提供
- ・小児科、産科、救急医療など地域医療の充実のための診療部門における医療の提供
- ・中央診療棟の増築により手術室の拡張・増室など基盤強化した診療の提供
- ・海外患者対応窓口の設置



研究

- 臨床医学発展の推進と医療技術水準の向上への貢献
- ・新薬等開発のための臨床試験（治験）126件
 - ・先進医療の開発
ロボット支援手術（適応症：腎癌等）57件（ほか）

社会貢献

- ・地域がん診療連携拠点病院
- ・災害拠点病院
- ・エイズ治療拠点病院
- ・2次救急医療機関（3次的機能病院）
- ・兵庫県総合周産期母子医療センター指定
- ・医師が不足している地域に医師を派遣
- ・神戸医療産業都市における研究並びに教育の拠点として、国際がん医療・研究センターを開設

24. 附属学校

基本データ

2018年5月1日現在

附属学校部	生徒数	クラス数	教諭数
附属幼稚園	118	6	7
附属小学校	408	12	20
附属中等教育学校	849	24	54
附属特別支援学校	52	9	33
計	1,427	51	114

- 附属幼稚園・小学校
(文部科学省事業)
・2013年度～2016年度 文部科学省 研究開発学校指定
・2017年度～2019年度 文部科学省 研究開発学校延長指定
- 附属中等教育学校
(文部科学省事業)
・2015年度スーパーグローバルハイスクール (SGH) 指定
・2013年度～2016年度 文部科学省 研究開発学校指定
・2017年度～2019年度 文部科学省 研究開発学校延長指定

中等教育学校卒業生の進路状況

中等教育学校では、2015年3月に初めての卒業生を輩出し、主に大学等へ進学している。

単位：人

区分	2017年3月卒業			2018年3月卒業		
	男	女	計	男	女	計
国公立大学	17	17	34	24	26	50
海外の大学	0	1	1	0	0	0
私立大学 (大学校含む)	21	37	58	22	38	60
短期大学	0	0	0	0	0	0
各種・専門学校	1	0	1	4	4	8
就職：企業等	0	0	0	0	0	0
就職：公務員	0	0	0	0	0	0
進学準備	30	11	41	30	12	42
卒業生数	69	66	135	80	80	160

【主な進学先】

(国公立大学)

北海道大学、旭川医科大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、九州大学、横浜市立大学、京都府立医科大学、大阪市立大学、大阪府立大学 兵庫県立大学 他

(私立大学)

自治医科大学、青山学院大学、慶應義塾大学、上智大学、東京農業大学、東京理科大学、明治大学、早稲田大学、同志社大学、立命館大学、関西大学、近畿大学、関西学院大学、甲南大学、産業医科大学 他

(大学校)

防衛医科大学校

(海外の大学)

Princeton University

教育実習等の実施

附属学校部では、神戸大学の学生を中心に教育実習や介護等体験を実施している。

附属学校部	実習の種類	実習者数 (人)
附属幼稚園	教育実習	14
附属小学校		45
附属中等教育学校		60
附属特別支援学校		37
	介護等体験	169

神戸大学day等の開催

2018年5月

中等教育学校において4・5年生の生徒を対象とした、神戸大学全体及び各学部のガイダンスや講義を実施する「神戸大学day」を開催した。本取組は2012年度から開催しており、2018年度は神戸大学11学部から12名の教員と22名の学生が協力した。

2017年11月

工学部の協力の下、ポートアイランドにある統合研究拠点において、100余名の小学生・中等教育学校生及び保護者が大学の授業・実習を受けた。



海外交流事業

2015年度より中等教育学校においてSGH (スーパーグローバルハイスクール) 事業として、「グローバルキャリア人の育成」に資するため、国内外の交流事業を行っており、2017年度は延べ250名以上の生徒を海外に派遣した。

また、附属小学校においても「グローバルキャリア人の基本的資質の育成」を目指し、オーストラリアからの児童等受入れ並びに、フランス・マルセイユ及びアメリカ・ハワイ・ホノルルに計24名の児童を派遣したほか、フランスのマノスクPACA国際学校に教諭を派遣するなど、活発な国際交流事業を展開している。



25. 公開講座等

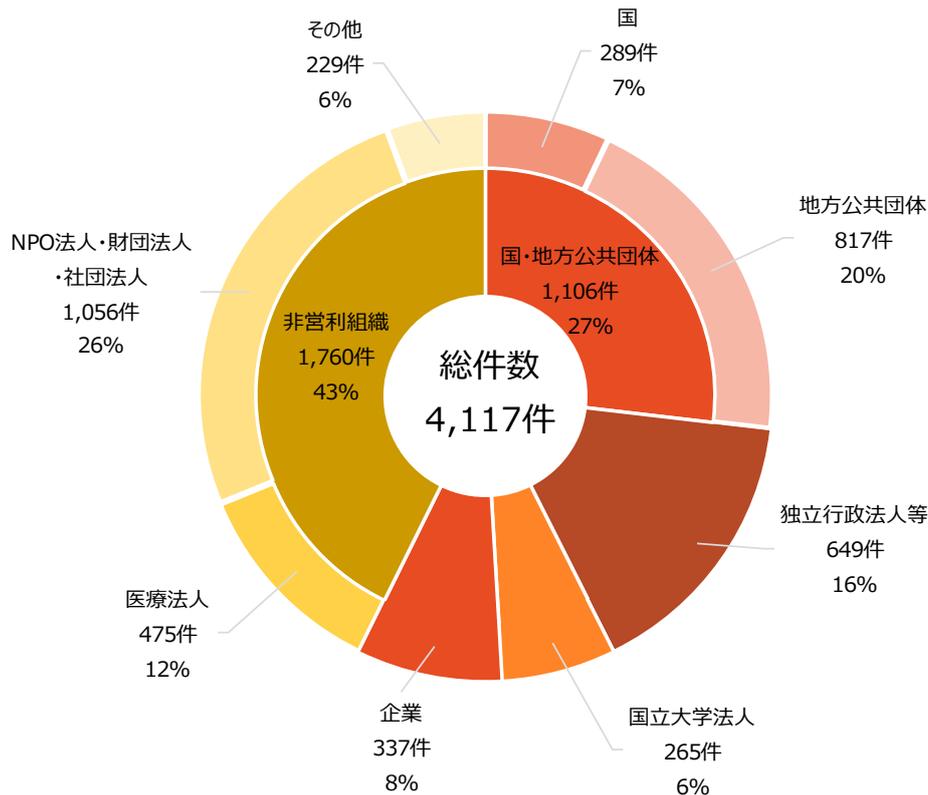
《2017年度実施の公開講座等》

部局名	講座名	受講対象者	時間数(時間)	募集人数(人)	受講者数(人)
全学	活躍する若手研究者たち	一般市民、学生	6	100	38
人文学研究科	詩と謡	一般市民、学生	6	100	57
	まちづくり地域歴史遺産活用講座2017	一般市民、学生	9	20	21
	まちづくり地域歴史遺産活用講座2017オプションプログラム古文書解説講座	一般市民	6	20	21
	変動する国際秩序：アメリカ、中国、ドイツ、イスラム世界の観点から	一般社会人、学生(中学生以上)	6	200	140
国際文化学研究科	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト連続講座第10弾「いきいきウォーキング」	鶴甲地区住民、教職員、学生	4.5	30	26
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト連続講座第11弾「園芸教室-野菜や草花を育ててみよう-」	鶴甲地区住民、教職員、学生	4.5	30	32
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト連続講座第12弾「秋のいきいきウォーキング」	鶴甲地区住民、教職員、学生	6	30	40
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト連続講座第13弾「園芸教室-野菜や草花を育ててみよう-」	鶴甲地区住民、教職員、学生	6	30	30
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクトアカデミックサロン第26回「神戸大学大学院生企画 鶴甲わいわいパーク」	鶴甲地区住民、教職員、学生	2	—	92
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト「防災避難訓練」	鶴甲地区住民、教職員、学生	2	—	20
	学術WEEKS2017 「17世紀後半のウィーン・エッセイスト・ドナト・ムリエル・フォルティス 気まぬ貴婦人・細川ガラシャ」の起源 -その音楽と歴史的背景-	学生、教員、研究者、一般市民	1.5	—	45
	障害学生の「学び」から見るインクルーシブな大学教育の意義と課題	一般市民、学生	6	—	70
	動植物を取り巻く環境変化と共生 (Environment change and adaptation around animal and plants)	学生、教員	2	—	30
	脳神経科学と心理療法の対話	心理職、大学院生、研究者	3	50	60
	国際シンポジウム「痛み」の表現と当事者研究	学生、院生、教員、一般市民	4	—	31
シンポジウム「芸術家の肖像-文化的記憶-評伝-映画」	学生、教員、研究者、一般市民	3.5	—	15	
アレクサンダー・テクニクの実践と研究-バジル・クラウツァー氏を招いて	レッスン受講者は神戸大生 聴講は一般市民も可	2	レッスン3人 聴講無制限	レッスン3人 聴講28人	
経済学研究科	神戸大学大学院経済研究科功労者表彰記念講演会(講演者:森口隆宏氏(元J.P.モルガン証券会長))	教職員、学生、一般市民	1.17	—	50
経済学研究科・システム情報学研究科	経済学研究科とシステム情報学研究科合同シンポジウム「人工知能と社会科学の邂逅:新たな地平線を目指して」	教職員、学生、一般市民	3.84	—	100
理学部	サイエンスセミナー2017「サイエンス最前線」	高校生、一般市民	0.8x5	120	117
医学部 (附属地域医療活性化センター)	地域医療シンポジウム2017 in ひょうご「地域医療のあり方と住民の地域医療教育への関わりを考える」	一般市民、行政関係者、医療従事者、学生、医療従事者を目指す高校生	6	100	52
	臨床セミナー	一般市民、行政関係者、医療従事者、学生、興味のある方	4	50	36
医学部附属病院	神戸大学医学部附属病院市民公開講座 がんに関する最新の治療と緩和ケア (地域がん診療連携拠点病院機能強化事業)	一般市民	2	300	270
	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成フォーラム「災害・救急医療コースフォーラム」	一般市民、行政関係者、医療従事者、学生	2	200	92
	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成フォーラム「周産期医療コースフォーラム」	一般市民、行政関係者、医療従事者、学生	1	200	123
	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成フォーラム「実践知を生かした最良の地域包括ケアシステムを目指して」	一般市民、行政関係者、医療従事者、学生	2	200	35
医学部附属病院 (総合臨床教育センター)	ワークライフバランス～時間活用の仕方～	一般市民、行政関係者、医療従事者、学生、興味のある方	2	30	17
	地域だからこそできる!～医療現場の魅力～	一般市民、行政関係者、医療従事者、学生、興味のある方	3	30	23
	県立柏原病院のキセキ～医学教育を基盤とした地域医療の向上と質の高い医療の提供～	一般市民、行政関係者、医療従事者、学生、興味のある方	1.25	40	34
	大リーガー医セミナー	研修医、学生、指導医、興味のある方	各1(全9回)	270	229
医学部附属国際がん医療・研究センター	神戸から発信するシリーズ「根治を目指す最新がん治療法」 「肺がんの最新治療～外科治療を中心に～」/「大腸癌に対する最新外科治療～TechnoQvの進歩を踏まえて～」	一般市民	1.7	300	232
	神戸から発信するシリーズ「根治を目指す最新がん治療法」 「膀胱がんの最新治療-神戸大学医学部附属病院と国際がん医療・研究センターのコラボレーション-」	一般市民	1.7	300	220
	「乳がんは今や8割治る!さらに治る率を上げるには...」～ICCRCTHリアルタイムがん研究センターの挑戦～	一般市民、学生	4	100	70
医学研究科	第35回神戸大学大学院医学研究科公開講座「認知症の正しい理解のために」	一般市民、学生	4	100	70
保健学研究科	最新の研究から家庭の保健・医療へ-明日からの健康のために-	一般市民、学生(高校生以上)	4	100	80
工学部	工学が支えるイノベーション	一般社会人、学生(高校生以上)	9	100	54
農学研究科	地球規模の環境変動を生き抜くための植物健康科学	一般市民、学生(高校生以上)	3	100	65
海事科学研究科	海事博物館市民セミナー「神戸における海技者教育100年の歩み(後編)」	一般社会人、学生(高校生以上)	3.5	110	42
国際協力研究科 (極域協力センター)	スヴァールバル諸島周辺海域の法的地位:来る紛争に備える	学生、一般市民	1.5	—	20
	国際気候変動法入門	学生、一般市民	1.5	—	20
	グローバルな課題について学問分野、部門、境界をまたいで考え、取り組む: 「ハーバードケネディスクール、国連大学、COP15およびCOP21の経験から」	学生、一般市民	1.5	—	20
	北極法秩序形成への非北極圏/アクターの貢献	学生、一般市民	3日間	—	70
	国際環境ガバナンスへの非国家主体の参加:北極先住民族から学ぶ	学生、一般市民	1.5	—	20
	北極漁業レジームの形成:評価と展望	学生、一般市民	1.5	—	20
国際協力研究科 (キャンパスアジア室)	レイモンド・ヤマモト教授 特別講演「日本のODAの安全保障化-地域と国内情勢の変化の中の新戦略の模索」	学生、一般市民	1.5	15	13
	岩谷滋雄氏 特別講演「日中韓協力の現状と見通し」	学生、一般市民	1	20	19
	ポール・シア博士 特別講演「キャンパスアジアレクチャー:「福島第一原発事故後の食品安全とリスクコミュニケーション」	学生、一般市民	1.5	20	15
先端融合研究環・計算科学教育センター	神戸医療産業都市・京コンピュータ一般公開	一般市民	6.5	—	1200
経済経営研究所	神戸を創った企業家たち	一般市民、学生	4	500	170
	女性のキャリア形成と選択 一人の女性・中村麻里子氏のキャリア論～AKB48からの転職～	一般市民、学生、教職員	3.5	500	150
経済経営研究所・先端融合研究環 未来世紀都市学研究ユニット共催	神戸開講150年記念公開講座「神戸を創った企業家たち」	一般市民、学生、教職員	4.10	500	170
経済経営研究所・先端融合研究環共催	ピアニストの経済学 エコノミストの音楽	一般市民、学生、教職員	3.5	500	台風の為中止
	計算社会科学からの挑戦～リスク社会におけるメディアの発達とソーシャル・キャピタル～	一般市民、学生、教職員	3.5	300	120
経済経営研究所・社会システムイノベーションセンター共催	アベノミクス再考:グローバル日本の金融・財政政策	一般市民、学生、教職員	3.15	500	230
	フィンテックと地域金融システムの変革	一般市民、学生、教職員	3	120	120
社会システムイノベーションセンター・経済学研究科・国際協力研究科	アジア開発銀行(ADB) 総裁中尾武彦氏講演会「アジア経済の展望とアジア開発銀行の役割」	教職員、学生、一般市民	1	—	80

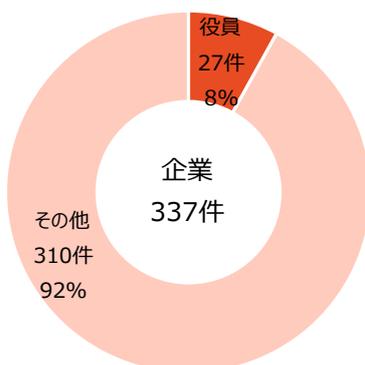
26. 学外機関への参画状況

- 本学教員の学外の機関への参画状況について、国・地方公共団体及び独立行政法人等への参画が43%、企業及び非営利組織への参画が51%となっている。
- 企業への参画件数337件のうち、27件（8%）は役員としての参画である。

◆組織別参画状況（2017年度）



◆企業への参画状況（2017年度）



- ※1 2017年度に当該機関から委嘱されているものが対象（2017年以前より継続しているものを含む）。1教員が複数機関から委嘱されている場合については、複数カウントしている。
- ※2 他大学等で教育に従事する者（非常勤講師等）は含めていない。
- ※3 小数第一位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものがある。

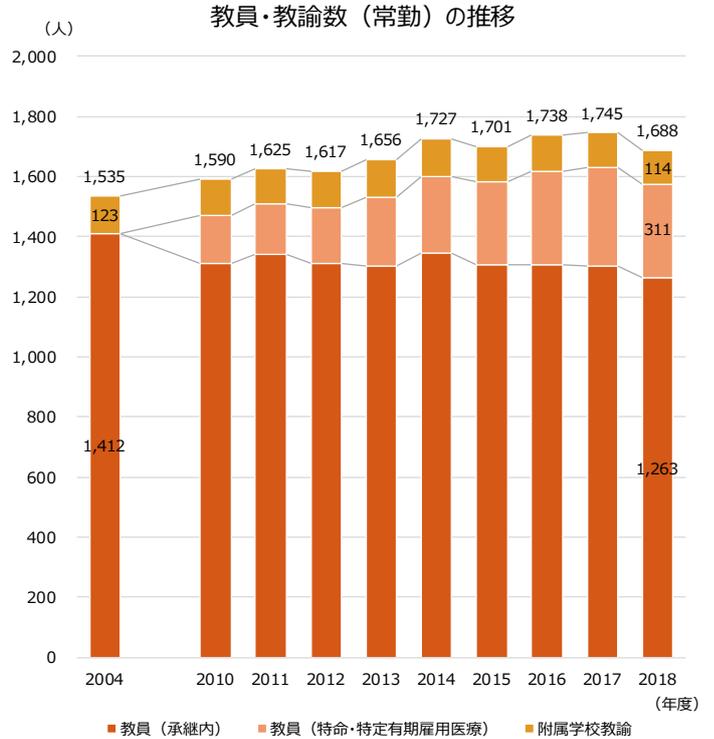
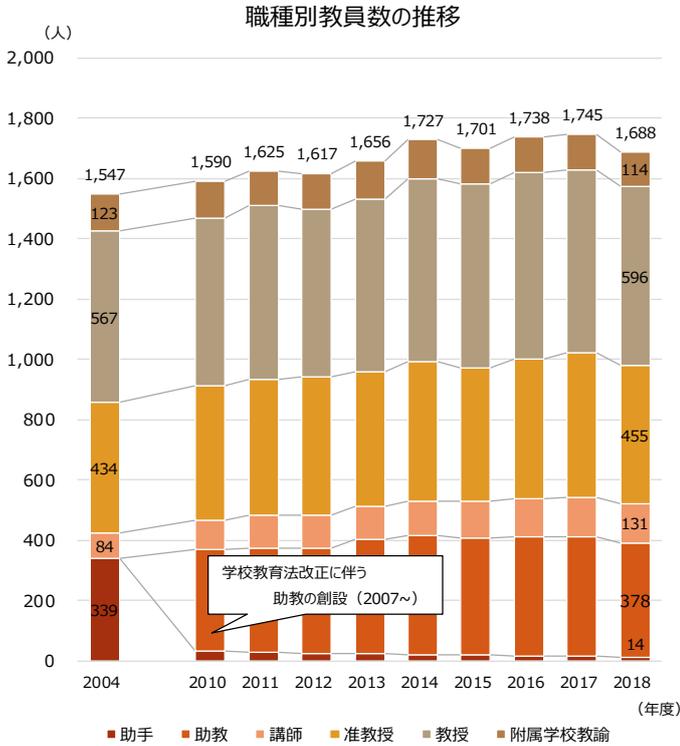
27. 教員

27-1 教員数の推移等

○ 法人化した2004年度と比べ、常勤教員（承継内）は減少し、特命教員及び特定有期雇用医療教員は増加している。

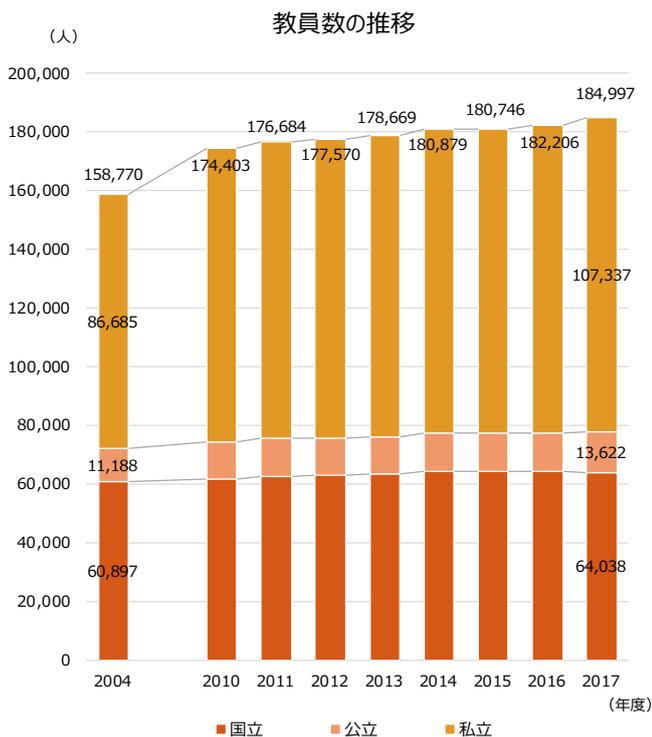
各年度5月1日現在

◆教員◆（神戸大学）



注）右図2004年度のみ休職者を含まない現員数を記載している。

◆教員◆（全国）



出典：文部科学省「学校基本調査」

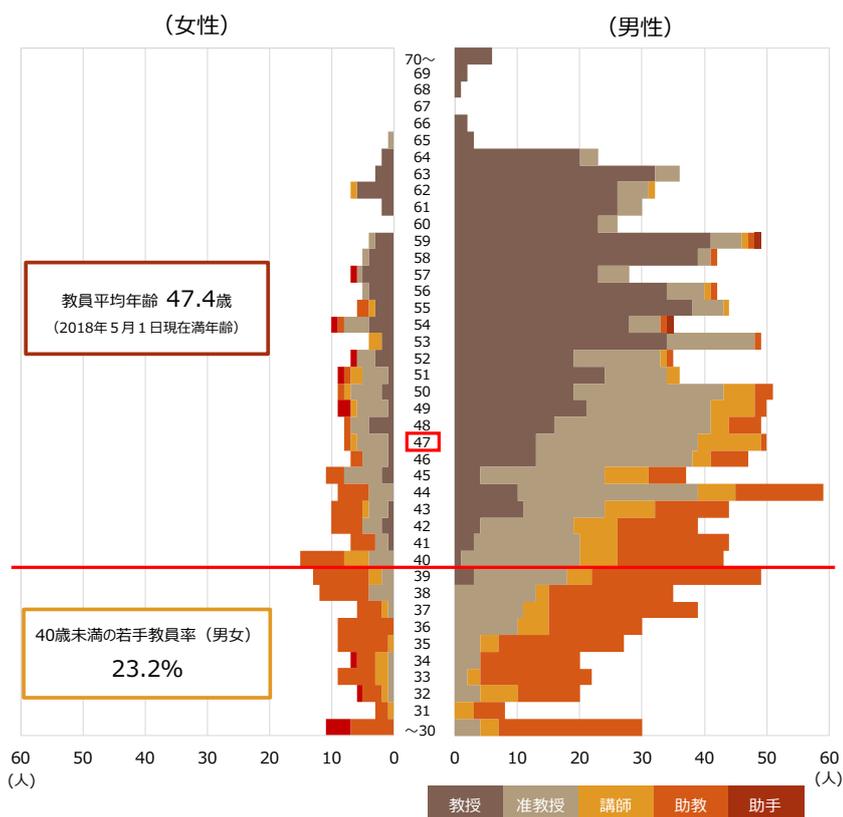
27-2 若手教員・外国人教員・女性教員等の推移等

- 教員の平均年齢は、近年上昇傾向にあり、2010年度から開始した定年延長の影響が現れていると言える。40歳未満の若手教員率については、2013年度をピークに近年減少傾向にある。
- 外国人教員については、2018年度は前年度より人数が微減したものの、割合については、近年増加傾向を維持している。
- 女性教員については、人数、割合ともに近年緩やかな増加傾向にあったが、2018年度は人数、割合ともに減少した。

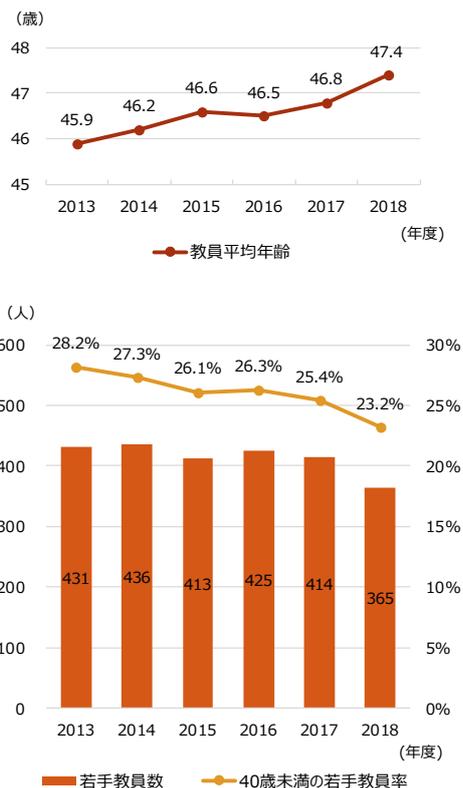
各年度5月1日現在

◆男女別・年齢別・職種別教員数◆ (神戸大学)

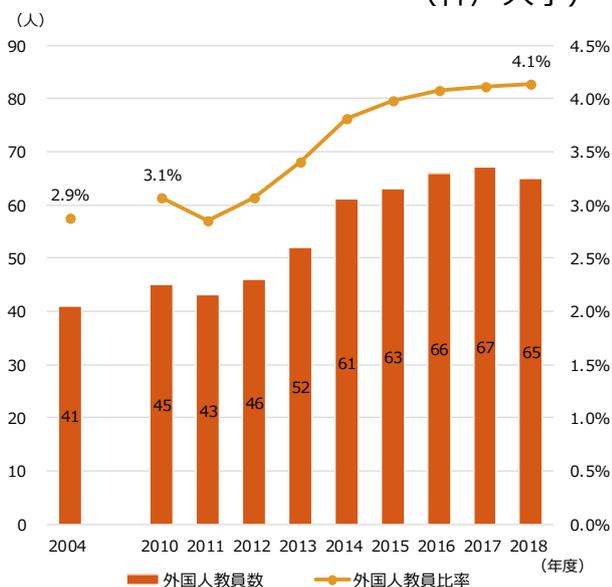
2018年5月1日現在



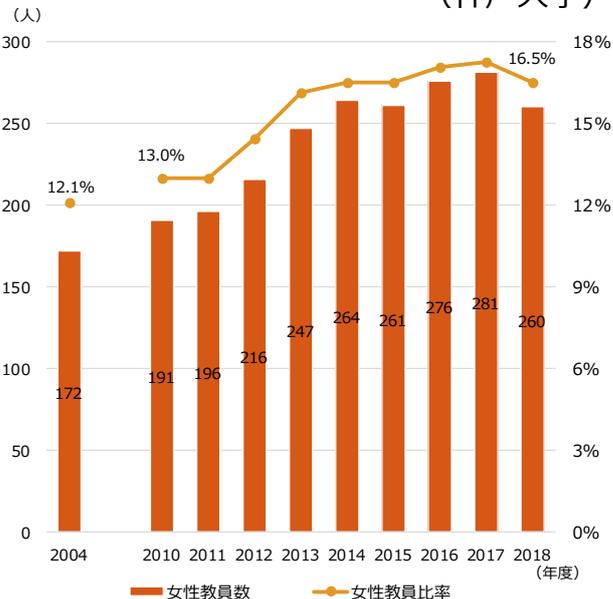
◆教員の平均年齢と若手教員数の推移◆ (神戸大学)



◆外国人教員数・外国人教員比率の推移◆ (神戸大学)



◆女性教員数・女性教員比率の推移◆ (神戸大学)

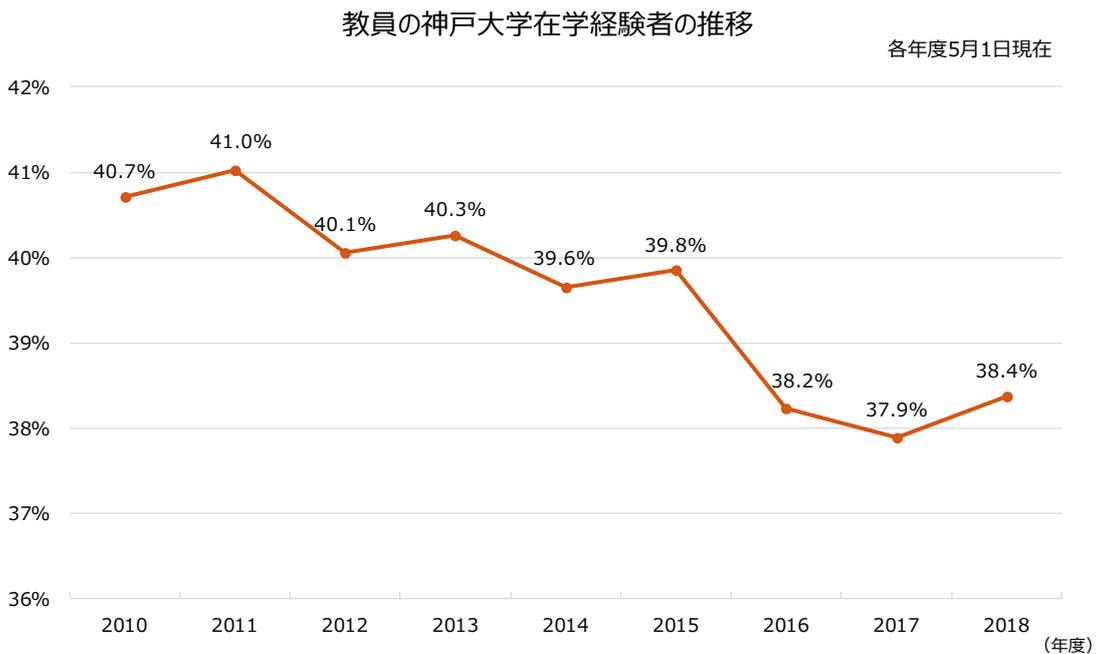
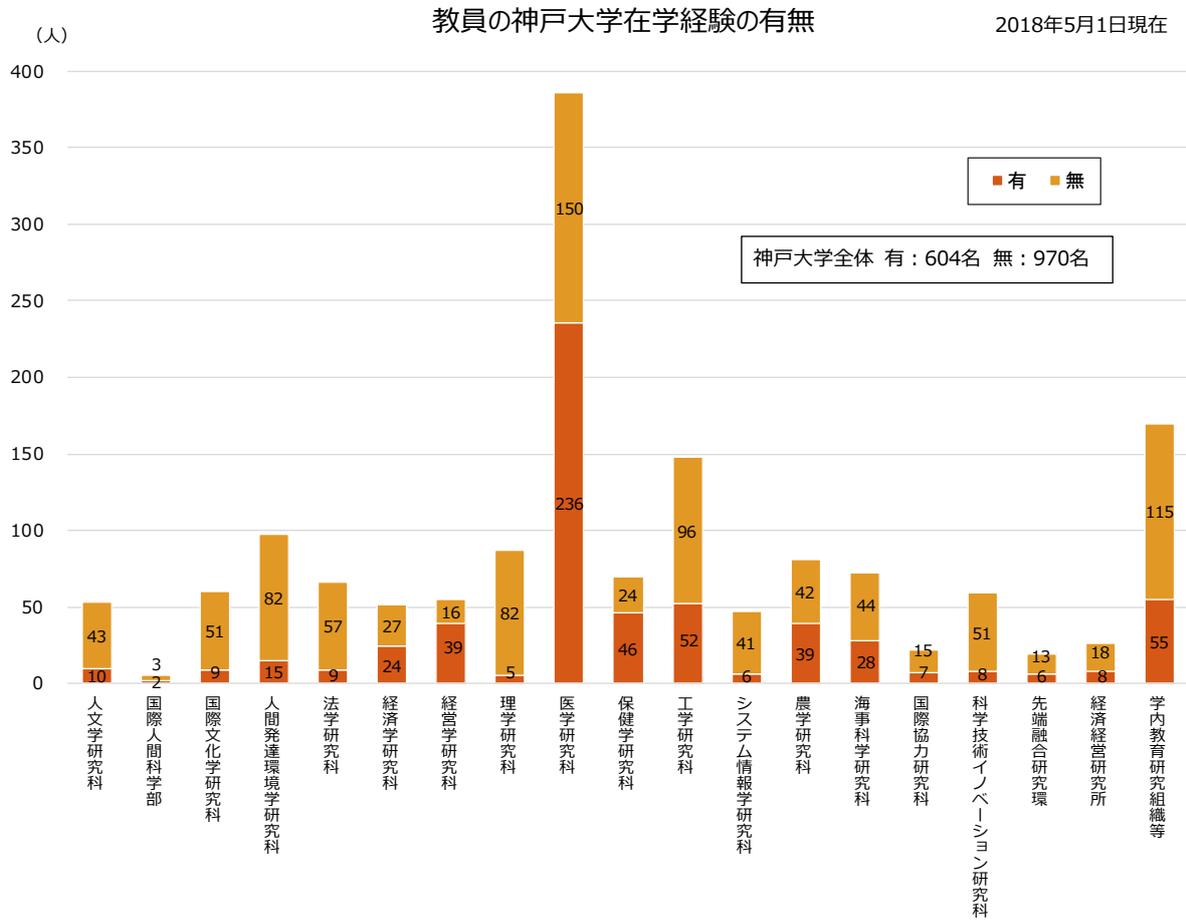


※2018年5月1日現在の外国人教員の国籍は、中華人民共和国、アメリカ合衆国、大韓民国、フランス、ドイツ及びオーストラリア等21の国と地域となっている。

注) 各教員数に役員・教諭の数は含まない。休職者を含む。

27-3 教員の神戸大学在学経験者

○ 教員の公募により幅広い人材の採用が進み、近年は神戸大学在学経験者が40%を切る状態が続いている。



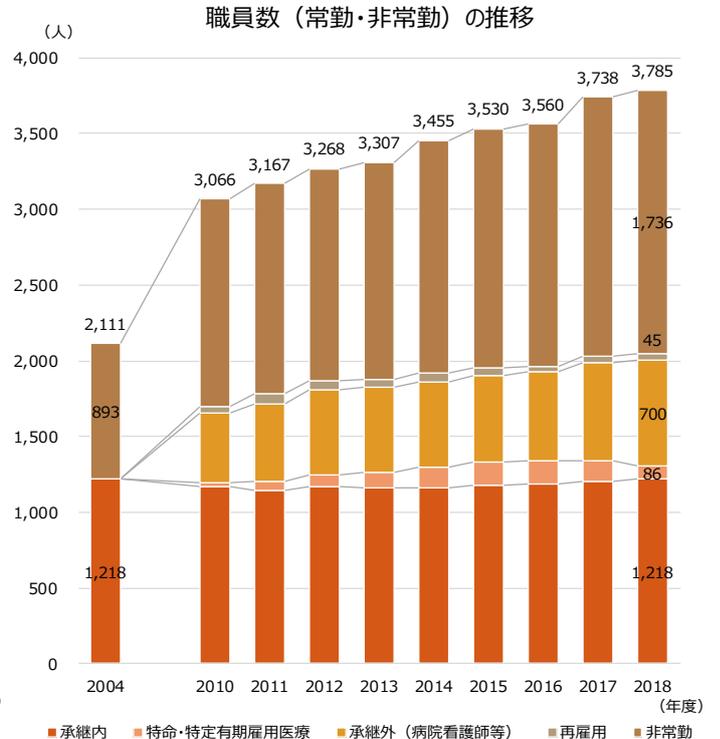
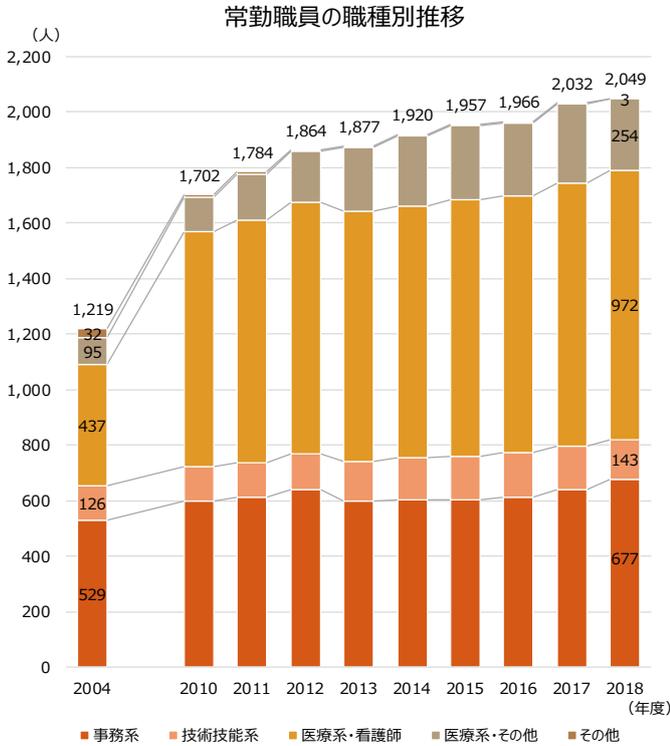
注) 各教員数に役員・教諭の数は含まない。休職者は含む。

28. 職員

- 法人化した2004年度と比べ、常勤職員（承継内）が減少している一方、非常勤職員は大幅に増加している。職種別では、医療系職員が大幅に増加していることが分かる。
- また、女性職員については、法人化時に比べ人数・割合ともに大幅に増加しているが、これは看護師等の医療系職員の増加によるものである。

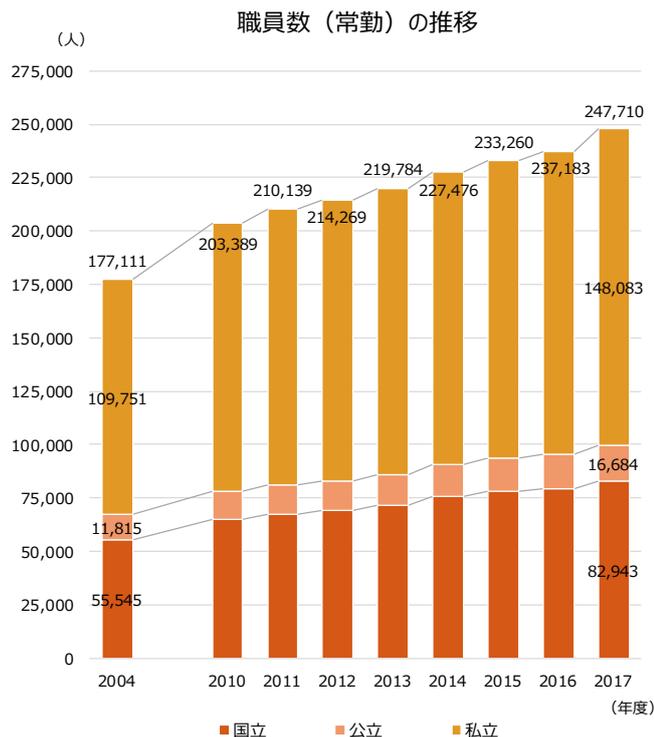
◆職員◆（神戸大学）

各年度5月1日現在

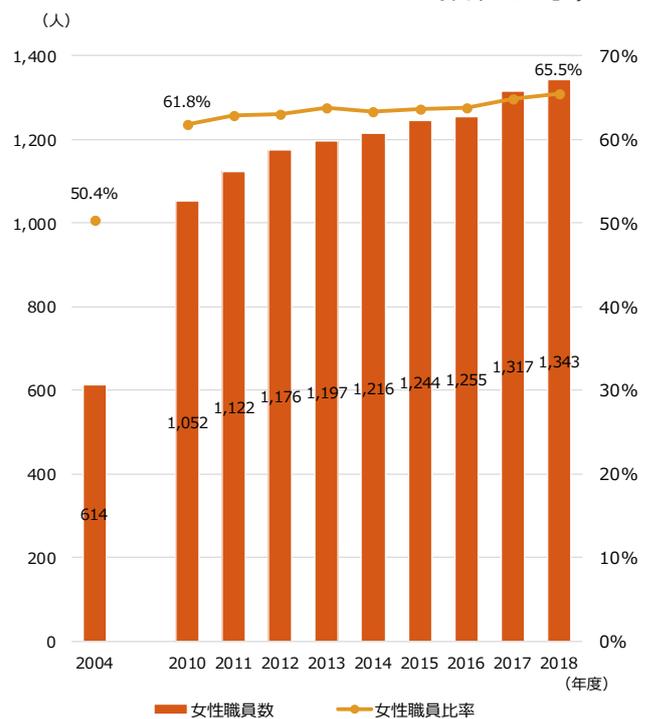


注）右図2004年度のみ休職者を含まない現員数を記載している。

◆職員◆（全国）



◆女性職員数・女性職員比率の推移◆（神戸大学）



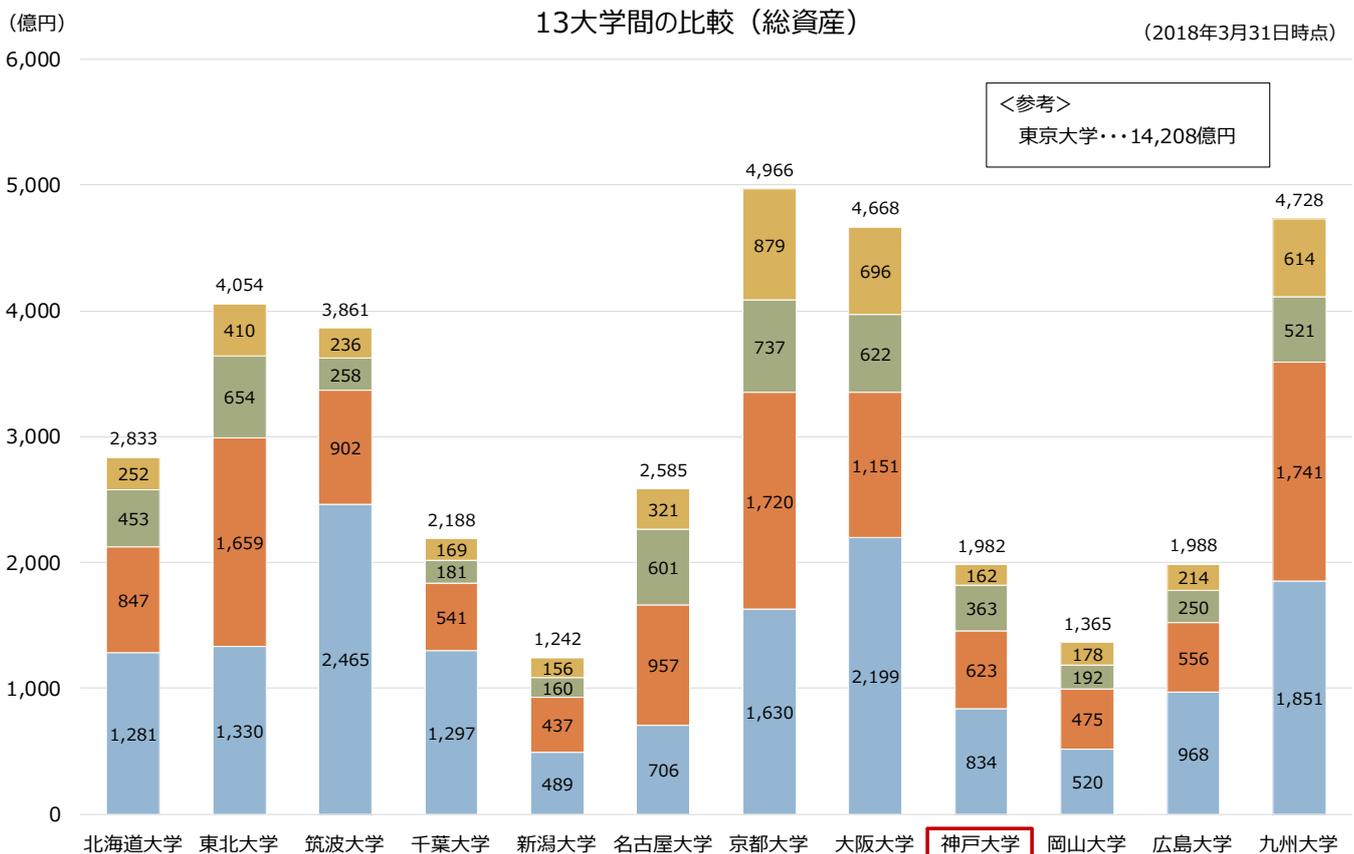
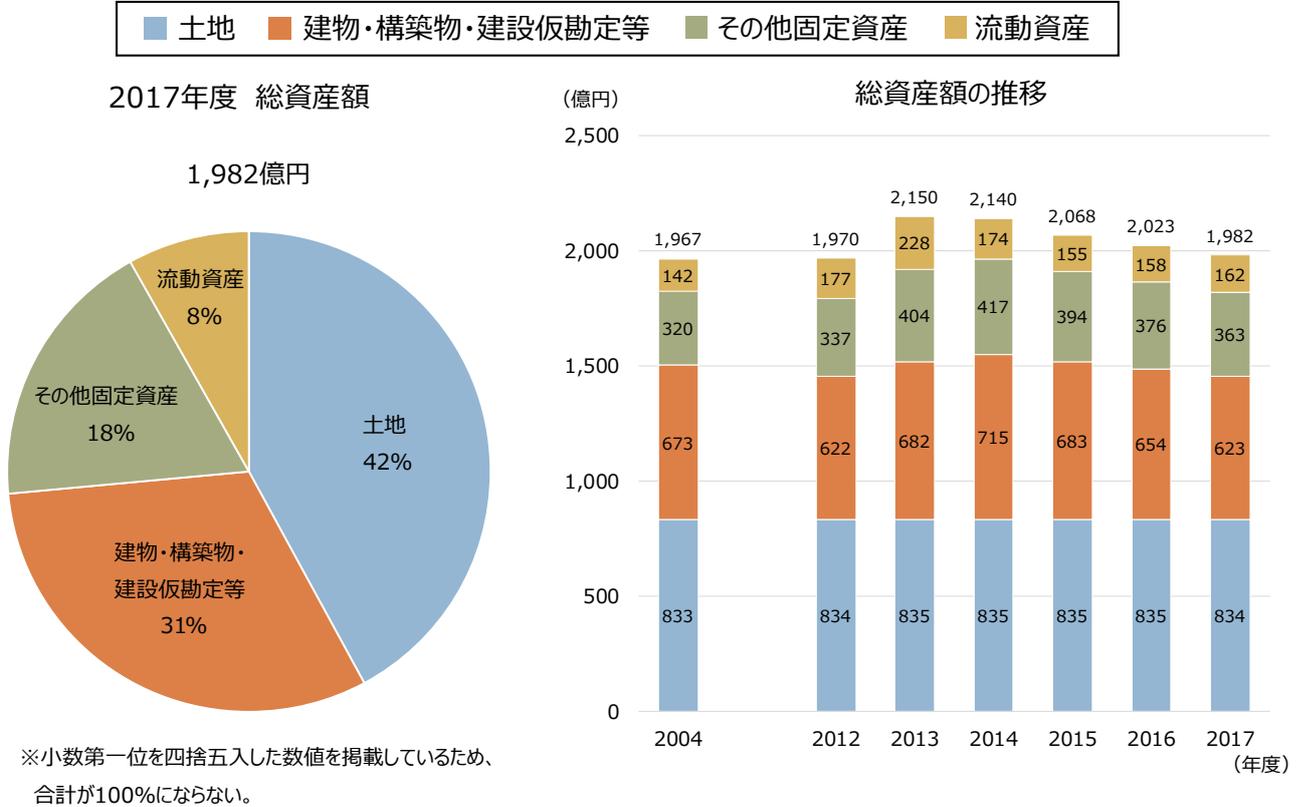
注）休職者を含む。

出典：文部科学省「学校基本調査」

29. 財務

29-1 貸借対照表の概要

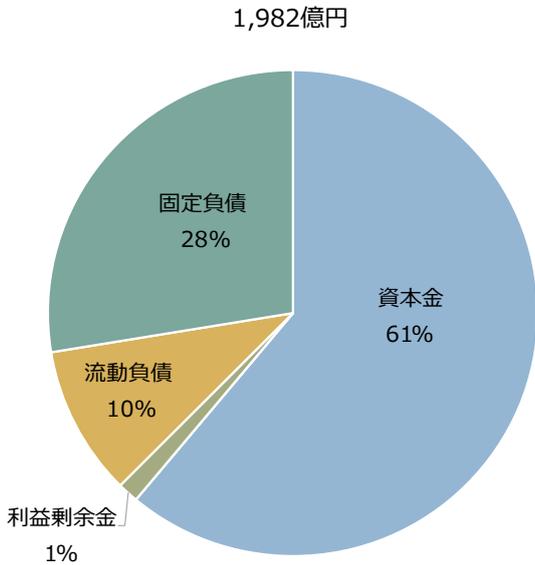
○ 土地・建物等が総資産に占める割合は約74%となっている。2004年度以降、新たな資産の取得があったものの、減価償却による簿価の減少に伴って、総資産額に大きな変動はない。



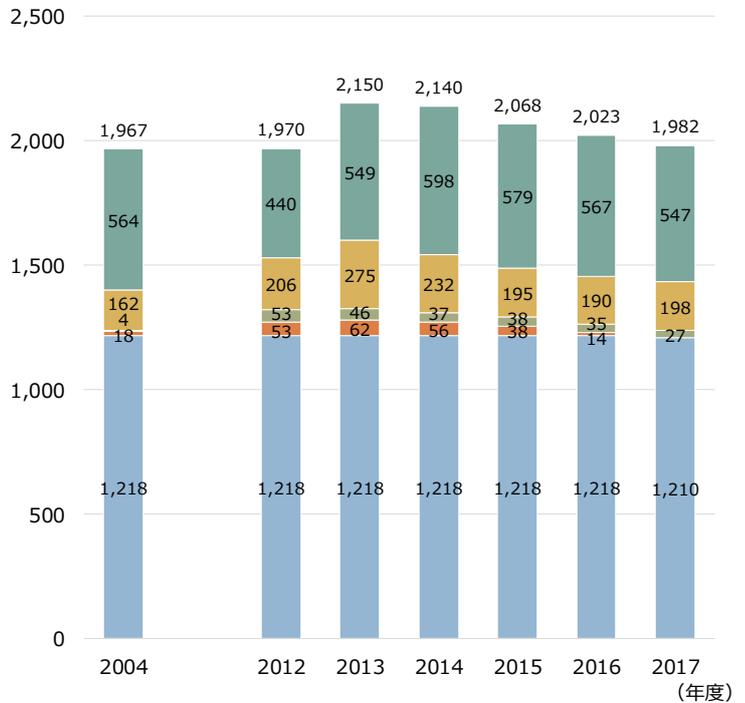
- 資本金は全額、国からの出資であり、法人化以降で大きな変動はない。
- 負債は2013年度に、学寮整備及び病院施設新営等のための借入金の増により増えた後、償還が進んでいる。

■ 資本金 ■ 資本剰余金 ■ 利益剰余金 ■ 流動負債 ■ 固定負債

2017年度 負債・純資産の内訳



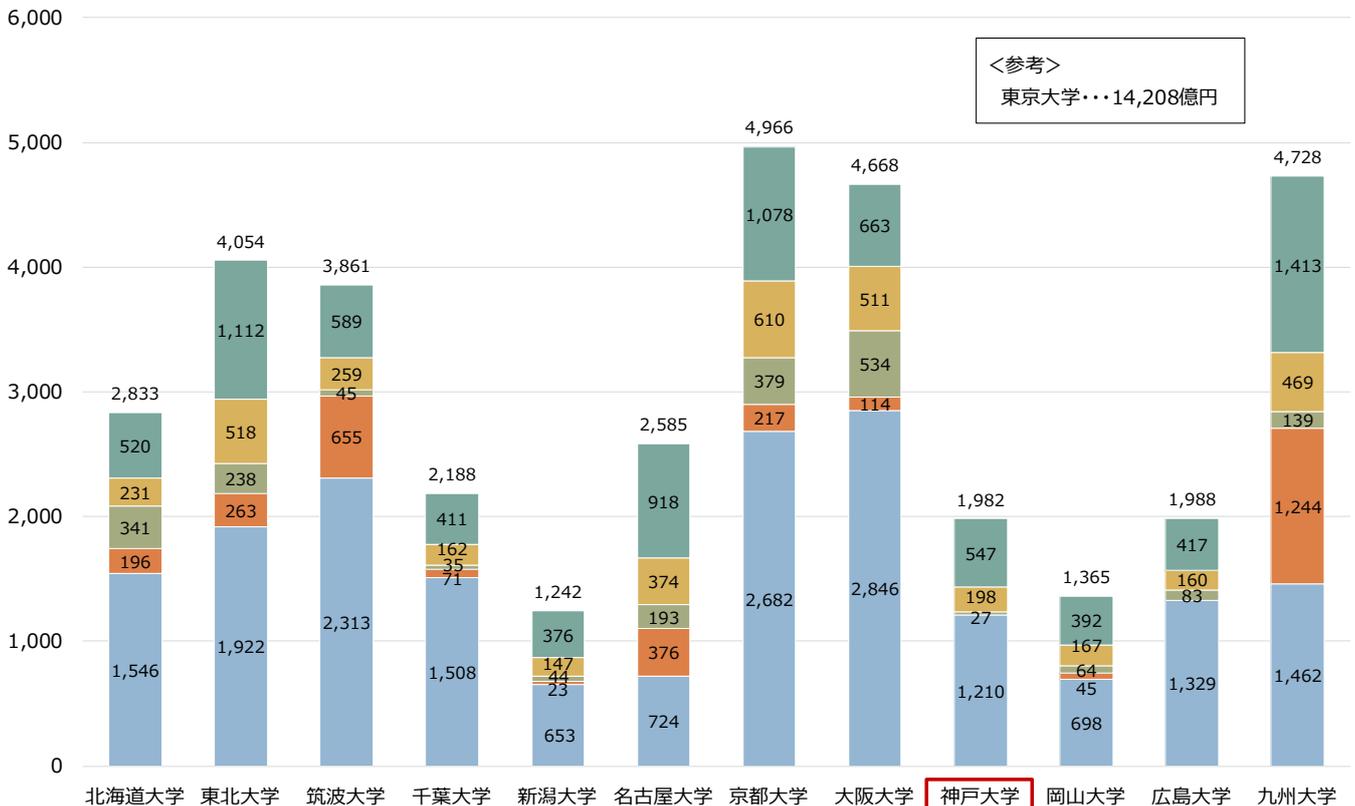
(億円) 負債・純資産額の推移



(億円)

13大学間の比較 (負債・純資産項目)

(2018年3月31日時点)



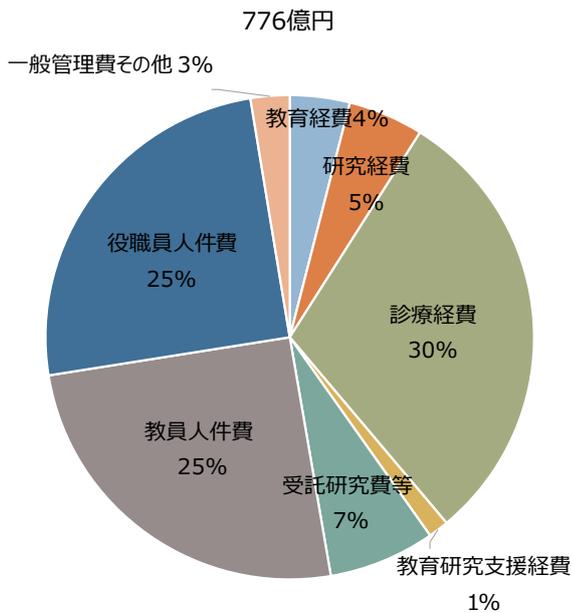
※資本剰余金がマイナスの大学は、グラフ上では資本金から除いて表示。

29-2 損益計算書の概要

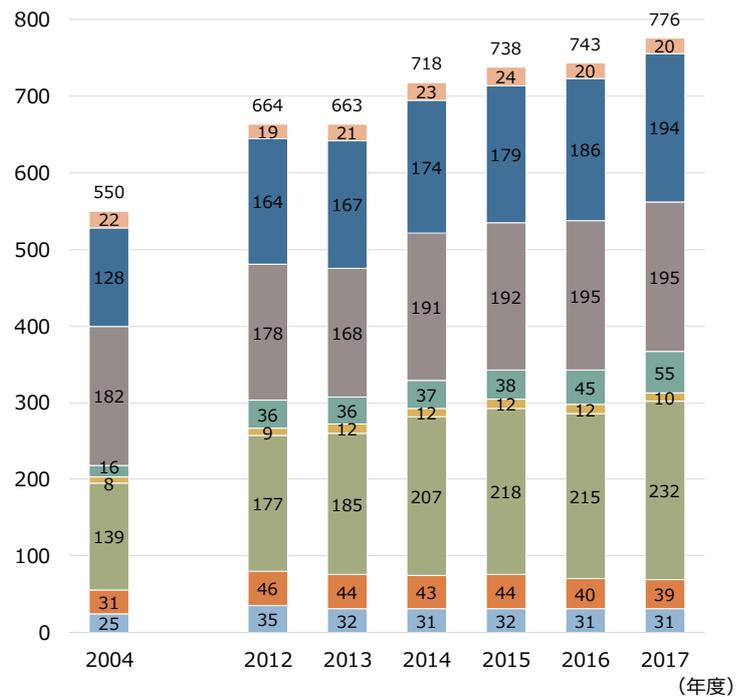
○ 2004年度と比較すると、附属病院収益の大幅な増加に伴い、診療経費の規模も大きく増加している。



2017年度経常費用の内訳



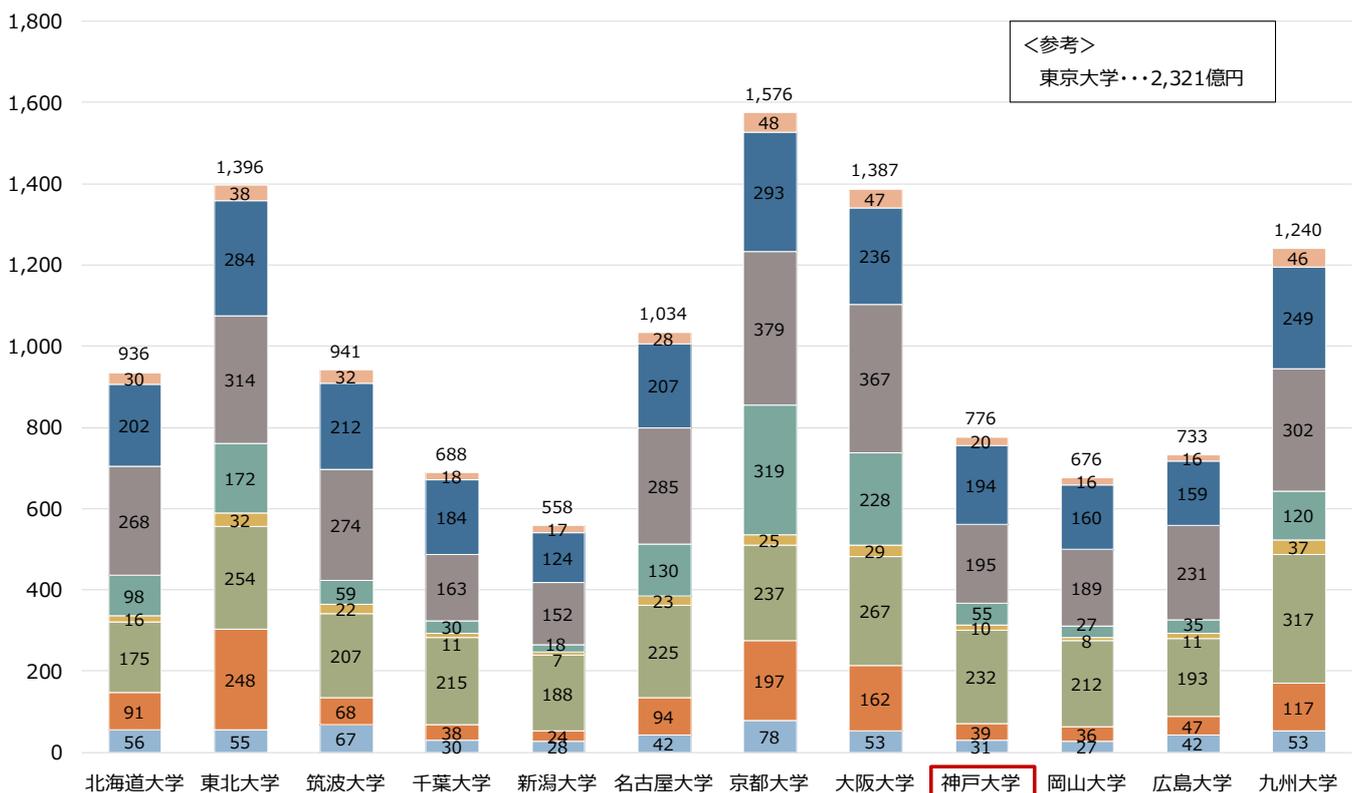
経常費用の推移 (億円)



(億円)

13大学間の比較 (経常費用)

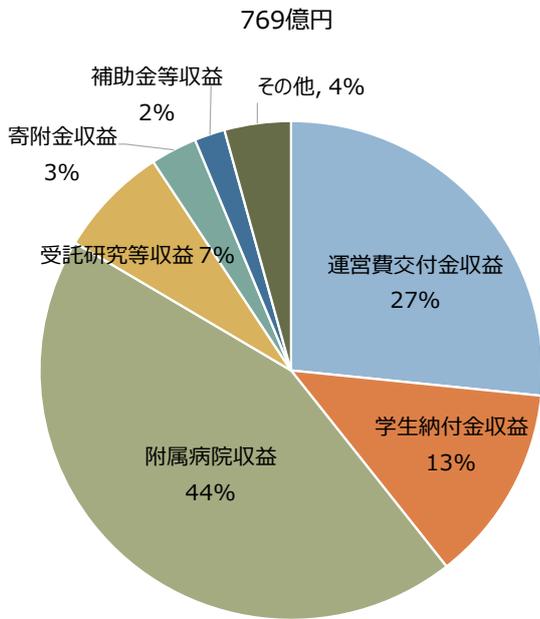
(2017年度)



○ 自己財源である附属病院収益や受託研究等収益が増加していることに伴い、経常収益の規模は2004年度に比して1.4倍以上に増加している。

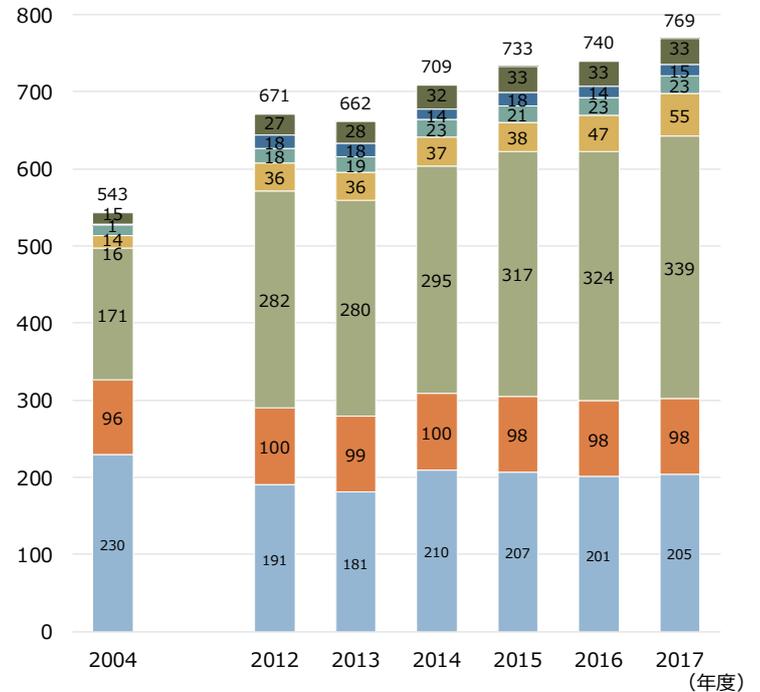


2017年度 経常収益の内訳



(億円)

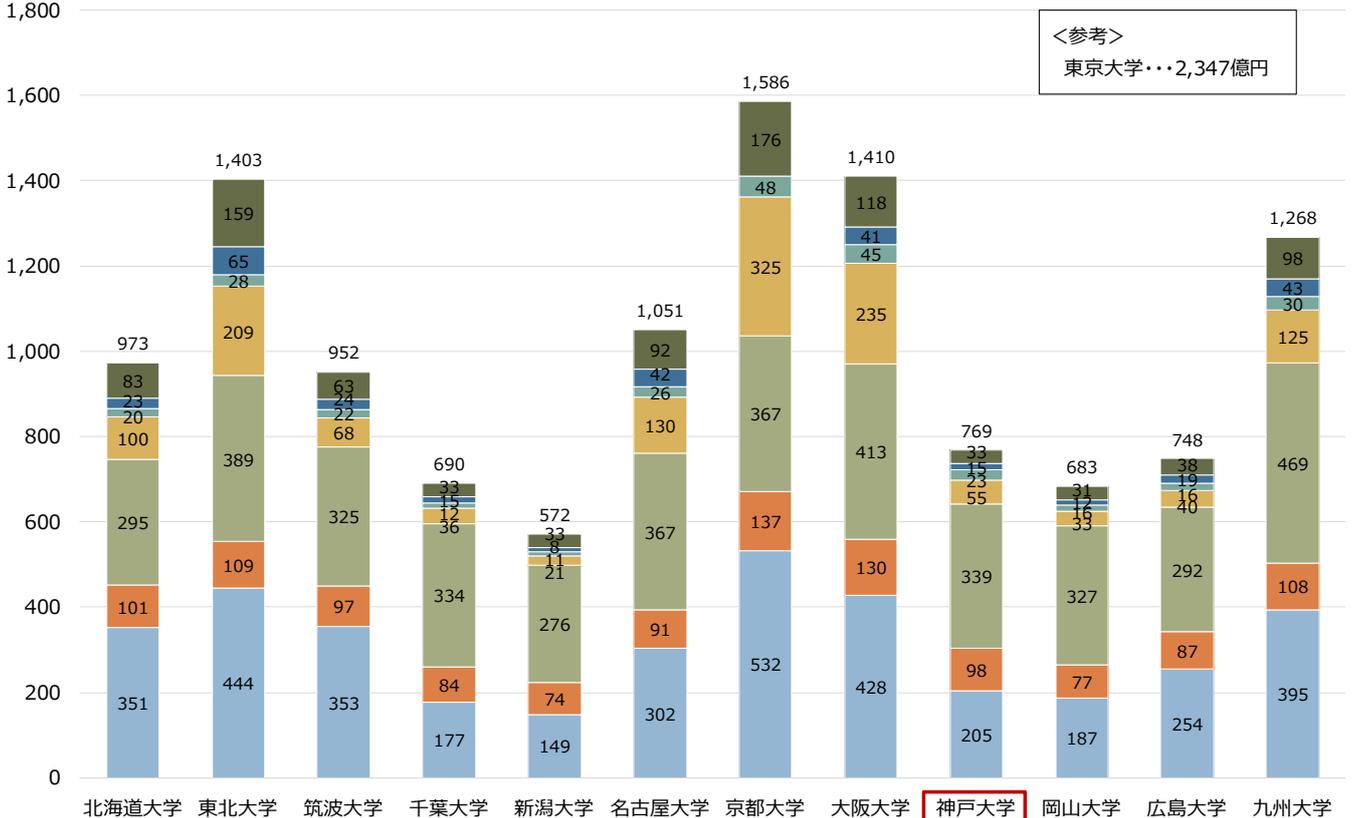
経常収益の推移



(億円)

13大学間の比較 (経常収益)

(2017年度)

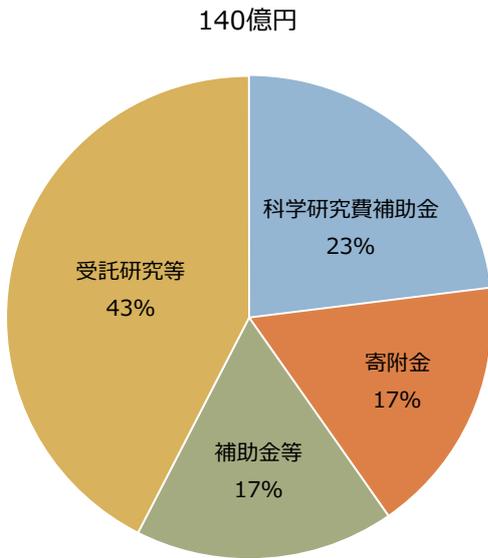


29-3 外部資金受入れ状況

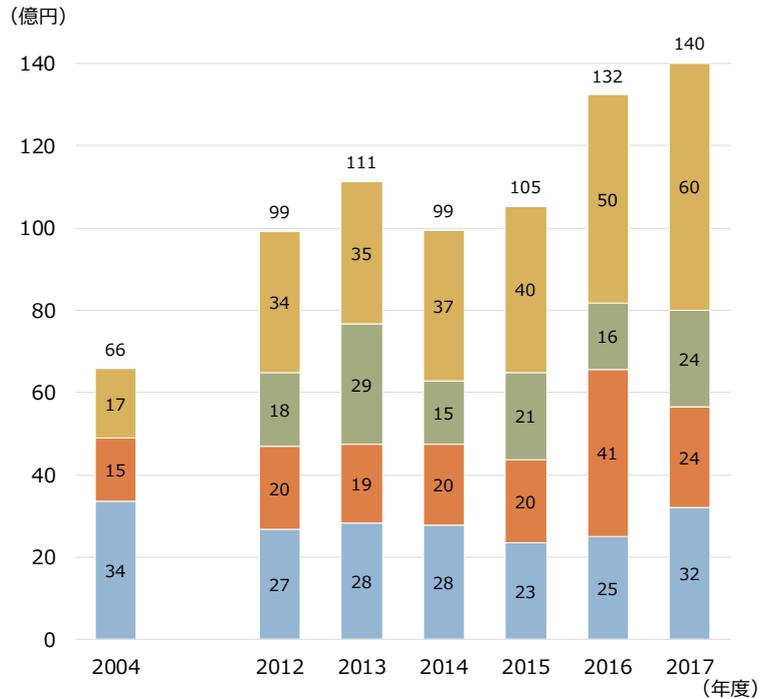
○ 外部資金の2017年度受入額は、2004年度と比較すると、約2.1倍に増加しており、特に受託研究等の増加が顕著となっている。

■ 科学研究費補助金 ■ 寄附金 ■ 補助金等 ■ 受託研究等

2017年度外部資金受入額の内訳

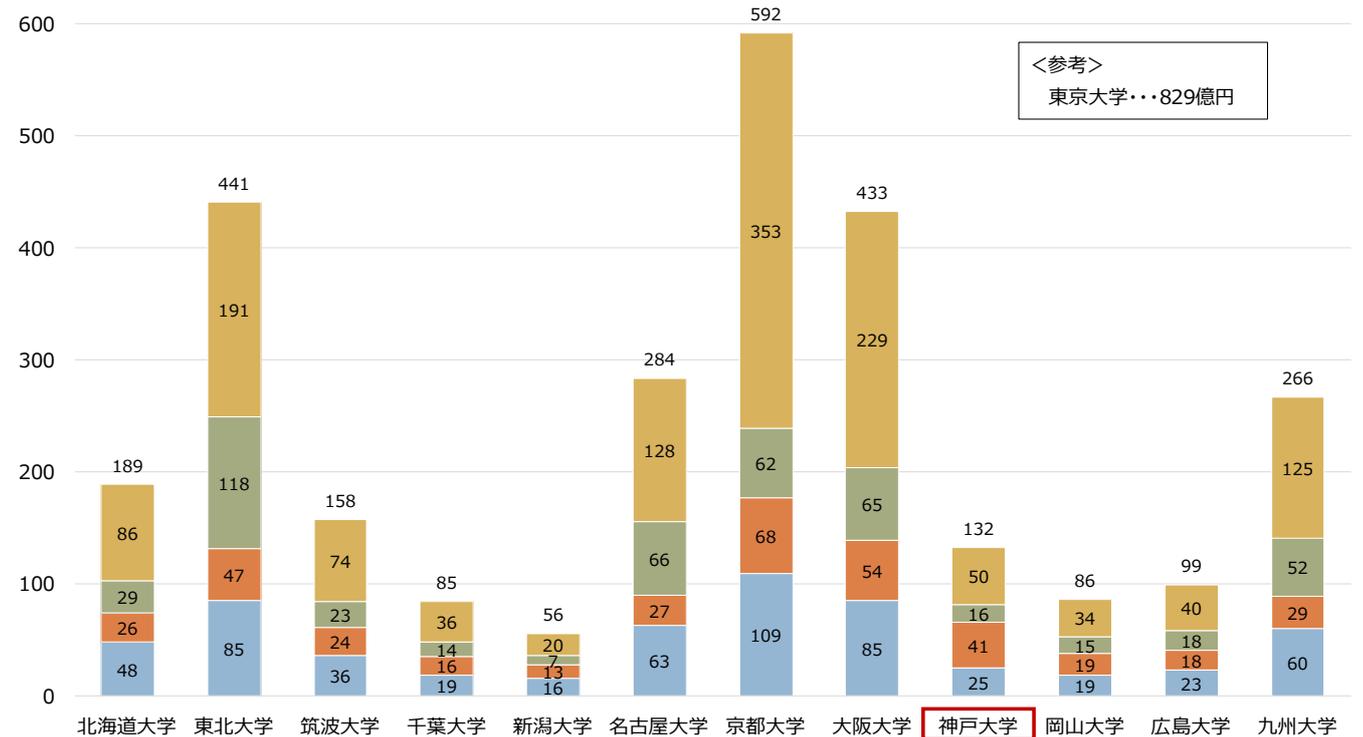


外部資金受入額の推移



※2016年度は国際がん医療・研究センター設立に伴う寄附金により、一時的に寄附金が増加している。

13大学間の比較 (外部資金受入額内訳) (2016年度)



<参考>
東京大学・・・829億円

29-4 補助金等による主な採択プログラム一覧

(単位：千円)

財務

事業・プログラム名/取組名	実施担当部局	研究代表者名	補助金 交付済総額	採択期間
イノベーションシステム整備事業・先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム				
バイオプロダクション次世代農工連携拠点	科学技術イノベーション 研究科	学長 (武田 廣)	3,285,442	2008～2018
感染症研究国際展開戦略プログラム				
インドネシアにおける新興・再興感染症の国際共同研究拠点形成	医学研究科	森 康子	997,682	2010～2019
研究大学強化促進事業				
URA機能の強化と活用、学術研究推進体制の機能強化	全学	全学	932,621	2013～2022
SIP (戦略的イノベーション創造プログラム) /革新的設計生産技術				
リアクティブ3Dプリンタによるテーラーメイドラバー製品の設計生産と社会経済的な価値共創に関する研究開発	学術研究推進機構 システム情報学研究所 工学研究科 経営学研究科	貝原 俊也	305,169	2014～2018
医療分野研究成果展開事業 (先端計測分析技術・機器開発プログラム)				
次世代乳癌スクリーニングのためのマイクロ波散乱場断面イメージングシステムの開発	理学研究科	木村 建次郎	188,120	2015～2018
大学教育再生加速プログラム (AP) テーⅣ 長期学外学修プログラム (ギャップイヤー)				
神戸グローバルチャレンジプログラム	全学 (学部対象)	全学 (学部対象)	52,691	2015～2019
地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)				
地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム	地域連携推進室	学長 (武田 廣)	134,560	2015～2019
世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム				
健康"生き活き"羅針盤リサーチコンプレックス	科学技術イノベーション 研究科	近藤 昭彦	94,900	2015～2019
「スーパーグローバルハイスクール」に関する研究開発				
地球安全保障への提言を目指す「グローバルキャリア人材育成神戸モデル」	附属中等教育学校	学長 (武田 廣)	26,399	2015～2019
植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発				
高生産性微生物創製に資する情報解析システムの開発	科学技術イノベーション 研究科	近藤 昭彦	730,175	2016～2018
植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発				
植物の生産性制御に係る共通基盤技術開発 ゲノム編集の国産技術基盤プラットフォームの確立	科学技術イノベーション 研究科	西田 敬二	96,493	2016～2018
IoT 推進のための横断技術開発プロジェクト				
Sensor-to-Cloud Security ～ビッグデータを守る革新的IoTセキュリティ基盤技術の研究開発	科学技術イノベーション 研究科	永田 真	76,984	2016～2018
原子力施設等防災対策等委託費 (火山影響評価に係る技術知見の整備) 事業				
海底カルデラ地下構造探査手法の検討	海洋底探査センター	巽 好幸	24,469	2016～2018
日本学術振興会研究拠点形成事業 - A. 先端拠点形成型 -				
日欧亜におけるコミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成	国際文化学研究所	坂井一成	33,390	2016～2020
大学の世界展開力強化事業				
～アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化～ (タイプA-① キャンパス・アジア (CA) 事業の推進) 東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家養成プログラム	国際協力研究科	陳 光輝	37,878	2016～2020
地球規模課題対応国際科学技術協力事業				
研究課題「ストライガ防除による食料安全保障と貧困克服」 研究題目「根寄生雑草の発芽機構および宿主抵抗性に着目した防除法の開発ならびに有用性の探索」	農学研究科	杉本 幸裕	41,496	2016～2021
ストライガ防除による食料安全保障と貧困克服	農学研究科	杉本 幸裕	33,000	2016～2022
Visegrad University Studies Grant (VUSG)				
Comparative Studies on Migration and Social Movements in V4 Countries, Japan and Asia ※V4 Countries : Visegrad (ヴィシエグラード) 4か国 = チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキア	人文学研究科	油井 清光	2,013	2017～2018
大学教育再生戦略推進費「多様なニーズに対応する「がん専門医療人材 (がんプロフェッショナル)」養成プラン」				
7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン	医学研究科	的崎 尚 (南 博信)	26,000	2017～2021
地域イノベーション・エコシステム形成プログラム				
バイオ経済を加速する革新技術：ゲノム編集・合成技術の事業化	科学技術イノベーション 研究科	学長 (武田 廣)	140,000	2017～2021

29-5 神戸大学基金

○ 2006年12月に設置された「神戸大学基金」は多くの支援を賜り、様々な分野において活用されているが、「一般基金」・「修学支援事業基金」の合計残高は減少しており、事業実施自体が難しい学生支援事業もある。



※寄附講座については、年度ごとの使い切りの予算のため残高に計上されない。

◆「大学全般基盤事業」・「修学支援事業」による学生への支援実績

国際化対応 【1,360万円】

- 海外留学・研修への派遣支援
協定校等への海外派遣助成、部局企画プログラム（留学・研修・海外ボランティア等）、大学院学生国際学会等派遣事業、神戸グローバルチャレンジプログラム
【利用者数 71名】
- 海外からの優秀な留学生の受入
【利用者数 延べ40名】

奨学金制度 【1,725万円】

- 「神戸大学基金」緊急奨学金
【支給者数 9名】
- 「神戸大学基金」奨学金
* 修学支援事業
対象：学部新1年次生
【支給者数 60名】

課外活動支援 【1,169万円】

(含ボランティア活動)

- 課外活動支援 団体／個人
【支援数 団体39件／個人4件】



オフショアセーリング部

「Student Yachting World Cup 2017」優勝

- 東日本大震災関連ボランティア活動支援
被災地へのボランティアバス派遣
【被災地派遣学生数 延べ83名／年間】

30. 附属図書館・その他一般開放施設

30-1 附属図書館

蔵書数	貸出冊数	入館者数
3,771,350冊	261,665冊	887,079人

2018年3月31日現在

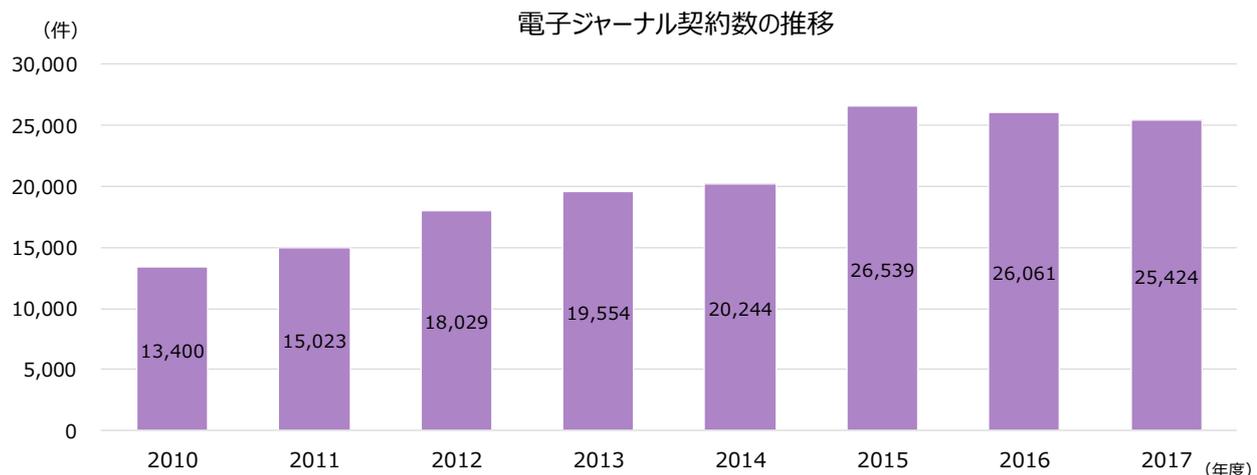
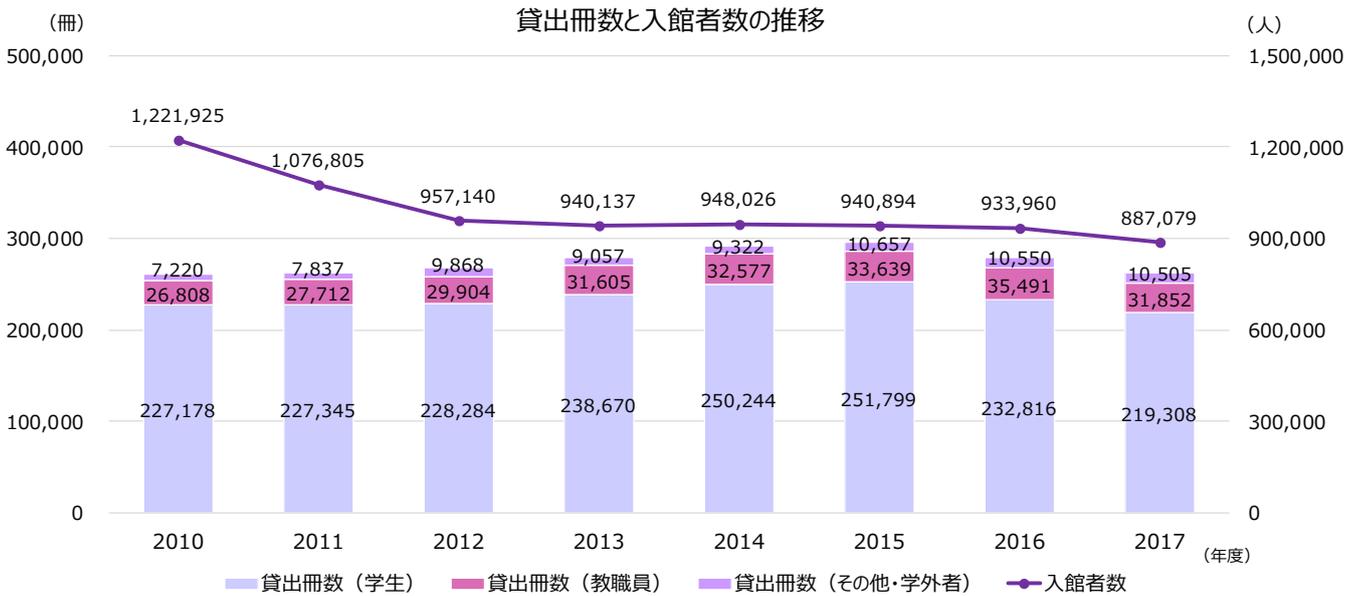
◆ 国立大学間での蔵書冊数の比較（2016年度）

順位	大学名	冊
1	東京大	9,577,261
2	京都大	7,006,456
3	九州大	4,284,885
4	東北大	4,109,574
5	北海道大	3,928,257
6	大阪大	3,862,560
7	神戸大	3,773,287
8	広島大	3,494,223
9	名古屋大	3,328,189
10	一橋大	2,697,869
11	筑波大	2,662,306
12	岡山大	2,056,041

学内4つのキャンパスに9つの館室を配置し教育研究支援を展開している。また、地域・社会との連携協力の一環として、2004年度より毎年資料展を実施している。2017年度は資料展「近代神戸の航路をたどる～開港150年を迎えて～」を開催。



出典：朝日新聞出版「大学ランキング2019年版」
※データ集計時点の違いにより2017年度末時点の値とは異なる。



30-2 その他一般開放施設



◆大学文書史料室 (2017年度来場者数：3,360人(常設展のみ))

特定歴史公文書等その他本学の歴史に係る資料を保存するとともに、一般の利用に供することを目的とする施設。

神戸大学の110年を超える伝統ある歴史を貴重な歴史資料や写真等で振り返ることができる展示を実施。

常設の展示会だけでなく、年1回の特別展や東京等での巡回展も開催。



◆海事博物館 (2017年度来館者数：2,141人)

海事に関する資料を幅広く収集展示して教育研究の資に供し、あわせて海事の啓発に寄与することを目的とする施設で、和船模型と和船の部分実物や航路図、近代から現代の船舶模型や近代の航海用具、進水式絵葉書、寄贈コレクションや書籍など約3万点を収蔵する。

毎週、月・水・金の午後に開館。



◆山口誓子記念館 (2017年度利用者数：671人)

近代俳句に大きな足跡を残した山口誓子氏の居宅の母屋をほぼ忠実に復元した施設。俳句俳諧文学を中心とする国文学研究の振興や海外との学术交流等に広く寄与することを目的とし、句会や茶会などにも利用できる。



神戸大学企画部企画課

2018年9月作成

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

TEL (078) 803-5031